

2013

あ い ち

食 育

い き い き

レ ポ ー ト

平成25年6月
愛知県食育推進会議

目次

I 「あいち食育いきいきプラン2015」について	1
II 特集 若い世代に向けた情報発信や若い世代との連携による食育推進の事例紹介	
1 あいち食育研究所（食育らぼ） 愛知県から日本を健康にせよ！ [愛知県]	3
2 若手職員によるバランスランチ新メニュー考案 [大学生協東海事業連合会]	5
3 産学官連携事業「朝食のすすめ」 [安城市健康づくり食生活改善協議会]	7
III 県内の取組事例	
1 食を通じて健康な体をつくるために	9
2 食を通じて豊かな心を育むために	39
3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	89
4 食育を支える取組	114
IV まとめ	135

マークの説明



は、健康な体



は、環境に優しい暮らし



は、豊かな心



は、食育を支える取組

を表現しています。

県内の取組事例で紹介した取組一覧

1 食を通じて健康な体をつくるために

(1) バランスのとれた規則正しい食生活の実践

- ◆ バランス良くたべることの大切さを食育劇で伝えます [愛知県] …… 9
- ◆ 平成24年度学校給食教室 [公益財団法人 愛知県学校給食会] …… 10
- ◆ 食育講演会の開催 [愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会] …… 11
- ◆ 学校の給食はおいしいかな?! [半田市立宮池幼稚園] …… 12
- ◆ 食育を親子で学ぶ「ぱくぱく教室」 [豊田市立童子山こども園] …… 13
- ◆ もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト及び食育講演会 [社団法人 愛知県歯科医師会] …… 14
- ◆ 食育出前講座「食まるファイブ エプロンシアター」 [東海市健康づくり食生活改善協議会] …… 15
- ◆ シニアの料理教室 [尾張旭市健康づくり食生活改善協議会] …… 16
- ◆ パクパク食育教室 [一宮市] …… 17
- ◆ 瀬戸市子ども食育シンポジウム [瀬戸市] …… 18
- ◆ 親子で元気まる [尾張旭市] …… 19
- ◆ 学校給食試食会 [尾張旭市] …… 20
- ◆ 清須市立古城小学校 食育の伝え方 [清須市] …… 21
- ◆ 食まるファイブを使った食育活動 「好き嫌いをせずなんでも食べよう」 [津島市] …… 22
- ◆ 男子! 自立クッキング [愛西市] …… 23
- ◆ 小学校における食に関する指導「朝食に野菜を取り入れよう」 [弥富市] …… 24
- ◆ 大好評! 男性の料理教室 [美浜町] …… 25
- ◆ 食育の日「たべまるのうた♪」発表会の開催 [豊田市] …… 26
- ◆ 親子健康講座「わくわく親子クッキング」 [豊橋市] …… 27

(2) 生活習慣病や過度な痩身等の予防

- ◆ 親子教室「おやつづくりで栄養指導」 [愛知県国公立幼稚園長会] …… 28
- ◆ 子どもの肥満予防等の推進 [犬山市立犬山幼稚園] …… 29
- ◆ 虫歯や歯肉炎を予防する環境づくりのために [半田市立花園幼稚園] …… 30

◆ 歯みがき指導 [名古屋市立神の倉幼稚園]	31
◆ よい子の歯みがき運動・E 6 保護育成事業 [碧南市立棚尾幼稚園]	32
◆ 企業と連携 いい歯の健康相談 [社団法人 愛知県歯科医師会]	33
◆ やせ願望の落とし穴にストップ!」 ―食べて美しく…実践編―開催 [公益社団法人 愛知県栄養士会]	34
◆ 健康応援情報提供事業 (食生活応援メニューの提供) [東海市]	35
◆ 飲食店と連携したメニューの提供と情報提供 [東海市]	36
(3) 食の安全に関する信頼の構築	
◆ 夏休みに親子で工場見学 「見て! 聞いて!!安全でおいしい飲みものができるまで」の開催 [愛知県]	37
◆ 大学教授等による食育事業講演会 [尾張旭市]	38

2 食を通じて豊かな心を育むために

(1) 食を楽しむゆとりの確保	
◆ 「今日の給食、なあに?」 [清須市立西枇杷島第 1 幼稚園]	39
◆ 園児と調理員さんの交流が盛んです [東海市立東山保育園]	40
◆ 家族や仲間と食べる楽しさ宣伝部 [名古屋市内山保育園]	41
◆ すこやかクッキング ～3 世代で挑戦～ [瀬戸市健康づくり食生活改善協議会]	42
◆ コープひろば「食生活」 [生活協同組合コープあいち]	43
◆ たべる*たいせつキッズクラブ [生活協同組合コープあいち]	44
◆ 「家族とつくりたい元気が出るヘルシー朝ごはん」メニューを募集 [尾張旭市]	45
◆ 「家族でつくって食べよう! 元気もりもり朝ごはん」メニューを ランチとして提供 [尾張旭市]	46
◆ 野菜スープを作りました [尾張旭市]	47
◆ 食の専門家 (給食委託業者等) による食育事業講演会 [尾張旭市]	48
◆ 親子料理教室 (夏休み親子給食作り体験) [尾張旭市]	49
◆ 就学前児童の給食センター見学会 [尾張旭市]	50

◆ 給食献立募集 [尾張旭市]	51
(2) 体験や交流を通じた食の理解促進	
◆ 「魚食の伝道師」を小学校に派遣 [愛知県]	52
◆ 子ども達の稚魚放流体験 [愛知県]	53
◆ 平成24年度学校給食調理コンクール [公益財団法人 愛知県学校給食会]	54
◆ 地域の人々と触れ合いながら収穫 [名古屋市立桶狭間幼稚園]	55
◆ みんなで餅つき [名古屋市立春田幼稚園]	56
◆ 親子うどん教室開催「ふれあいの中での食育」[知多市立東部幼稚園]	57
◆ 「おいもパーティーをしました。ほらせてくれてありがとう」[名古屋市立二城幼稚園]	58
◆ みんなでおやつ作り『お芋で茶きん絞り』[名古屋市立報徳幼稚園]	59
◆ もしもにそなえて、お父さんと非常食を作ってみよう！ [公益社団法人 愛知県栄養士会]	60
◆ 知っ得！なっ得！Summer festa in こざかい児童館 [生活協同組合コープあいち]	61
◆ 消費者と生産者の交流が貴重な食育の場となっています [生活協同組合コープあいち]	62
◆ 親子食育連続企画「くいしんぼひろば」 [生活協同組合コープあいち]	63
◆ 愛知県産加工用トマトの収穫体験、ケチャップづくり [生活協同組合コープあいち]	64
◆ P T Aが「お米守り隊」結成 [瀬戸市]	65
◆ 親子で学ぶ農業塾 [瀬戸市]	66
◆ 食育体験教室 [春日井市]	67
◆ 親子料理教室「魚を食べよう」[江南市]	68
◆ 小学校家庭科調理実習サポート事業 [小牧市]	69
◆ 今年はとれたよ！大きなお芋！ [岩倉市北部保育園]	70
◆ 給食センター施設見学と給食試食会 [長久手市]	71
◆ 児童体験農業 [半田市]	72
◆ こども料理コンクール ビストロおぶちゃん [大府市]	73
◆ 『最強のしょくまるカレー』コンテストを開催 [刈谷市]	74
◆ だいでプロジェクト [特定非営利活動法人 だいできつず]	75

◆ さつまいもの苗さし会、収穫体験 [みよし市]	76
(3) 食文化や食事作法等の理解と継承	
◆ 少年水産教室 [愛知県]	77
◆ 給食で年中行事を楽しもう [刈谷市立小垣江幼稚園]	78
◆ 箸の持ち方わかったよ！おうちの人と一緒に給食を食べよう！[阿久比町立ほくぶ幼稚園]	79
◆ 親子給食会 [刈谷市立井ヶ谷幼稚園]	80
◆ 手作り弁当で 箸の使い方を一人一人丁寧に [名古屋市立おりべ幼稚園]	81
◆ 地域の自然の中で [新城市立八名幼稚園]	82
◆ 愛知の郷土料理や地場産の野菜を使った給食 おいしいね！ [津島市立津島幼稚園]	83
◆ 栄養教諭・学校栄養職員を対象とした食農教育研修会 [愛知県農業協同組合中央会]	84
◆ ふれあい給食「愛知を食べる学校給食の日」[尾張旭市]	85
◆ 学校給食への地場産野菜の供給 [長久手市、長久手給食食材生産会]	86
◆ 愛知を食べる学校給食の日 [長久手市]	87
◆ 学校給食への地場産物の活用 [長久手市]	88

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

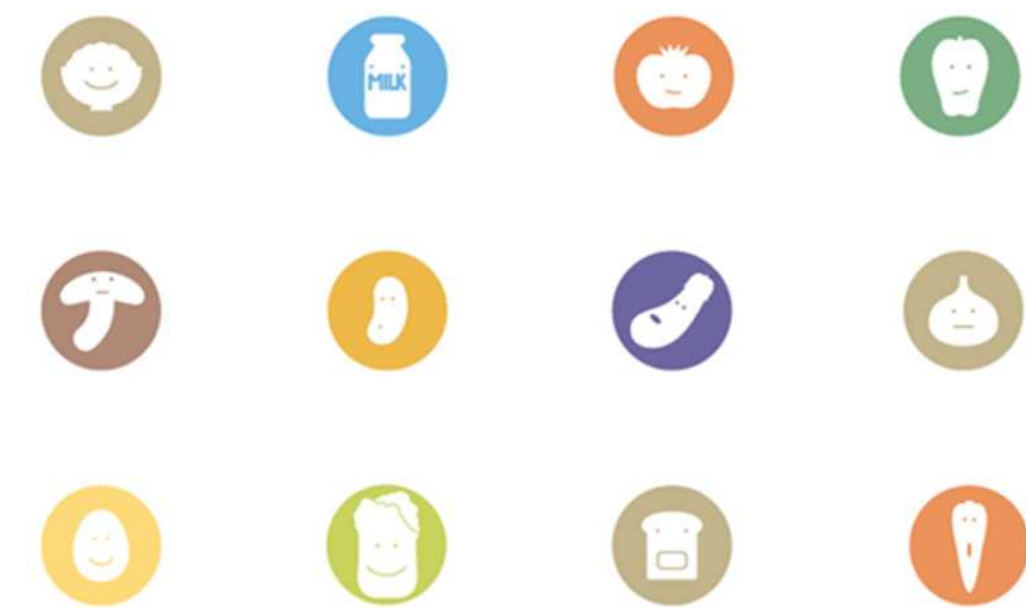
(1) 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践	
◆ 「この野菜はなあに？」クイズで野菜が大好きに！ [安城市立さくの幼稚園]	89
◆ 「残さずたべよう もったいない！」 [岡崎市立矢作幼稚園]	90
◆ レストランでお食事 [常滑市立常滑幼稚園]	91
(2) 農林水産業への理解と地産地消の一層の促進	
◆ 県産品に込めた生産者の思いを消費者に伝える取組を支援しました [愛知県]	92
◆ 愛知産ジビエの消費拡大に向けて [愛知県]	93
◆ 愛知県茶会の開催 [愛知県]	94
◆ 漬物創作料理の試食を行いました！ [愛知県]	95
◆ 守口大根（レプリカ）と記念撮影を行いました！ [(公社) 愛知県漬物協会]	96
◆ 生産者によるあいち産いちじくの消費宣伝活動 [愛知県果樹振興会 始め3団体]	97

◆ 生産者によるあいち産かんきつの消費宣伝活動 [愛知県、愛知県果樹振興会]	98
◆ あいちの魚ジャンボカルタ大会 [愛知県]	99
◆ 水産試験場公開デー [愛知県]	100
◆ 「あいちの四季の魚」啓発普及活動 [愛知県]	101
◆ 漁業者による魚食普及活動 [愛知県漁業士連絡協議会 他]	102
◆ 「あいちの農林水産フェア」で地産地消・食育をPR[あいちの農林水産フェア実行委員会]...	103
◆ 愛知県知事の名刺を使った農林水産物のPR 牛乳編 [愛知県酪農農業協同組合]	104
◆ 親子で作る米粉ピザ教室 [尾張旭市]	105
◆ 豊明をおいしく食べよう [豊明市]	106
◆ 小学生料理教室 [長久手市]	107
◆ 生産者が教える地元農産物を使った料理教室 [知多市]	108
◆ 地元農畜産物を利用した加工品講座 [南知多町]	109
◆ イチジク料理講習会 [碧南市地産地消推進協議会]	110
◆ あさりを使ったアイデア料理コンテストを開催 [西尾市]	111
◆ 食育推進紙芝居の読み聞かせ [新城市食育推進実行委員会]	112
(3) 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底	
◆ 自給飼料活用畜産物の普及拡大に向けて [愛知県]	113

4 食育を支える取組

(1) 食育にかかる人材の育成と活動の充実	
◆ 食育推進ボランティア研修会の開催 [愛知県]	114
◆ 海部地域食育推進ボランティア交流会を開催 [愛知県]	115
◆ あいち食育いきいき検定2012を実施しました [愛知県]	116
◆ 食育教材「あいちの食育マップ」制作 [公益財団法人 愛知県学校給食会]	117
◆ みんなで作って食べるとおいしいね	
「お母さんいつもありがとう」 [半田市立半田幼稚園]	118
◆ 農業経営士が食による心と体のケアを学ぶ [愛知県農業経営士協会]	119

◆ 輝きネット・あいちの技人認定式を開催 [農村輝きネット・あいち]	120
◆ 農とくらしの研究発表大会2013の開催 [農村輝きネット・あいち]	121
◆ わかりやすい健康情報に関する学習会 [愛知消費者協会]	122
◆ 竹下和男氏講演会“弁当の日”が家族を救う！ [生活協同組合コープあいち]	123
◆ 市場まつり等のイベントを活用した食育の普及啓発 [名古屋市]	124
(2) 関係者の役割分担とネットワークの充実	
◆ 食育番組制作「レッツ食育」[愛知県]	125
◆ 食育推進ボランティアが展示物作成・イベントで展示し食育啓発 [愛知県]	126
◆ 親子バター作り教室 [愛知県酪農農業協同組合]	127
◆ 親子農業塾で食育活動を実施 [あいち尾東農業協同組合]	128
◆ 事業者・団体との食育推進協働事業 [岡崎市]	129
◆ 農家さんとコープあいちが食育企画で連携 [知立市]	130
◆ 美術館・図書館・レストランが食育で連携 [高浜市]	131
◆ 食農体験講座「*おとわ de 米体験*」[豊川市]	132
(3) いいともあいち運動の推進	
◆ いいともあいち運動の認知度の向上に向けた取組 [愛知県]	133
◆ 平成24年度「農商工連携ビジネスフェア」の開催 [愛知県]	134



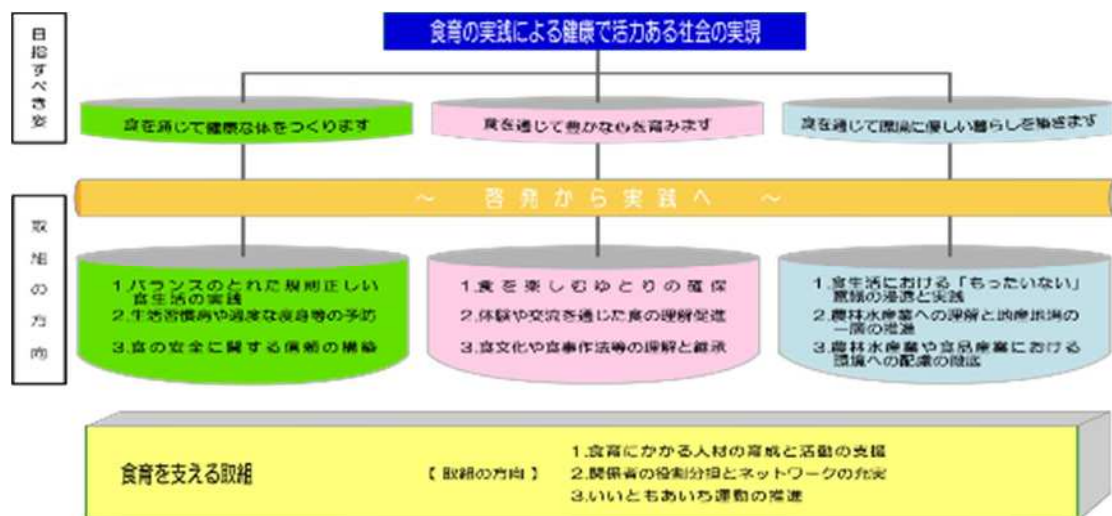
I 「あいち食育いきいきプラン2015」について



「あいち食育いきいきプラン2015」は、食育基本法に基づき、愛知県食育推進会議が第1次食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン」の基本理念や成果を継承しつつ、更に食育を推進するための、次のステップとして平成23年5月に作成した愛知県の第2次食育推進計画です。

1 目指すべき姿と基本コンセプト

- このプランでは、前プランからの本県の特色である「体」、「心」、「環境」に着目した食育を継承することにより、健康で活力ある社会の実現を目指します。
- 規則正しい食生活の実践などにより「健康な体をつくる」ことはもとより、感謝の気持ちや食を大切に作る心といった「豊かな心を育む」こと、食べ残しや食品の廃棄量を減らすなどの「環境に優しい暮らしを築く」ことを基本としています。
- 前プランの様々な取組により高まった県民の関心をさらに高めるとともに、次のステップとして、「啓発から実践へ」を基本コンセプトとし、県民一人ひとりの食育の実践を関係者が支援して、県民が主体的に実践する取組へとつなげていきます。



2 取組の特徴

- あらゆる世代の県民が生涯にわたって健全な食生活を送れるためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。このため、乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージと生活場面に応じた切れ目ない食育を進めます。
- また、食育に関する取組の実効性を高めるため、様々な関係者が、その役割と特性を生かしつつ、密接に連携・協力して、県民運動として食育を展開します。



3 県や関係団体等の取組

食育の推進について、県や関係団体等は、あいちの食育が目指す3つの方向に則して、ライフステージと生活場面に応じ、それぞれの役割と特性を生かしつつ連携・協力して、継続的に情報提供や実践促進活動を行っていきます。

以下では、取組を働きかける生活場面を下記のとおり表示

保幼	学校	職場	地域	レポート報告数
保幼	学校	学校	地域	その他
学校	小学校-大学	地域	その他	その他

■取組の体系

取組の方向		取組項目	保幼	学校	職場	地域	レポート報告数
食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践	ア 乳幼児期における基本的な食習慣の確立	●			●	20
		イ 学校における小中学生への食に関する指導の充実		●			
		ウ 小中学生の食育のための家庭への支援		●		●	
		エ 高校における食育の充実		●			
		オ 青年期以降における健全な食生活の実践の支援		●	●	●	
		カ 「妊産婦のための食生活指針」の推進				●	
		キ 高齢期における食による健康維持の推進				●	
	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防	ア 子どもの肥満予防等の推進	●	●			9
		イ 歯の大切さについての子どもへの啓発活動の推進	●	●			
ウ 思春期からの過度な痩身の予防対策			●				
エ 職場での健康診断等に基づく食生活改善の推進				●			
オ 地域における健康づくりの推進					●		
3 食の安全に関する信頼の構築	ア 食品表示の適正化や栄養成分表示の推進				●	2	
	イ 食の安全に関する情報提供や意見交換		●				
	ウ 安全に関する自主管理と情報開示の促進				●		
	エ 食品と医薬品との相互作用に対する普及啓発				●		
食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保	ア 給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成	●	●			13
		イ “おうちでごはんの日”の実践促進			●	●	
		ウ 高齢者の孤食対策等				●	
	2 体験や交流を通じた食の理解促進	ア 乳幼児期における食とのふれあい機会の確保	●			●	25
		イ 少年期における食に関する体験等の充実		●		●	
		ウ 幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供				●	
	3 食文化や食事作法等の理解と継承	ア 子どもに対する食事作法の習得や食の多様性の理解	●	●		●	12
		イ 給食における地場産物や郷土料理等の導入促進	●	●			
		ウ 伝統料理、郷土料理等の提供促進と継承		●	●	●	
エ 高齢者による食事作法や食文化の地域内継承					●		
食暮らしを築くために優しい	1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践	ア 子どもに対する環境負荷軽減の学習	●	●		●	3
		イ 環境に配慮した食生活の実践				●	
		ウ 外食時における食べ残し減量策の促進				●	
	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進	ア 生物多様性の保全など農林水産業の役割への理解促進		●		●	21
		イ 子どもに対する地産地消の理解と利用の促進		●			
		ウ 青年期以降における地産地消の実践		●	●	●	
		エ 生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実現				●	
	3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底	ア 農林水産業における環境への配慮とバイオマスの利活用				●	1
		イ 食品関連事業者における食品廃棄物の削減				●	
食育を支える取組	1 食育にかかると人材の育成と活動の充実	ア 保育・教育機関における推進体制の充実	●	●			11
		イ 社会人を対象とした推進体制の充実			●	●	
		ウ 愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の充実				●	
		エ 食育に係る多様な人材の育成と活動の促進				●	
		オ 食育推進資材の作成や調査・検定の実施				●	
	2 関係者の役割分担とネットワークの充実	ア 地域食育推進支援会議の開催				●	10
		イ 地域の活動主体同士の連携企画の促進		●		●	
		ウ 既存のネットワークを活用した関係者間の情報共有				●	
		エ 食育に関する情報発信の充実				●	
	3 いいともあいち運動の推進	ア 運動の認知度の向上				●	2
		イ 協働活動の充実				●	
		ウ 県産農林水産物の利用拡大			●		

Ⅱ 特集

あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに健康で豊かに暮らすためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。しかし、特に20代～30代の若い世代については、朝食の欠食や栄養バランスの取れていない食事が目立つ状況にあります。

そこで、若い世代に向けた情報発信や若い世代と連携した取組を特集として紹介します。

あいち食育研究所（食育らぼ） 愛知から日本を健康にせよ！

— 食育実践・情報発信事業（緊急雇用創出事業基金事業） —

取組主体： 愛知県

実施時期： 平成24年11月～平成25年1月 **実施場所：** 県内

対象及び参加人数： 20代から30代の若い世代を中心とした県民

[取組の目的]

「食」の大切さの理解を深め、食育実践を促すことを目的とし、栄養の偏りや食習慣の乱れ等、食生活をめぐる課題を抱える若い世代に対して情報発信を行いました。

[取組の内容]

3ヶ月限定で「あいち食育研究所」、愛称「食育らぼ」をウェブサイト上に設立し、公募で選ばれた20代～30代の研究員が、県内の食育の取組や若い世代の食に関する考えについて情報を集めるとともに、自らも主体的な食育実践（イベント参加、施設見学、調理）にチャレンジしました。

そして、得た情報や実践の過程・効果をホームページ、ツイッター、フェイスブック等で発信しました。

[取組のポイント]

対象とする若い世代と同じ目線で情報発信するため、実際に同世代の研究員が活動しました。

情報発信では、親しみやすい文章や手書きのイラスト、写真、映像等を用い、研究員が食育活動に取り組む過程で感じた疑問や発見などを通じて、「食育」が身近なものであることを伝えました。

なお、情報発信のツールには、若い世代に利用が広がっているインターネットを積極的に活用し、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、動画コミュニティの生放送などにより、若い世代が手軽に情報を得られるようにしました。

[取組の成果]

ツイッターやフェイスブックには、日頃の食生活に対する感想、疑問など様々な意見が寄せられ、県内を中心とした若い世代に発信することができました。（ツイート数：2,450件、フォロワー数1,120件）

また、研究員の活動をまとめたノウハウ集『きょう、なに食べる？』を作成し、県の食育ポータルサイト「食育ネットあいち」（<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>）に掲載しました。

食らほ研究员：公募で選ばれた研究员（若い世代）



研究员が県内の食に関するイベントに参加、施設を見学、調理などの活動を実践

イベント参加、研究



施設見学



調理・実践



研究员の活動の様子を若い世代に向けて情報発



ホームページ



ツイッター



フェイスブック



ニコニコ生放送

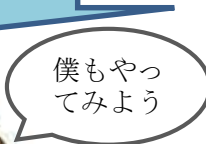


テレビ放送



ノウハウ集

若い世代の食育実践・・・



【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

若手職員によるバランスランチ新メニュー考案

取組主体: 大学生協東海事業連合

連携団体: 大学生協東海事業連合

実施時期: 平成 24 年 11 月～

実施場所: 各大学生協食堂

対象及び参加人数: 大学生協若手食堂職員 (6 名)

[取組の目的]

メニューを考案する上で大切にすべきことを学ぶ目的として、大学生協の食堂で働く若手職員 (1-5 年次) 対象に東海地区の大学生協食堂店舗の多くで実施している「バランスランチ」のメニュー考案会を行いました。(平成 24 年 11 月上旬に合宿形式で実施)

[取組の内容]

メニューを作る上で「大切にすべきこと」に加えて、食育の実践として「バランスランチ」に限定してメニュー考案会を行いました。

「バランスランチ」というのは、1 食で 1 日に必要な食事量と栄養素の約 1/2～1/3 が摂取できるメニューの事で、東海地区の大学生協食堂店舗で 2008 年 9 月から提供をしています。

<http://www.univcoop-tokai.jp/food/goodbrance.html>

今回は、若手職員同士の学び合いの位置づけから、参加者には事前に複数メニューを考えてきてもらい、皆に発表した後に厨房で調理をして参加者同士で品評し合いました。「どうしたら野菜を補えるのか」「もっと美味しそうに見えるにはどうしたらよいか」などと活発な意見交流がされました。

最終的には、1 月からの新メニューとして 3 品を提供することになりました。また、1 月に提供できなかったメニューは 4 月メニューとして提供しています。



1 月～3 月 新メニュー



チキンおろしカルパッチョ風



豆腐ハンバーグ和風ひじきあんかけ



豚肉の中華風甘酢あんかけ

4 月～ 新メニュー

「豆腐ハンバーグ和風ひじきあんかけ」と差し替え



チキンと野菜のイタリアンソース

[取組のポイント]

残念ながら採用されなかったメニューや担当者もいましたが、出来上がったメニューを利用者にどのようにアピールするのかという点においても若手職員が主体的に考えました。

提供時期が年の変わり目ということもあり、「健康元年」というのも最初の候補に挙がりましたが、以前から健康提案は行っているということもあり、最終的には「2013 年もバランスランチでバランス食生活」というキャッチフレーズに決まりました。

バランスランチは通常日替わりで提供していますが、少しでも利用者の目に触れるようにしたいということで 2 週にわたって提供することになりました。

右の企画書は、調理担当の内部職員向けの内容になっていますが、下の「この企画提案にあたり伝えたい思い」という欄には若手職員の思いが込められています。

バランスランチで健康生活をはじめよう 企画
~2013年もバランスランチでバランス食生活!~

- ◆事業目的：第47期～年度末、*ただし47・48週(1/14(日)～20(金))については新メニュー強化期間と並行して新メニューの提供機会が多くなるよう特別配慮を要致します。
- ◆提案目的：初めてバランスランチの施設へ目的をアピールし伝えて、活用してもらう。口寄せメニューの基本的な考え方は、先ず健康意識を高める。そのために1日に必要な食料量と栄養素の約1/2～1/3が提供されるバランスランチをオススメ。
- ◆この企画に賛同を多くして、今まで利用していない学生にも呼びかけてもらう様子が望まれます。それが来店への利用促進効果でもつながっていく。
- ◆事業内容：バランスランチスポットを初めて体験する。予約なしでいつでも食べたいメニューへ、新しいメニューの差し替えを行う。物はポスターなども掲出し、目立たせる。
- ◆メニュー・ポイントとして、学生に呼びかけてもらうための企画提案になっているので、この期間に開催日が短くてもいいのでぜひ実施してほしい。

◆他配布
 ・ポスター (B2) 区役所・3部課
 ・吹き出しPOP (メニューカード・ポスターに貼るタイプ)

◆イメージ
 *メニューカード・プライスカードは並行して用意するため、そこに吹き出しPOPをつけて、フェアメニューの様にアピールする。

この企画提案にあたり伝えたい思い。
 ・試験期間・最後の繁忙期で「普段来る機会の少ない人たちも来店する時期」そこへ生協のオススメをしっかりとアピールして、これからの、来年の利用につなげていきたい。だから忙しい中だけれどしっかりバランスランチを提供したい。

[取組の成果]

大学生協の食堂は短時間に多くのメニューを提供することが求められるため、盛り付けや調理工程の負担を軽減しながらメニューを考える必要がありますが、今回は食育の側面からバランスランチのメニューを考案することが目的だったため、不足しがちな栄養素(タンパク質など)や野菜量をどのように補うのかという点においても学ぶ機会になりました。

提供日	提供メニュー	提供数
1月15日(火)	豚肉の中華風甘酢あんかけ	新 348食
1月16日(水)	チキンおろしカルパッチョ風	新 590食
1月17日(木)	豆腐ハンバーグ和風ひじきあんかけ	新 421食
1月18日(金)	たっぷり野菜のチキンカツマリネ	308食
1月21日(月)	豚肉の中華風甘酢あんかけ	新 394食
1月22日(火)	豚肉と野菜の韓国風炒め	442食
1月23日(水)	チキンおろしカルパッチョ風	新 645食
1月24日(木)	鶏竜田揚げ彩りトマトソース	529食
1月25日(金)	豆腐ハンバーグ和風ひじきあんかけ	新 422食

販売結果の方は、全てとは言えませんがそれまで提供していたメニューよりも多く提供することができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

産学官連携事業「朝食のすすめ」

取組主体: 安城市健康づくり食生活改善協
議会（ヘルスメイト）

連携団体: 商工会議所、大学、
市（農務課、健康推進課）

実施時期: 平成 24 年 10 月 20 日（土）、
21 日（日）

実施場所: 青少年の家

対象及び参加人数: 安城市市制 60 周年記念事業 健康フェア参加者

【取組の目的】

健康日本 21 安城計画で、「朝食欠食をなくし、バランスのよい食事をする」ことを目標としています。その取り組みのためにヘルスメイトは朝食試食会を実施していました。平成 24 年度は、ヘルスメイト、愛知学泉大学、商工会議所、市と産学官連携で、安城市市制 60 周年事業の健康フェアにおいて、朝食試食コーナーを行うこととなりました。



【取組の内容】

産学官連携事業として、商工会議所、愛知学泉大学、ヘルスメイト、市が協力して実施しました。愛知学泉大学の管理栄養士専攻 3 年生はメニューチーム、2 年生は食事バランスガイドチームになりました。

メニューチームには、簡単でおいしい朝食メニューの提案をしていただきました。また、食事バランスガイドチームには、だれでもわかる食事バランスガイドの説明方法を考えていただきました。

メニューチームから提案されたメニューは 40 種類以上あり、ヘルスメイトと検討と試作を重ねて 35 種類に厳選しました。

食事バランスガイドチームによる食事バランスガイドの説明は、学生が昔話の桃太郎を元にストーリーの原案を提案し、ヘルスメイトとストーリーや食事バランスガイドに使う食事モデルの内容について検討を繰り返しました。なお、食事バランスガイドの説明を身近なものにするために、学生がスーパーでのアンケートを行い、それを元に食事モデルを作成してペーパーサート「桃太郎と梨太郎」に取り入れました。



商工会議所には、ヘルスメイトと学生が検討した内容に対してアドバイスをするとともに、事業所へのレシピ集配布をしていただきました。

市はヘルスメイト、学生の活動支援と各団体との連絡調整をし、提案された内容をヘルスメイトと学生を含め、何度も検討しました。

そして、市制 60 周年記念事業の健康フェアにおいて、メニューチームは、朝食の必要性を説明し、簡単に作ることでできる朝食メニューの提案をするとともに、来場者に試食を配りました。

また、食事バランスガイドチームは、来場者にペーパーサート（紙人形）「桃太郎と梨太郎」の実演をしました。



[取組のポイント]

ヘルスメイト、学生、商工会議所、市がそれぞれの役割を果たして連携することで、普段なかなか取り組むことのできない内容や若い年代へ情報発信することができました。

[取組の成果]


今までヘルスメイトは同年代の食育団体と地産地消の紙芝居や地元の野菜を取り入れた試食会などの活動をしてきました。

しかし、今回のように学生や商工会議所など、今までにない若い年代や食育以外の団体と協力して活動することは初めてだったので、新鮮で楽しく活動できたようです。

また、学生は自分たちと同年代の人たちにどうしたら朝食を食べてもらえるのか、朝食の必要性を伝えることができるのかを考えることで、自分たちの食生活を振り返ることができたようです。

今まで幼稚園、保育園、小学校、中学校が主な活動場所でしたが、今回、学生と作成したメニューやペープサートを活用して高校、スーパー、事業所、イベントなどで、幅広い年代に食の大切さを広めていきたいと考えています。



【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

Ⅲ 県内の取組事例

平成 24 年度は、「あいち食育いきいきプラン 2015」の 2 年目であり、県内各地において、愛知県食育推進会議を構成する県や関係団体だけでなく、様々な主体による幅広い取組が行われました。

ここでは、その取組を紹介します。

バランス良く食べることの大切さを食育劇で伝えます

取組主体： 愛知県

平成 24 年 6 月～

実施時期： 平成 25 年 3 月

実施場所： 県内の小学校 34 校、保育園 1 園

対象及び参加人数： 園児・児童 11,180 名、保護者 400 名、学校職員、学校医等

【取組の内容】 キーワード：食育劇、支援、食まるファイブ、小学生、栄養バランス

愛知県は、子どもたちにバランス良く食べることや感謝していただくことの大切さを伝えるため、食事バランスガイドに対応させたキャラクター「食まるファイブ」による食育劇の普及に取り組んでいます。

平成 24 年度は、児童や教師が主体となった上演の支援を 34 校 1 園で実施し、学校の課題に合ったシナリオの提供、衣装や小道具の貸与、上演をお手伝いするサポーターの派遣を行いました。

上演校では、食育劇を給食委員会等の発表として位置づけ、委員の児童が中心となって演じ、劇の前後で栄養に関する話やクイズを入れたり、事前の生活アンケートの結果を報告するなど、劇のテーマと学校の課題を結びつけ、効果的な学びの機会としていました。また、PTA の役員さんが演技に加わり、保護者も一緒に鑑賞するなど、家庭と協力した食育活動の契機にもなりました。



【活動の成果、今後の課題】

児童が自ら演じることで食の課題を身近なものとして捉え、給食時間や家庭で「食まるファイブ」を話題にし、「バランス良く食べよう」「好き嫌いなく食べよう」という意識の高まりや実践への行動変化がみられるなどの効果がありました。衣装やサポーター等の県の支援については、演じる児童の意欲を高め、効果的な上演につながりました。今後も意欲ある小学校等の支援を実施していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		食を通じて健康な体をつくるために	【プランの取組体系】
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校		1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

平成 24 年度学校給食教室

取組主体: 公益財団法人愛知県学校給食会

連携団体: 愛知県教育委員会 他

実施時期: 平成 24 年 11 月 6 (火) 日 他

実施場所: 愛知県学校給食総合センター (豊明市)

対象及び参加人数: 愛知県内小中学校の児童・生徒の保護者 207 名

[取組の内容] キーワード : 学校給食、保護者、講義、調理実習、交流会

学校給食について保護者の方々の理解と家庭との連携を深めることにより、食育推進の重要な場である学校給食のさらなる充実・発展を図ることを目的とし、昭和 54 年度から毎年開催しています。

今年度は、11 月 6 日・7 日・13 日・14 日の 4 日間開催し、県内各地から 207 名の保護者の参加がありました。内容は、午前中に愛知県教育委員会、愛知県農林水産部の職員の方から愛知県における食育の目標や家庭における食育の取組方などについての「講義」と、平成 24 年度学校給食調理コンクールにおいて最優秀賞に輝いた献立の「調理実習」を行いました。午後からは、県内栄養教諭による「朝食についての講話」、そして懇談会を行いました。その後、学校給食に関する意見交換や給食の安全性について、当財団の取組の説明を行いました。



【活動の成果、今後の課題】

この取組は、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県小中学校 PTA 連絡協議会、名古屋市立小中学校 PTA 協議会、愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会の後援のもと、家庭との連携に重点を置いて実施しました。参加された方々には、愛知県の食育の取組を理解していただき、また調理実習を行うことにより学校給食の理解や学校給食調理員の大変さを実感していただきました。朝食の大切さについても改めて認識していただきました。今後も、この成果を基に食育の更なる推進と学校給食の充実と発展を図ります。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育講演会の開催

取組主体: 愛知県栄養教諭・
学校栄養職員研究協議会

実施時期: 平成 24 年 8 月 22 日 (水)

実施場所: 名古屋市

対象及び参加人数: 本協議会の会員と愛知県食育推進会議構成団体 430 名

【取組の内容】 キーワード : 栄養教諭、学校栄養職員、講演、成長期、スポーツ栄養

8月22日にウイルあいちで開催された「平成24年度愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究大会」において、本協議会が「食育講演会」を開催しました。

食育講演会では、『成長期のスポーツ栄養』をテーマに、神奈川県立保健福祉大学からスポーツ栄養の専門家を招き、お話いただきました。

当日は、本協議会の会員と愛知県食育推進会議構成団体の方を合わせて430名の参加がありました。



【活動の成果、今後の課題】

この取組は、学校給食等の指導を通じて児童生徒の健康で望ましい食生活の充実をめざし、栄養教諭・学校栄養職員の資質の向上を図る目的で開催しました。

成長期における栄養摂取について、スポーツを中心にした個別指導のあり方をわかりやすくお話いただきました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体 をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

学校の給食はおいしいかな？！

取組主体： 半田市立宮池幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期： 平成 25 年 2 月 12 日 (火)

実施場所： 半田市立宮池幼稚園

対象及び参加人数： 年長児 48 人・保護者 6 人・教員 4 人

[取組の内容] キーワード： 幼稚園、小学校訪問、学校給食試食会、好き嫌い

2月12日に年長児48人が、近隣の小学校を訪れて給食を食べました。小学校と事前に打ち合わせをし、なかよしホールという部屋に、配膳台と5～7人のグループで試食できるように机をセッティングしていただきました。全員が手洗いとうがいを済ませて着席した後、小学校の教頭先生より、好き嫌いをなくしていくとよいことや自分たちで準備をすることなどについて話がありました。実際に食べる場面では、きしめんを袋から、容器に入る量ずつ分けて入れたり、食べきれぬ量を考えたりなど、自分で工夫しながら食べる姿が見られました。また、園では、時間がかかって食べていた子も集中して食べていました。

原則、半田市の公立幼稚園は弁当です。お母さんの愛情がたっぷり詰まった手作りの弁当を子どもたちはおいしそうに食べていますが、学校給食について不安や抵抗を感じている子もいます。そこで、本園では、近隣の小学校と連携して毎年2月に給食試食会を行っています。進学することに対する不安を減らし期待をもつようにすることと共に健康的な生活習慣を進んで守るようにすることを、大きなねらいとし、実際に小学校の給食を試食しながら、改めて食べることの大切さや栄養のバランスなどに気付かせています。



[活動の成果、今後の課題]

三学期のこの時期に、給食試食会を行うことは、子どもたちにとって貴重な経験になると思われます。特に、園で給食を経験することができない本園の子どもたちには、学校給食に対する不安を減らしたり、好き嫌いなく食べることへの意識を高めたりするのに効果的だったと考えます。

初めての体験なので、できれば子どもたちが食べやすいメニューの日に試食を行いたいところですが、双方の行事が多い時期でもあり、難しいところです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育を親子で学ぶ「ぱくぱく教室」

取組主体: 豊田市立童子山こども園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 11 月 2 日 (金)

実施場所: 豊田市立童子山こども園

対象及び参加人数: 5 歳児 41 名・4 歳児 45 名 (園児合計 86 名) 4 歳児保護者 45 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、栄養三色、講話、給食試食

豊田市立童子山こども園では、乳幼児期から「食」の大切さを意識し、豊かな食の体験を積み重ねていくことで、子どもたちが生涯にわたって健康で楽しい食生活を送ることができるように考えています。

親子で「食」の基本的な知識を習得し、実践できる力を身につけることを目的として、豊田市役所子ども部保育課より派遣講師として豊田市保健所管内管理栄養士が来園し、5 歳児・4 歳児・4 歳児保護者を対象に、「ぱくぱく教室」を開催しています。

内容は講話「3つの色をそろえて食べよう」のテーマで、カードゲーム・パネルゲーム・食品色当てゲーム・エプロンシアター等、園児向け指導 45 分間、保護者向け指導 15 分間です。

講座後には、子どもと一緒に 4 歳児保護者が給食試食会を行うことで家庭での食生活について、改めて考えてもらう機会としています。



[活動の成果、今後の課題]

講話内容が、子どもたちが興味をもって取り組めるものとなっており、子どもたちが楽しみながら 3 つの色の食品の働きを理解して、3 つの色の食品を揃えて食べる大切さに気づくことができました。

「食育」として、とても良い機会となりました。この日以後も毎日の給食時に、3 つの食品について関心ある言葉が子どもたちからよく聞かれるようになりました。

《保護者の感想より》

親も参加できたので、家でバランス良く食事をする為に役立てています。「3つのグループの手がつけなくなるよ」と言うと、頑張って食べます。

給食の内容や様子が分かって、すごく良かったです。子どもも赤・緑・黄の 3 色を食べる事の意味や大切さが分かり、少しずつでも食べるようになったことが一番良かったです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト及び食育講演会

取組主体: 社団法人愛知県歯科医師会 (募集期間) 平成 24 年 9 月 14 日 (金) ~ (募集期間) 12 月 14 日 (金) 実施時期: (表彰式) 平成 25 年 2 月 17 日 (日)	公益社団法人 連携団体: 愛知県栄養士会 他 名古屋市中小企業振興 実施場所: 会館 (吹上ホール)
対象及び参加人数: 県内在住もしくは在勤、在学者対象 参加者数 200 名	

[取組の内容] キーワード： 歯科、レシピ、コンテスト、講演会

生涯おいしく楽しく食べるためには、歯や口が健康でよく噛んで飲み込めることが重要であることから、栄養バランスを考慮した「よく噛んで食べるように工夫を凝らしたオリジナルレシピ」作品を募集し、平成 25 年 2 月 17 日(日)に優秀作品を表彰しました。表彰式終了後には、愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座 講師 森田一三先生による「楽しい食事と口腔の健康」の演題で食育講演会を行いました。(金賞作品のレシピは愛知県歯科医師会ホームページ(<http://www.aichi8020.net/>)に掲載しています。)また、リーフレット「レッツ食育! Vol. 3」を作成しました。

- 入賞作品：キッズレシピ部門・高齢者部門・地産地消部門 金賞各 1 作品、銀賞各 2 作品
- 共 催：公益社団法人愛知県栄養士会
- 後 援：愛知県教育委員会、愛知県農林水産部食育推進課、中日新聞社、社団法人愛知県歯科技工士会、公益社団法人愛知県歯科衛生士会
- 協 賛：イチビキ(株)、(株)モリタ



[活動の成果、今後の課題]

表彰式、食育講演会へは、多数の方が参加され、県民の方の食育への関心の深さが窺えました。優秀作品レシピを配布し広く普及することにより、よく噛んで食べる習慣の形成を進めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍴 食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育出前講座「食まるファイブ エプロンシアター」

取組主体: 東海市健康づくり
食生活改善協議会

連携団体: 東海市

実施時期: 通年

実施場所: 東海市内保育園、幼稚園 他

対象及び参加人数: 保育園児、幼稚園児など 約 1,000 人

【取組の内容】 キーワード： 保育園、幼稚園、食まるファイブ、食事バランスガイド、エプロンシアター

東海市健康づくり食生活改善協議会は、子どもたちに食事バランスガイドをわかりやすく、楽しく覚えてもらうため「食まるファイブ」や「食事バランスガイドのこま」のエプロンシアターを作成し、発表できるように取り組んできました。

そして、市内の保育園、幼稚園を始め福祉団体等のイベントで、食育出前講座として合計 10 カ所、約 1,000 人の方に披露しました。



【活動の成果、今後の課題】

子どもたちも一緒になって声をかけたり、ポーズをとったり楽しそうに見ていただきました。

参加者からは、「とても楽しかった」、「野菜もがんばって食べる」などの感想も聞かれました。

平成 25 年度からは、東海市健康づくり食生活改善協議会の食育委員会として、より多くの会員とともに、市民の方々にも食育の大切さを浸透させていければと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

シニアの料理教室

取組主体: 尾張旭市健康づくり
食生活改善協議会

実施時期: 平成 24 年 9 月 27 日 (木) 他 2 回 **実施場所:** 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内在住、在勤の 60 歳以上 のべ 43 名

[取組の内容] キーワード：食生活改善協議会、シニア、調理実習、栄養バランス

シニアの料理教室は、元々は楽々クラブ料理室というシニアクラブさんからの依頼による料理教室でしたが、その楽々さんたちもお年を召して教室に集まることが困難になってきました。

そこで、平成 24 年度からは尾張旭市健康づくり食生活改善協議会の自主活動としてスタートさせました。広報での参加要項としてはおおむね 60 歳以上ということで募集いたしました。意外に応募者が多かったのはうれしいことでした。

料理教室は、年 2 回 (9 月頃と 2 月～3 月頃) に行われます。後半の 2 月末の料理教室ではお断りする方も多数いましたので申し訳なく思っています。

献立の内容としては低栄養にならないように、又野菜などもたくさん摂ることができるようなレシピづくりに取り組んでいます。後半の 2 月では干した野菜を使っての料理を行いました。旬の時にたくさん採れた野菜を干して無駄なく生かそうという献立です。ゴーヤ、えのきだけなどを使った吸い物、などです。簡単で無駄なく、シニアの方々もなるほど！と納得していただきました。



【活動の成果、今後の課題】

今までは決まった方々のみ (シニアクラブ) の参加でしたが、広報での募集で参加される方々も多岐にわたるようになりました。

これからはますます高齢化社会となります。又一人暮らしのシニアの方も増えてきます。特に男性で定年を過ぎて家でゴロゴロしている人も少なくないと思います。そういったプチ高齢の方々にはいかに参加を促すかが課題です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

パクパク食育教室

取組主体: 一宮市

連携団体: 一宮市健康づくり食生活改善推進協議会 ネットワーカー 他

実施時期: 平成 25 年 2 月 14 日 (木) 他

実施場所: 一宮市

対象及び参加人数: 市内の対象年齢児を持つ親とその子

[取組の内容] キーワード : 幼少期、保護者、ボランティア、調理実習

一宮市では食の大切さを幼少期より知ってもらうため、1歳半から3歳までの児とその親を対象に年18回（各センターで開催）パクパク食育教室を実施しています。

このパクパク食育教室では、みなさんが普段食べているレトルトカレーに野菜などを上手に取り入れたメニューや、カルシウムがとれるようなおやつを栄養士がデモンストレーションで調理し、参加者の方に試食していただきました。また、幼、少期より食に関わる大切さや食事バランスなどを学びました。

当日は、市内のボランティアの方に協力いただき、調理デモンストレーション中の託児や調理補助、先輩ママとしての食についてのアドバイスなどをしていただきました。



[活動の成果、今後の課題]

教室に参加することで食事の大切さや、バランスのよい食事の摂取方法などを学ぶことができ、実際に試食することでみんなで食べる楽しさを学ぶことができました。また野菜の大切さを学んでもらい実際に試食をしてもらうことで調理方法の工夫次第でおいしく食べられることを知り、家庭でも工夫のきっかけとなることが期待されます。

現状では参加者人数が定員に満たないこともあるので、常に定員一杯になるよう教室紹介をどのように行なっていくかが今後の課題です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

瀬戸市子ども食育シンポジウム

取組主体: 瀬戸市教育委員会
食育推進委員会

連携団体: 各小中養護学校

実施時期: 平成25年2月1日(金)

実施場所: 瀬戸市文化センター31会議室

対象及び参加人数: 小中養護学校教員54名 及び 保護者66名 計120名

[取組の内容] キーワード : シンポジウム、小中学生、養護学校、教員、保護者

瀬戸市では毎年2月上旬頃、「瀬戸市子ども食育シンポジウム」と題して、各学校の教員と保護者を集めて、食育について考える機会を設けています。

本年度は、「瀬戸の食育のあゆみとこれから求められるもの」という内容で基調提案を行い、これまでの瀬戸市で取り組んできた食育の足跡を振り返りました。子どもたちが、望ましい食生活を自ら工夫し、豊かで健康な生活を築いていく基礎を培うために、学校で取り組んできた特徴的な実践としては、以下のものがあります。

- 長根小学校「教科・領域を連携させて行う食育の実践」－『食育の視点を取り入れて』

『食育の視点』を取り入れた、教科・領域を連携させて行う食育の実践

- 西陵小学校「食ではぐくむ豊かな心」教科等の学習、給食指導、家庭・地域との連携を通して『豊かな心』の育成を『食』を通して実現させていく」取組を展開した実践

- 光陵中学校「もちつき大会」

地域の方々へ感謝の気持ちを伝え、餅つきを通して地域との交流を深めた実践

- 品野中学校「瀬戸焼きそばに挑戦」

買い物や調理を経験し、地域独自の食文化を知り、関心を持つ実践基調提案の後には、愛知みずほ大学短期大学部・上原正子教授による『「これからの食育を見据えて」～学校・家庭・地域で必要なこと～』と題した講演があり、子どもたちをとりまく食環境において、学校や家庭で留意すべきことをお話しいただきました。



[活動の成果、今後の課題]

多くの方に来場していただき、各学校での食育への取り組みについて、学校と保護者が連携を深め、一層の充実をはかることについて共通理解をはかることができました。

また、栄養の先生(栄養教諭・学校栄養職員)たちと、担任の先生方が連携して授業を実践していく必要性についても確認することができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子で元気まる

取組主体: 尾張旭市健康課

実施時期: 平成 24 年 7 月下旬

実施場所: 尾張旭市

市内在住の小学校 1~2 年生くらいの子どものとその保護者

対象及び参加人数: (昨年度参加人数: 親子 21 組)

[取組の内容] キーワード: 健康度評価、元気まる測定、親子、生活習慣、調理実習

尾張旭市では、市民が自分の健康状態や普段の生活習慣について振り返っていただく市独自の健康度評価事業「元気まる測定」を行っています。その一環として、夏休み期間中に小学校 1~2 年生を対象とした「親子で元気まる」を実施しています。これは子どもの生活習慣を親子で一緒に確認することで、子どもだけでなく親の生活習慣を見直すきっかけとなることを目的としています。

調理実習では、栄養満点で作り方も簡単なおやつを作っています。



[活動の成果、今後の課題]

実施後には実習で作ったおやつと一緒にレシピをお渡ししているので、おうちでも取り入れていただけることを期待しています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍴 食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

学校給食試食会

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

実施時期: 平成 24 年 7 月 13 日 (金) 他

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内在住、在勤の方 延 126 名

[取組の内容] キーワード : 市民等、学校給食、試食

給食を身近に感じていただくために、学校給食の試食会を実施しました。

今年度は、7 月 13 日、9 月 25 日、11 月 22 日、2 月 27 日に市内在住、在勤の方を対象に学校給食の試食会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

給食センターの食育施設及び給食を活用し、食の大切さ及び食に関する正しい知識を学んでもらうことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

清須市立古城小学校 食育の伝え方

取組主体: 清須市

連携団体: 食育クラブ「ぐう～goo!」

実施時期: 平成 24 年 12 月 13 日 (木)

実施場所: 清須市古城小学校

対象及び参加人数: 108 人の児童及びその保護者

[取組の内容] キーワード：小学生、保護者、食育グループ、講話、食育劇

食育クラブ『ぐう～goo!』は、清須市、北名古屋市を中心に食育活動をしているグループです。

昨年 12 月 13 日に古城小学校で 1 年生から 2 年生の児童とその保護者を対象に食育のお話と食育劇を行いました。

食育講話では、私達の身体は食べたものが消化吸収されて出来ていて食べ物には命があること、その命を頂いて私達の命を繋いでいることを話しました。

また、食育劇では朝ごはんを食べると脳がしっかり働き元気でいられることや食べ物はバランスを考え、よく噛んで食べること、などを伝えました。

続いて「うんち」についてのお話です。自分のうんちについて考えてもらい、腸の働きの大切さを理解してもらいました。



[活動の成果、今後の課題]

こういった機会に、親子で参加してもらうことにより、家庭での会話に繋がります。

そして食べることは、①楽しいこと、②心を豊かにすること、③正しく食べることにより健康になれること、④自分で正しい食事を選べる子(人)になることをより多くの子供たちに伝え、「食育の輪」が広がるよう活動を今後も続けていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食まるファイブを使った食育活動「好き嫌いをせずなんでも食べよう」

取組主体: 津島市

連携団体: 食生活改善推進員、幼稚園、
保育園

実施時期: 平成24年8月～11月

実施場所: 津島市

対象及び参加人数: 市内私立幼稚園1園 公立3保育園 合計164人

【取組の内容】 キーワード：幼稚園、保育園、食生活改善推進員、食まるファイブ、ゲーム

市内私立幼稚園1園と公立3保育園において、食生活改善推進員と食育キャラクター「食まるファイブ」を使った食育活動を行いました。

最初に子ども達と一緒に手拍子に合わせて、食べられるものと食べられないものの区別を手遊びしながら学習しました。

次に食生活改善推進員が「食まるファイブ」のキャラクターに扮して一人ずつ登場し、それぞれのキャラクターの働きや食品の説明をした後、食品のイラストをペープサート（紙人形）にし、子ども達が二人一組になり、同じ仲間の箱に入れるゲームを行いました。



【活動の成果、今後の課題】

参加型のゲームを取り入れ、子どもたちが自分で考えることができました。

今回の取組が好評だったため、次年度も依頼され、これからも活動する園を増やしていきたいです。

また、食品のイラストをペープサート（紙人形）にした仲間わけのみではなく、『主食』『主菜』『副菜』の区分に応用できないか検討しています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

男子！自立クッキング

取組主体： 愛西市

連携団体： 食生活改善推進員、市内高校

実施時期： 平成24年12月4日(火)、5日(水)

実施場所： 愛西市

対象及び参加人数： 市内高等学校2校、39名

【取組の内容】 キーワード： 連携、男子高校生、調理実習、講義、地産地消

市の食育推進事業の一環として、経済課、健康推進課、栄養教諭、食生活改善推進員、市内高等学校等との共同事業として、若い男性の生活習慣病予防を目指し、これから社会で自立した生活を送る可能性のある高校3年生の男子を対象に「男子！自立クッキング」を実施しています。

この取組は、調理実習と講義を通して食の側面から健康的な生活を送るためのスキルを身に付けてもらえるような内容となっています。

また、地元の農業高校で栽培された農産物（米、ハクサイ、レタス等）や、地元品評会で入賞した農家の食材を入手するなど、愛西市でとれた食材を積極的に使い、地産地消にも目を向けられるようにしています。



【活動の成果、今後の課題】

調理実習後のアンケートで「期待通りであった」との回答が約8割で、「今日の料理を家で作ってみたい」との回答が5割を超えており、一定の成果がありました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

小学校における食に関する指導「朝食に野菜を取り入れよう」

取組主体: 弥富市

連携団体: 弥富市立桜小学校

実施時期: 平成 24 年 11 月

実施場所: 弥富市

対象及び参加人数: 桜小学校 3 年生 177 名 (計 5 クラス)

【取組の内容】 キーワード : 小学生、朝食、野菜、キャラクター、クイズ

桜小学校では、「朝食に野菜を取り入れよう」という目標で、児童への食に関する指導を行っています。

小学 3 年生と 6 年生を対象に食生活アンケートを実施したところ、朝食に野菜を食べている児童が少ないことが分かりました。そこで、小学 3 年生には、アンケートの結果を知らせて問題意識をもたせるとともに、野菜の優れた働きや朝食の役割について理解させ、進んで食べようとする意欲をもたせることを目標に授業を行いました。

授業の始めには、野菜の名前当てクイズを取り入れ、野菜に関心をもたせました。そして、元気くんというキャラクターを用いて、朝食を食べることで体により変化が起こり、朝食には「3つの目覚ましスイッチ」があることをつかませたり、3つの目覚ましスイッチの働きを動作化し、クイズに取り組みさせることで理解を深めさせたりして、児童が楽しく学習できるように工夫しました。

また、自らの朝食を振り返り、問題点を明らかにして今後の目標をもつことにもつなげていきました。



【活動の成果、今後の課題】

アンケート結果から、朝食に野菜を食べていない人数を示すと、予想外の多さに児童はとても驚いていました。ワークシートには、「きれいな野菜も少しは食べようと思います」「ちょっとずつでもいいから、いろんな種類のを食べて、全部のスイッチが入るようにしたい」というように、バランスのよい朝食をとろうとする意欲が見られました。また、「今日習ったことを家に帰ってからお母さん、お父さんにも教えたいです」という感想もあり、児童を通じて、家庭でも朝食の大切さを見直すきっかけにもつなげることができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

大好評！男性の料理教室

取組主体: 美浜町

連携団体: 美浜町健康づくり食生活改善協議会

実施時期: 平成 25 年 7 月 11 日 (水) 他

実施場所: 美浜町保健センター

対象及び参加人数: 町内在住男性 7 月 : 32 人 10 月 : 29 人

【取組の内容】 キーワード : 男性、高齢者、調理実習、旬の料理

高齢化社会を生き抜くために、料理は必須の生活技術です。

この事業は、料理の楽しさを知り、食に対する関心を高めてもらうことを目的として、平成 18 年度より実施しています。


今年度も、夏・秋の 2 回開催し、“男性厨房に入らず” という時代を生きてきた 65 歳以上の男性が集まりました。食生活改善推進員の指導のもと、7 月は五目ちらし寿司や豆腐ステーキ五目あんかけなど 5 品、10 月には鶏の五目蒸し、いわしのつみれ汁など 4 品を作りました。

旬の野菜を取り入れた献立で、季節を感じながらおいしくいただきました。



【活動の成果、今後の課題】

普段は妻に任せきりの料理ですが、この日ばかりは男性が主役となり、苦勞しながらも楽しそうに料理をしていました。参加者のなかには“これなら簡単に出来る。今度、孫に作ってあげよう”と話している方もみえ、料理を通じて夫婦の絆・家族の絆が、さらに深まるのではないかと感じました。年々参加者も増加している好評な事業ですので、来年度は開催回数を増やして、更なるパワーアップを考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育の日「たべまるのうた♪」発表会の開催

取組主体: 豊田市

連携団体: 豊田市立越戸こども園

実施時期: 平成24年6月19日(火)

実施場所: 豊田市役所 南庁舎1階ロビー

対象及び参加人数: 市民、市職員、豊田市立越戸こども園の年長55名と保護者数名

[取組の内容] キーワード：食育キャラクター、歌詞公募、CD、発表会

豊田市では食育キャラクター「たべまる」を活用した啓発をすすめています。

市民のみなさんが食育に関心を持ち、楽しく食育に取り組んでいただくため、歌詞を公募し、CDの制作を進めていた「たべまるのうた♪」が完成し、たべまるの誕生日である6月19日＝食育月間の食育の日に発表会を開催しました。当日は豊田市立越戸こども園の園児が歌や踊りを披露し、市役所を訪れた市民や市職員のみなさんに楽しんでいただきました。



[活動の成果、今後の課題]

「たべまるのうた♪」の歌詞には、赤（たんぱく質）、黄（炭水化物）緑（野菜）をバランスよく食べることの大切さを呼び掛ける内容もあり、歌いながら食育について学べるようになっていきます。

みなさんと歌って、踊って、楽しみながら食育について理解していただく機会になりました。

今後、「たべまるのうた♪」をより一層市民のみなさんに広めるために、関係機関と連携し活用していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子健康講座「わくわく親子クッキング」

取組主体: 豊橋市

連携団体: ①豊橋養鶏農協
②コープアドバイザー 他

実施時期: 平成 24 年 10 月 29 日 (月) 他

実施場所: 豊橋市

対象及び参加人数: ①親子 13 組、②親子 11 組

[取組の内容] キーワード： 連携企画、市、豊橋養鶏農業協同組合、食育推進ボランティア、親子クッキング

豊橋市では、食事作りのお手伝いをとおして子どもの自己肯定感を高める目的で、2～3 歳児とその保護者を対象に、毎年、親子健康講座（親子クッキング）を実施しています。

①10 月 29 日に実施した親子クッキングでは、豊橋養鶏農業協同組合の職員を講師に招き、うずらの映像を見ながら、実物大のぬいぐるみでうずらの重さを体感し、たまごに関するお話を聞きました。その後、豊橋市保健所管理栄養士の指導により、豊橋産うずらを使ったお月見バーグと、手作りふりかけ&ラップおにぎりの調理実習を親子で行いました。

②2 月 25 日に実施した親子クッキングでは、味噌おでんと手作りふりかけ&ラップおにぎりの調理実習を行いました。また、愛知県食育推進ボランティアに登録しているコープアドバイザーが「食まるファイブ」のパペットシアター、絵本「はらぺこあおむし」の読み聞かせ、野菜に関するクイズを行い、親子で野菜の大切さについて学びました。



[活動の成果、今後の課題]

2～3 歳児は様々なことを自分でやりたいという意識が芽生える時期です。講師から「出来栄えよりプロセス重視！」とアドバイスがあったため、子どもたちが積極的に調理に加わり、うずらの殻剥きやふりかけのゴマすりなどを行いました。保護者から「自分で作るとおいしいね」「上手にできたね」といった言葉掛けがあり、子どもたちは満足した様子で食事をしていました。今後も、お手伝いをとおして楽しい食体験を重ね、自己肯定感を高めることが期待されます。

保護者に対しては、豊橋がうずらの一大産地であることを伝え、地産地消を呼びかけるよい機会となりました。また、「食まるファイブ」を紹介し、バランスのよい食事を意識してもらうことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子教室「おやつづくりで栄養指導」

取組主体: 愛知県国公立幼稚園長会

連携団体: 栄養士・食育クラブ（市管内栄養士）

実施時期: 平成 24 年 6 月 8 日（金）、
12 月 18 日（火）

実施場所: 西尾市立平坂幼稚園始め 3 園

対象及び参加人数: 西尾市の 3 公立幼稚園 3 園
年長 5 歳児とその保護者（市内 5 歳児園児数 221 名 その保護者 208 名）

[取組の内容] キーワード： 幼稚園児、保護者、栄養三色、おやつづくり(生活習慣)、エプロンシアター

西尾市立幼稚園では、子ども課の栄養士や食育クラブ（市内の栄養士会）を中心に幼稚園食育指導として栄養指導を実施しています。

この栄養指導では、元気な体をつくる食べ物の「栄養三色の話」、正しい生活リズムをつくる「早ね・早おき・朝ごはんの話」、栄養バランスのとれた「親子クッキング教室」などの内容で、子どもたちや保護者の方に食の大切さを知らせていきました。

このほかにも、エプロンシアターや紙芝居を活用したり、幼児食育チャレンジ表を実践したりして、バランスのよい食べ物のよさが分かる機会をつくりました。



[活動の成果、今後の課題]

講話は、興味をもって落ち着いて聞くことができました。1 学期に聞いた食育クラブの話の内容も良く覚えていて、栄養士の問いかけにも良く反応していました。指導後、給食の食材を見て三色の色分けをしたり、残さないようにしたりする意識が高くなったことが感じられました。

おやつづくりでは、目の前で自分が丸めただんごが茹で上がり、すぐ口にできるということで、子どもたちはとても喜び、親子とも満足できたようでした。後日、参加者から「子どもの食事の様子が変わり『きれいなものも出してね』と言い、よく食べるようになった。」という声が聞かれました。

今後も楽しく活動でき、次に活用できる指導内容の工夫を考えていきたいと思ひます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

子どもの肥満予防等の推進

取組主体: 犬山市立犬山幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 犬山市保健所

実施時期: 平成24年 6月3日(日)、
11月7日(水) 他

実施場所: 犬山市立犬山幼稚園

対象及び参加人数: 幼稚園児と保護者 83組

[取組の内容] キーワード： 幼稚園児、保護者、歯磨き指導、肥満防止、給食指導

犬山市立犬山幼稚園では、給食指導及び歯磨き指導の一環として、「肥満予防に関する保護者への啓発や取組」を計画的に行っています。初めて園生活を経験する年少組では、保健師による親子歯磨き指導を受けます。歯の大切さは勿論のこと、よく噛んで食べることや糖分の多いおやつをたくさん与えないようにすることが肥満の予防につながるという指導を受けました。年中組になると親子給食会を行い、試食の後に毎月の献立を作っている栄養士から、1日に必要なカロリーや手作りの良さ、コンビニ等の市販の物は高カロリーで糖分も多く肥満につながる事等について、話してもらう機会を作っています。園児には、各年齢に合った絵本や紙芝居を通して好き嫌いなくよく噛んで食べることを知らせたり、体全体を使って遊んだり運動したりする機会を意識した保育を心がけています。

また、栄養バランスを考えた健康的な給食を目指して毎月栄養士と調理員が献立会を行い、子どもたちが苦手な野菜や魚も多く取り入れるようにしています。調理員は、子どもたちが食べやすい大きさに食材を切り、薄味にする等健康への配慮をしています。担任もよく噛んで食べることを指導しています。保護者に対しては、給食への関心が深まるように地元の食材や給食の献立レシピを紹介したり、毎月1回実際の給食を展示したりしています。配布する毎月の献立表には、食に関する内容を載せて肥満予防の啓発にも心がけています。



[活動の成果、今後の課題]

歯磨き指導や親子給食会等、ほぼ全員が参加している現状から、保護者の肥満防止への意識が高まってきたのを感じています。保護者の方から「幼稚園に行くようになってから苦手な野菜が食べられるようになりました」「家でも肥満について意識するようになりました」等の声が聞かれ、子どもたちも残さずによく噛んで食べるようになってきました。また、積極的に戸外へ出て、元気に遊ぶ子が増えてきました。肥満予防は、家庭の協力が不可欠なので、今後も保護者と幼稚園が連携しながら、進めていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

虫歯や歯肉炎を予防する環境づくりのために

取組主体: 半田市立花園幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 半田市学校保健会

実施時期: 平成 24 年 11 月 15 日 (木)

実施場所: 半田市立花園幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児年長組親子

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、歯科指導、パネルシアター、講演

半田市の公立幼稚園では、親子共に虫歯予防の意識を高めるために半田市学校保健会主催の歯科巡回指導が行われています。今年度は、花園幼稚園において、教師によるパネルシアターや歯科医による『幼児期の歯の健康と食生活について』の講演、模型や口腔内カメラを使ったブラッシング指導があり、小グループに分かれて歯科医からの個別指導を受けました。

『ムッシバンをやっつけろ!』のパネルシアターでは、クイズ型式を取り入れて歯にいい食べ物や飲み物を子どもたちにも分かりやすく伝えました。

また、講演やブラッシング指導では、口腔内カメラで画面に映し出された実際の 6 歳臼歯やその周りの磨き残しを見て、子どもたち自身の歯磨きの仕方、保護者の方々の仕上げ磨きの仕方を学び、歯の健康が大切であることを親子で再確認することができました。


グループに分かれての個別指導では、一人一人が染め出しをすることでそれぞれの磨き残しを確認でき、日頃なかなか質問できないことを直接歯科医に相談できるよい機会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

今回の取り組みでは、子どもたちだけでなく、保護者も含めて歯の健康と食生活について意識をもち、親子共に歯磨き、仕上げ磨きの技術の習得ができました。事後アンケートからも「一人一人歯医者さんから歯磨きのアドバイスをいただき参考になりました」「子どもから、“しっかり磨かなくちゃ”と言うようになりました」「おやつを見直すきっかけとなりました」など歯科巡回指導実施前と後では、保護者や子どもたちの意識が大きく変わっていることが実感できました。

今後もこの取り組みを生かし園内での歯磨き指導を進めたり、歯にいい食べ物よくない食べ物を子どもたちと考え合ったりして保護者へも啓発し、歯の健康を通して食育に取り組みたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

歯みがき指導

取組主体: 名古屋市立神の倉幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 5 月 22 日 (火)

実施場所: 名古屋市立神の倉幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児親子 50 組

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、歯磨き、歯科指導

名古屋市立神の倉幼稚園では 5 歳児が 6 月から弁当後に歯みがきを始めます。その前に、保健所の栄養士さんや歯科衛生士さんに来ていただき、バランス良く食事をとることや歯みがきの大切さを親子で教えていただきました。

始めに栄養士さんが偏った食事は体に良くないことやどんなものをどれくらい食べるとよいかを、大型紙芝居を使って説明してくださり、子どもたちは真剣に聞いていました。

次に歯科衛生士さんから、6 歳臼歯は「歯の王様」でありとても大切なことや虫歯になりやすいことを聞きました。すると、その後の歯みがき指導では、子どもたちが丁寧に磨こうとしていました。

最後に全員が磨いた後の歯の汚れの染め出しを行い、保護者に仕上げ磨きをしてもらいました。

また栄養士さんや歯科衛生士さんへの質問コーナーでは、保護者から歯ならびなど日ごろ心配していることなど積極的に質問が出されました。



【活動の成果、今後の課題】

子どもたちと一緒に保護者も、偏食やバランス良い食事についての大型紙芝居を見たことは、家に帰ってから親子で話題にしたり家庭の食事を見直したりするよい機会になったようでした。また、歯みがきをした後、染め出しを行ったことで、日ごろ我が子がどの部分を磨き残しているかや保護者による仕上げ磨きの必要性に気付いてもらうことができました。

保護者の中には「下の子がいるから保健所までなかなか行けないけれど、幼稚園で栄養士さんや歯科衛生士さんの話が聞けるのはうれしい」という声があり、開催の必要性を感じました。今後は、5 歳児だけではなく他の学年の保護者が参加できるような機会を作っていけたらと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

よい子の歯みがき運動・E6保護育成事業

取組主体: 碧南市立棚尾幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 碧南歯科医師会他

実施時期: 平成24年5月23日(水)、
9月27日(木)

実施場所: 碧南市立棚尾幼稚園

対象及び参加人数: 5歳児40名、4歳児34名の親子と3歳児33名

[取組の内容] キーワード：幼稚園児、保護者、歯磨き指導、歯科指導

幼児期は、乳歯が生えそろって歯・口の健康づくりについての関心を深め、基本的な生活習慣を身に付けていく時期です。健康な歯があることで、何でもおいしく食べることができます。碧南市立棚尾幼稚園では、よい食生活の推進のための活動の一つとして、「よいこの歯みがき運動」「E6保護育成事業」を市と碧南歯科医師会の協力を得て行っています。幼稚園では食後の歯みがきも実施しています。

内容は春に「よい子の歯みがき運動」として、全園児(3～5歳児)を対象に市の歯科衛生士から、歯の大切さについての講話・歯磨き・うがいの仕方について指導を受けました。5歳児は、6歳臼歯の重要性と磨き方の指導も受けました。秋には「E6保護事業」として園児と保護者を対象に歯科医師を主に染出し・磨き残しのチェックと仕上げ磨き・フッ化物塗布を実施しました。その後、保護者を対象に、歯科医師から講話をしてもらいました。



[活動の成果、今後の課題]

「よい子の歯みがき運動」では、6歳臼歯の紙芝居を見たり、歯の種類を「奥歯のおくちゃん」「糸切り歯のいとちゃん」「前歯のまえちゃん」「6歳臼歯の6ちゃん」と名付け、それぞれが大切な役割をしていることを絵図や布のパネルを使って教えてもらったりして、子どもたちも歯について関心をもつことができました。その後の保育の中でも歯磨きの時に「まえちゃんを磨きましょう」など教えてもらった名前を使うようにしたことで、歯みがき運動と日頃の保育がつながり効果が上がっています。

「E6保護事業」では、保護者が仕上げ磨きの方法や6歳臼歯の重要性について学ぶ機会になりました。講話では、事前に提出した相談内容について回答してもらい、保護者の不安を取り除くことにつながっています。園児とその保護者が歯の重要性を知り、初めて生えてくる永久歯の6歳臼歯を子どもたちが一生失うことがないように、今後も継続した活動を続け意識向上につなげていきたいです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

企業と連携 いい歯の健康相談

取組主体: 社団法人愛知県歯科医師会

連携団体: 株式会社ヤマナカ

実施時期: 平成 24 年 11 月 8 日 (木)

実施場所: ヤマナカ メッツ大曽根店

対象及び参加人数: 121 人

【取組の内容】

キーワード: いい歯の日、スーパー、共同、歯科保健指導、8020達成者

11月8日(木)『いい歯の日』に、ヤマナカ メッツ大曽根店で、歯に関する食育イベントを企業と共同で開催しました。

当日は歯科医師や歯科衛生士により、「歯の健康づくり得点チェックシート」を使って、歯の状態や生活習慣の評価をし、点数に応じて生活習慣を含めた歯科保健指導を行いました。


このチェックシートは8020達成者の生活習慣の中から統計的に優位な項目を10項目選び出したもので、これを実施することにより自分の生活習慣を見直すことが可能となります。

市町村などで開催される健康を目的としたイベントの場とは異なり、買い物客を対象とした場での開催でしたが、日常の食を通してのお口の健康啓発事業として盛況に行うことができました。



【活動の成果、今後の課題】

今後も協賛企業と歯科医師会との共同による「来場者参加型のイベント」を工夫しながら継続していく予定です。お口を開けての検診とは違い、チェックシートを用いる事から気軽に参加いただけることと、チェック項目からより深く健康相談に発展し、さらには生活習慣の改善の気付きにつながる事が有効であると感じました。今後、協賛企業の協力が得られるかが課題です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「やせ願望の落とし穴にストップ！」－食べて美しく…実践編－開催

取組主体: 公益社団法人愛知県栄養士会・
食育推進委員会

実施時期: 平成 25 年 1 月 26 日 (土)

実施場所: 名古屋市港区東邦ガス
業務用ガス機器ショールーム

対象及び参加人数: 県内一般住民及び本会会員 50 名

【取組の内容】

キーワード: やせ願望、セミナー、栄養バランス、レシピ、試食

「健康日本 21 あいち新計画」の重点目標の一つに『女性のやせの減少』があります。平成 24 年度「愛知県生活習慣関連調査」によると、20～30 歳代の女性の「やせ」注)の割合は 21.7%、そして低体重の女性の約 9 割が「やせ」を自己評価していないという調査結果が出ています。若い女性のスリム志向は妊婦さんにも波及し、「赤ちゃんの体重 減る一方」「妊婦さん しっかり食べて」といった新聞紙上のタイトルが気になるところです。

こうした状況を踏まえ愛知県栄養士会は、平成 24 年度ヘルシーセミナーのテーマを「やせ願望の落とし穴にストップ！」－食べて美しく…実践編－とし、平成 25 年 1 月 26 日、東邦ガス業務用ガス機器ショールームにて開催しました。

注)「やせ」とはBMI (体格指数) 18.5 未満



【活動の成果、今後の課題】

第 1 部、名古屋学芸大学 山内恵子先生による講演「やせ願望の落とし穴にストップ！」では、「カウンセリングの重要性が再確認できた」「自己イメージ法はとても参考になった」「食行動の背後に心理が大きく関わっていることが分かった」などのご意見を多数いただきました。第 2 部、－食べて美しく…実践編－で皆さんにお配りした『簡単レシピ集』のコンセプトは、簡単！おいしい！栄養バランス満点！。試食いただいた三つのレシピは「これ一品で主食・主菜・副菜が全～部入っています」「この一品におにぎり一個プラスすればバランスメニューになります」など、実践にすぐつなげてもらえるよう工夫したものばかり。そして試食していただきながら、作り方やポイントを説明する形で進めました。「こんなに食物繊維や栄養素が摂れるレシピが簡単においしく出来ることを知り勉強になった」「レシピの説明も面白く参考になった」「栄養があり簡単で若い人にも作りやすい」など嬉しいご意見を多数いただきました。過度な痩身への警鐘になったと思います。今後も県民の健康増進に寄与できるよう、様々なテーマでセミナーを開催していきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍴 食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

健康応援情報提供事業（食生活応援メニューの提供）

取組主体： 東海市

実施時期： 平成 24 年 10 月～

実施場所： 東海市しあわせ村トレーニング室
東海市民体育館

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月までの実績)

対象及び参加人数： トレーニング室・市民体育館 194 名

【取組の内容】 キーワード：健康診断、食生活応援メニュー、個別対応、健康づくり

しあわせ村のトレーニング室と市民体育館では、健康診断（血液、尿検査など）の結果と簡単な問診をもとに、一人ひとりにあった「食生活応援メニュー」を提供しています。「食生活応援メニュー」は、エネルギー、バランス、野菜、塩分の 4 項目を四ツ葉に見立て、それぞれの適量を示しています。

健康診断の結果から四ツ葉の葉っぱの色をかえて表示しており、特に問題の無い方は緑色の四ツ葉になります。肥満で体重の減量が望ましい方は、エネルギーの葉っぱが黄色になるなど、特に意識していただきたい項目が一目で分かるようになっています。

一人ひとりにあったメニューを提供することで、自分の適量やバランスを知る機会をつくり、健康づくりのきっかけにさせていただくことを目的としています。また、自分にあったウォーキングの速さや目安時間、頻度などを判定する「運動応援メニュー」も同時に提供しています。

・提供日 水曜・火曜 9：00～12：00、13：00～19：30

土曜 9：00～12：30

・場 所 東海市しあわせ村トレーニング室 ※東海市民体育館は、水曜 9：00～15：30 のみ

※健康応援ステーションホームページでも情報をご覧いただけます。

<http://tokai-kenko.jp/index.html>



【活動の成果、今後の課題】

健康診断結果から、自分の体の状態を知り、実際に何に取り組んだら良いのかを分かりやすくメニューにして提供しています。メニューを使って、具体的なアドバイスを行うことで普段の食生活を見直すきっかけになっています。また、トレーニング室では、判定後にそのまま運動を行っていく方も多く、運動を始める方も増えています。高齢者や働き盛りの若い世代など多くの方に応援メニューのことを知っていただき、将来に向けた健康づくりを進めていきたいと思ひます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

飲食店と連携したメニューの提供と情報提供

取組主体: 東海市

連携団体: 愛知県健康づくり振興事業団
東海商工会議所、飲食店

実施時期: 平成 24 年 10 月～

実施場所: 東海市内飲食店

対象及び参加人数: 市内飲食店 23 店舗 (平成 25 年 3 月の店舗数)

【取組の内容】

キーワード: 健康づくり、食生活ステーション、市内飲食店、いきいき元気メニュー、食習慣の確立

東海市では、市民一人ひとりの健康づくりを支援・応援する施設等を「健康応援ステーション」として位置づけ、まち全体で健康づくりに取り組む仕組みをつくっています。その中の「食生活ステーション」では、市内飲食店と連携し、「いきいき元気メニュー」を提供しています。「いきいき元気メニュー」とは、エネルギー、バランス、野菜、塩分の4項目を四ツ葉に見立ててそれぞれの基準を定め、その基準を満たしたメニューのことをいいます。

実際に食べて体験することで、自分にあった量を知り、普段の食生活を見直し、正しい食習慣の確立に結びつけることを目的としています。

また、オリジナルのメニュー表を作成し、裏面には、メニューを開発する際に工夫した内容（食べすぎを防ぐ方法や野菜摂取量を増やす方法、減塩の方法など）を記載し、家庭でも実践できる調理方法や栄養に関する情報提供も行っています。

※健康応援ステーションホームページでも情報をご覧いただけます。

<http://tokai-kenko.jp/index.html>



【活動の成果、今後の課題】

実際にお店に足を運び「いきいき元気メニュー」を食べている人の中には、健康づくりに取り組んでいる人、また、これから始めようとしている人、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の方などがいます。今後も食べられた方々の意見や反応を伺いながら、飲食店の方と一緒に健康の情報を発信する食生活ステーションの取組みを広げていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 生活習慣病や過度な痩身等の予防
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

夏休みに親子で工場見学 「見て！聞いて！！安全でおいしい飲みものができるまで」の開催

取組主体： 愛知県

連携団体： サントリープロダクツ株式会社（木曾川工場）

実施時期： 平成24年8月10日（金）

実施場所： 犬山市

対象及び参加人数： 県内の親子10組

【取組の内容】 キーワード： 親子、工場見学、衛生管理

愛知県健康福祉部生活衛生課では、食に関する正しい知識を深めてもらうため、毎年夏休みに親子参加型の工場見学を実施しています。今年も、県内の製造工場に御協力いただき、清涼飲料水ができるまでを見学しました。

この見学では、白衣に着替えて、従業員と同じように手洗いをし、エアシャワー（強風でホコリをとばす設備）を通過して工場に入る等、厳しい衛生管理が行われていることを体験しました。

また、品質管理検査の一つとして、正しい製品と2種類の製品を混ぜたものとの味覚で判断する官能検査を体験しました。

これらを通じて、食品製造施設が行っている安全な食品を製造するための取組について、学習していただきました。

URL：<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000055/55769/h24gaiyou.pdf>



【活動の成果、今後の課題】

普段見ることができない工場内の、実際に製造する現場を見ることで、食に対する知識や理解を深めることができました。

また、親子で検査を体験すること等により、楽しく学ぶことができました。

参加者からは、「管理体制についてよくわかった」、「製品に対する安心感が高まった」といった感想をいただきました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	3 食の安全に関する信頼の構築
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

大学教授等による食育事業講演会

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

実施時期: 平成 25 年 2 月 27 日 (水)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内在住、在勤の方 28 名参加

[取組の内容] キーワード : 市民、大学教授等、講演会

食育の拠点施設でもある学校給食センターにおいて大学教授等による食育事業の講演会を実施しました。

今年度は、2月27日に市内在住、在勤の方を対象に名古屋経済大学 上延麻耶 講師を招いて、『食べて元気～家族で健康生活』と題して食育事業講演会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

食の大切さ、食に関する正しい知識を学ぶことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて健康な体をつくるために	2 食の安全に関する信頼の構築
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「今日の給食、なあに？」

取組主体: 清須市立西枇杷島第1幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 清須市学校給食センター

実施時期: 通年

実施場所: 清須市立西枇杷島第1幼稚園

対象及び参加人数: 全園児 203名 (3歳 67名、4歳 63名、5歳 73名)

[取組の内容] キーワード：幼稚園児、給食、季節、給食展示、講話

清須市立西枇杷島第1幼稚園では、5月の連休明けから給食が始まります。お母さん以外の方が作ったものを家族以外の人と一緒に食べるのは初めてです。「食べられない」「これなあに?」「もういらない」などと最初のころは食べられなかった子どもたちも、1年が過ぎると嫌いなものも少しずつ食べられるようになり、給食中の会話も楽しそうです。そして、帰りにはその日の給食展示をお母さんと一緒に見て、「空っぽにしたよ」「おかわりたべたよ」「おうちでも作って」など楽しい会話が聞かれます。

年に1・2度、給食センターの栄養士さんに幼稚園に来ていただき、4・5歳児は、その日の献立や栄養の話、箸の持ち方なども教えていただきます。食べ物に見立てたスポンジや毛糸玉を箸でつまんで見せ、得意顔の子もいます。「たくさん食べてね」「空っぽにしてくれるとうれしいな」などと言われ、張り切って食べる子どもたちです。



[活動の成果、今後の課題]

近年、限られたメニューしか食べたことがない子どもたちが多く、季節の食材・料理、さまざまな料理法で調理された給食は、いろいろな味、食材を知らせることができるといせつな活動です。

毎日の給食展示は、帰る時に親子で見ることが楽しみになり、保護者の方も実際にどんな給食だったかを確認できて好評です。献立表だけではわからないお母さん方からは、実際に見ることで「美味しそう・・・」「家では食べないのに・・・」「今度作ってみよう」などの声が聞かれます。献立表に時々載せていただけるレシピも参考になるようです。

また、年1~2回栄養士さんも園に来ていただくことで、給食を作ってくださる方への思いも育ちます。今後も栄養士さんと連携し子どもたち・保護者への食育指導を工夫したいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

園児と調理員さんの交流が盛んです

取組主体: 東海市立東山保育園
(社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 保育部会)

実施時期: 通年

実施場所: 東山保育園

対象及び参加人数: 東山保育園園児 168 名

【取組の内容】 キーワード： 保育園児、調理員、交流

東海市立東山保育園では、子どもたちの元気な心と体を培うために、①人とのかかわりとマナー、②健康づくり、③食への興味を柱として、食育に取り組んでいます。

毎日おいしい給食をつくってくれる調理員さんとのかかわりは盛んです。子どもたちは調理員さん3名の姓名を知っていて「〇〇さん、いいにおいだね。」と調理室の窓越しに話しかけ、会話をすることもしばしばです。

自分たちで栽培をした野菜を調理員さんにイタリアンや中華風に味付けをした料理をつくってもらい、日頃野菜嫌いな子も完食する姿がみられます。

給食の食器は陶磁器なので、あやまって割ってしまう子もいます。割ってしまった子は神妙な顔つきで「〇〇さん、お皿を割ってしまいました。ごめんなさい。」とあやまりにきます。調理員さんに「けがしなかった?これから気をつけようね。」と優しく言われて、子どももホッとした表情になります。



【活動の成果、今後の課題】

これからも食育の一環として、自園で調理するからこそできる調理員さんとのかかわりを大切にし、子どもたちの食への興味・関心を育てていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	♥ 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

家族や仲間と食べる楽しさ宣伝部

取組主体: 名古屋市内山保育園

連携団体: 愛知県社会福祉協議会

実施時期: 平成 25 年 2 月 7 日 (木) 他 1 回

実施場所: 名古屋市

対象及び参加人数: 内山保育園 3 歳児クラスの保護者 28 人

【取組の内容】 キーワード： 給食、園児、保護者、情報発信、交流

名古屋市内山保育園は、乳児・幼児合計 156 人の大規模園です。毎年、保育士さん達が食育計画をたて、野菜の栽培やクッキング等を通して、子ども達に食への関心を持ってもらうよう働きかけています。そんな中、我々調理員にも何か出来ないかな?と考え、いつも野菜を納入してくれる業者さんとの何気ない会話を、保護者の方々に発信してみてもうどうだろう?と思いつきました。

なんと八百屋さんは「野菜ソムリエ」の資格を持って見え、食材の情報提供に快く協力してくださいました。

市場で仕入れた旬の食材情報や、野菜の栄養素、野菜の歴史などメニューボードに毎日の写真とともに掲示しています。保護者の方々からも好評で、保育園給食を支えてくださる業者さんへの親しみを持ってもらうことができました。

また、3 歳児クラスの懇談会では、先生と連携をとり、試食をしながらその日のメニューの紹介や、家庭での食事の様子を話し合っています。「野菜を食べないのですが…」「一緒にキッチンに立ちたがるけど、危なくて…」「うちはきぬさやのすじ取りをてつだってもらってる。」「この前のレシピを教えてください。」など、会話が弾み、保護者の方々の食に対する興味や関心の強さに驚きました。



【活動の成果、今後の課題】

こうした交流から、「食」に関する様々な異なる目線にであうことは、私達にとっても学ぶことが多く、ニーズに応じていく必要性を感じました。

今後は、「家族や仲間と食べる楽しさ宣伝部」として、子どもたちや保護者の皆さんとの交流を深めていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

すこやかクッキング ～3世代で挑戦～

取組主体: 瀬戸市健康づくり食生活改善協議会

連携団体: 瀬戸市他

実施時期: 平成24年7月21日(土) 他計3回

実施場所: 瀬戸市

対象及び参加人数: 市内在住の小学生からシニアまで 18名

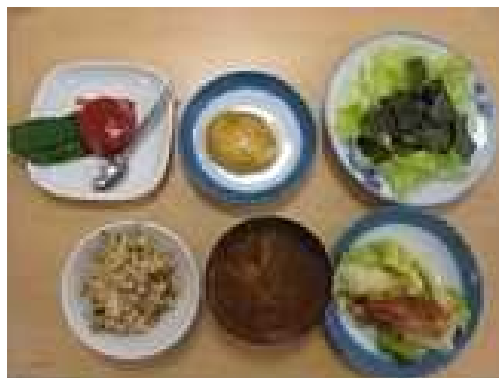
[取組の内容] キーワード：食生活改善推進員、調理実習、世代交流、野菜

瀬戸市では健康づくり食生活改善推進員が地域に出向き、野菜をたっぷり使ったメニューで調理実習を行いました。

今回は料理を通して世代交流をすることをテーマとし、1つの献立に野菜を1つのみ使い、野菜そのものの味や健康への効果をクローズアップして実施しました。

当日は食生活改善推進員の担当者が参加者に分かりやすいよう模造紙に大きく手書きでレシピを書き、それをホワイトボードに張るなどの工夫をしました。


また「すごいぞ！野菜のパワー」と題して栄養ミニ講話も行い、野菜の大切さを呼びかけました。計3か所で実施しましたが、どの回も定員を超えて大盛況でした。



[活動の成果、今後の課題]

子どもから高齢者が一緒に調理することで各々が出来ることを分担し、補い合いながら、和やかな雰囲気の中で実施することができました。

簡単でおいしい料理は参加者にとっても好評で、終了後のアンケートでは「孫と料理が出来てうれしかった」「野菜をテーマにしたよく考えられたメニューでおいしかった」などの言葉をもらいました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

コープひろば「食生活」

取組主体: 生活協同組合コープあいち

実施時期: 平成 24 年 6 月～12 月

実施場所: 愛知県内 16 箇所

対象及び参加人数: コープあいち組合員 約 80 人

【取組の内容】 キーワード：食生活、稲作、ワークショップ

コープひろばは、くらしを取り巻くテーマについて生活者一人ひとりが興味関心を高め、考えを深めることによって、自らのくらしの主体者になること、また結果として生協の活動にかかわっていく入り口にもなることを目指して、7回連続で開催する講座です。

その第4回目「食生活」の回では、稲作の紙芝居を全員で見てお米を作る苦勞を知り、ワークショップを通じて自分たちの日頃の食生活をふりかえり、楽しい食事を行うにはどうしたらよいかを参加者同士で考え合いました。



【活動の成果、今後の課題】

「楽しく食事を過ごせば一日数時間、一生のうち何百時間が楽しく過ごせると気づいた」「平日は夫が一人で夕食を食べているので、会話しようと思った」など、他の参加者の発言などから気づき、自分で考えた楽しい食卓づくりをするための工夫を各自持ち帰って実践しています。

専門家から教わるのとは違った、同じ立場同士で工夫を共有しあい、意識を高めるといった場の提供を今後も心がけて企画していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

たべる*たいせつキッズクラブ

取組主体: 生活協同組合コープあいち

連携団体: 日本生活協同組合連合会

実施時期: 通年（毎月1回）

実施場所: 金山駅周辺会議室など

対象及び参加人数: 25人

【取組の内容】 キーワード：通信サポートプログラム、おたよりカード、返信

コープあいちでは、日本生活協同組合連合会の企画である「たべる*たいせつキッズクラブ」を実施しています。「たべる*たいせつキッズクラブ」は食育の通信サポートプログラムで、コープあいちの5歳から小学校6年生までのお子さんを対象にしています。

春・夏・秋・冬の4回届くワークブックを読んで子どもたちが提出する「おたよりカード」に対して、生協の組合員ボランティアやコープアドバイザーがお返事を書いています。子どもの意欲を引き出すお返事になるよう、また偏った視点にならないように、組合員同士話し合いやチェックを行って書き上げました。



【活動の成果、今後の課題】

子どもたちが関心をもって取り組んだこと自体を大切にし、「その子自身の関心や行動を認める」「興味や関心が持続するよう勇気づける」ことを目的としてお返事を書くことで、ワークブックや日常の食に関するさまざまなことに対して子どもが意欲的になるサポートができています。

また、お返事書きボランティアをきっかけに地域の食育活動に取り組むようになった方もいます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「家族とつくろう！元気になるヘルシー朝ごはん」メニューを募集

取組主体： 尾張旭市、尾張旭市教育委員会

連携団体： 社会福祉法人 ひまわり福祉会

平成 24 年 12 月 3 日（月）～

実施時期： 平成 25 年 1 月 8 日（火）他

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 市内小中学校の児童・生徒及び一般市民 184 人

【取組の内容】

キーワード： 朝食の欠食、孤食、家族、朝食メニュー募集

朝食の欠食や一人で食事をする「孤食」を防ぐため、また、朝食の大切さを再確認し、家族と一緒に食事をするきっかけづくりとして、市教育委員会とともに「家族とつくろう！元気になるヘルシー朝ごはん」と題して朝食のメニューを募集したところ、184 作品の応募があり、その中から市長賞及び教育委員長賞を始め、10 作品を選出しました。入賞者には、市長及び教育長から表彰状と記念品（地元のお米、野菜など）が贈呈されました。

入賞者のメニューは、市広報誌及び市ホームページで公表し、情報を共有しました。



【活動の成果、今後の課題】

市長賞及び教育委員長賞の作品はランチメニューにアレンジし、平成 25 年 5 月及び 6 月に、ひまわり福祉会の運営する旭城レストハウス（尾張旭市城山町長池下 4502）で提供される予定です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「家族でつくって食べよう！元気もりもり朝ごはん」メニューをランチとして提供

取組主体： 尾張旭市、尾張旭市教育委員会

連携団体： 社会福祉法人 ひまわり福祉会

実施時期： 平成 24 年 9 月～10 月 他

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 平成 23 年度健康メニュー優秀作品レシピ提供者及びそのご家族、市民

【取組の内容】

キーワード： 朝食、家族、募集レシピ、最優秀作品、ランチメニュー提供


朝食の大切さを再確認し、家族と一緒に食事をするきっかけづくりとなるように、市教育委員会とともに平成 23 年度に募集した「家族でつくって食べよう！元気もりもり朝ごはん」メニューにおいて、優秀作品のレシピをもとにしたランチメニュー（650 円）を、ひまわり福祉会の運営する旭城レストハウス（尾張旭市城山町長池下 4502）で 9 月及び 10 月の期間限定で提供しました。

これに先立ち、柚木美咲さん（教育委員長賞）、安藤音々さん（教育長賞）とそれぞれのご家族を旭城レストハウスに招待し、試食会を開催しました。「納豆が好きで考えたメニューです。とてもおいしかったです」（柚木さん）、「学校の友達にも知らせて、みんなに食べに来てもらいたいです。また来年も応募したいと考えています」（安藤さん）といった感想があり、家族のかたからも「こうした取組は、子どもの食べ物の好き嫌いをなくすきっかけにもなると思います」という意見をいただきました。



【活動の成果、今後の課題】

児童生徒が考えた朝食メニューをランチメニューにアレンジして提供することで、朝食への関心を高めることができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

野菜スープを作りました

取組主体: 尾張旭市

実施時期: 平成 24 年 8 月 29 日 (水)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 年長児 27 人

[取組の内容] キーワード : 保育園児、夏野菜、栽培体験、収穫体験、野菜スープ

野菜づくりを通して「食べる楽しみを感じられるように！」と、中部保育園の年長児が畑で夏野菜(きゅうり・かぼちゃ・トマト・オクラ・トウモロコシ)の栽培・収穫をしました。

収穫した野菜でスープ作りをしました。初めて使う包丁に少し緊張しながら切っていく子どもたち。「左手は“猫の手”にするんだよね」と指を丸くして手を切らないように確認したり、それぞれ慎重に野菜を切っていました。

スープができあがると「いいにおいだね」「僕が切ったきゅうりがあるよ」「おいしい！」と嬉しそうに食べました。普段、野菜の苦手だった子も進んで食べたり、おかわりをする子もいて自分達で作ったスープに大満足でした。



[活動の成果、今後の課題]

野菜作り・収穫・調理をする経験を通して、作って食べる喜びや、楽しさを十分感じることができ、食べる意欲へとつながっていきました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食の専門家（給食委託業者等）による食育事業講演会

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内小中学校

実施時期: 平成 24 年 9 月 25 日（火） 他

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内小中学校保護者他 延 1,323 名参加

[取組の内容] キーワード：小中学校保護者、給食委託業者等、講演会

食の専門家である給食委託業者等による食育事業の講演会を実施しました。

今年度は、9月25日（学校給食センター）、1月17日（市内中学校）に食の専門家である栄養士の長田 絢 講師を招いて、「食べることは、生きること」と題して、食育事業講演会を実施しました。

10月17日（市内中学校）には、給食センターの調理配送業務委託業者の今井弘子 講師を招いて、「食育セミナー『子供たちの食生活を見直そう』」と題して、食育事業講演会を実施しました。

10月29日、11月7日には、市内小学校でフードアナリストの今井敦子 講師を招いて、「いのちをいただきます」と題して、食育事業講演会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

食の専門家やフードアナリストによる朝ご飯を摂取することの重要性、また、三つ色（赤、黄、緑）のバランスの良い食事を心がけることや児童、生徒の成長期に合わせた献立を考えることで健全な食生活を見直すための食に関する正しい知識を学ぶことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子料理教室（夏休み親子給食作り体験）

取組主体： 尾張旭市学校給食センター

実施時期： 平成 24 年 8 月 2 日（木）

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 市内の小中学校に通う児童とその保護者 12 組

【取組の内容】 キーワード： 小中学生、学校給食、夏休み、親子、調理実習


学校給食を身近に感じていただくために親子料理教室を実施しました。

今年度は、8月2日に学校給食センターにおいて学校給食を実際に作ることでより身近に感じてもらうために「夏休み親子給食作り体験」を実施しました。



【活動の成果、今後の課題】

学校給食センターを食育の拠点施設とし、親子で学校給食を作ることで、食の大切さ親子のふれあいを通じて食の大切さや学校給食を理解することができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

就学前児童の給食センター見学会

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内保育園

実施時期: 平成 24 年 11 月 13 日 (火) 他

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内就学前児童 (年長) 113 名

[取組の内容] キーワード : 保育園児、給食センター、見学

就学前児童を対象に給食センターの見学を実施しました。

今年度は、11月13日、12月10日、2月14日に市内の保育園児（年長）に対し、施設見学会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

来年度、小学校へ入学する保育園児（年長さん）に対し、給食センターの食育施設を活用し、食の大切さ及び食に関する正しい知識を学んでもらうことができました。

また、今回の見学によって、小学生になってからも正しい食生活の習慣を育むことが期待されます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

給食献立募集

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内小中学校

実施時期: 平成 24 年 7 月 31 日 (火)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内小中学校児童生徒 136 名参加

[取組の内容] キーワード : 小中学生、学校給食、給食献立募集

市内小中学校児童生徒を対象に給食献立募集を実施しました。


今年度は、7 月 31 日に学校給食献立選考会を開催し、市内小中学校児童生徒を対象に給食献立募集を実施しました。

児童生徒から 136 点の応募があり、「切り干しだいこんのコールスローサラダ」を始め、10 点を給食に採用しました。



[活動の成果、今後の課題]

児童生徒の考えた献立を学校給食に取り入れることでより魅力的な楽しい給食にし、給食への関心を高めることができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「魚食の伝道師」を小学校に派遣

取組主体: 愛知県

連携団体: 県内小学校

実施時期: 平成 24 年 10 月 16 日 (火) 他

実施場所: 半田市 他

対象及び参加人数: 小学生 793 名

[取組の内容] キーワード : 魚食、水産業、魚食の伝道師、小学校

県では、子ども達に魚食の大切さや漁業のすばらしさ、役割などを伝える「魚食の伝道師派遣事業」を 24 年度から実施しています。

漁業者の方と県職員を、小学校の授業に「魚食の伝道師」として派遣し、「愛知県でとれる水産物」や「愛知県の漁業」に関する講義や実習を通じて、子ども達の漁業や水産物への理解促進を図りました。

- 主な内容 : 漁獲した水産物の展示、水産物に触れる体験、アサリの浄化機能の実験、画像や動画による愛知県の漁業、魚の栄養や海の世界連鎖の講義 など
- 実施個所 : 10 カ所 (小学校)
- 参加児童数 : 793 名



[活動の成果、今後の課題]

本物の漁師さんのお話子どもたちは興味津々で、「今まで獲れた中で一番大きい魚は何ですか?」「海にはどのくらいの貝がいるのですか?」など、たくさんの質問が飛び交いました。そしてスズキなどの漁獲物には「でけー!」などと大歓声でした。

実施後の感想では、「魚をもっと食べようと思った」「本物の魚を見られて、さわられて良かった」などの感想が多く聞かれ、事業の目的は十分に果たせたと考えています。

魚食の普及のためには子どもたちに魚を好きになってもらうことが一番です。県では今後もこのような取り組みを続けていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

子ども達の稚魚放流体験

取組主体: 愛知県

連携団体: 県内小学校等

実施時期: 平成 24 年 4 月 24 日 (火) 他

実施場所: 岡崎市 他

対象及び参加人数: 小学生等 353 名

[取組の内容] キーワード : 川、アユ、サツキマス、小学生、放流体験

愛知県には、木曾川、豊川、矢作川という大きな一級河川が流れ、アユやアマゴなども魚も漁獲されています。県では、川の近くにすむ子ども達に、身近な川の恵みであるアユや降海性アマゴ（サツキマス）を知ってもらおうと、平成 24 年度から放流体験や魚講座を行っています。

- 主な内容 : アユやサツキマスの放流体験
パネル等による愛知県の漁業や水産物の説明 など
- 実施個所 : 7カ所（小学校、幼稚園等）
- 参加児童数 : 353 名



[活動の成果、今後の課題]

放流した魚たちがちゃんと泳いでいくか、子どもたちは心配そうに見守っていました。家のすぐそばの川で漁獲される魚のことや、漁協の人が放流して増やしていることもあまり知らなかった子も多く、貴重な体験になったことと思います。

今後も県では、身近な海や川で漁獲される魚たちのことを地道に伝えていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

平成24年度学校給食調理コンクール

取組主体: 公益財団法人愛知県学校給食会

連携団体: 愛知県教育委員会

実施時期: 平成24年8月3日(金)

実施場所: 愛知県学校給食総合センター(豊明市)

対象及び参加人数: 愛知県内栄養教諭・学校栄養職員・調理員

【取組の内容】 キーワード：学校給食、コンクール、栄養教諭・学校栄養職員、調理員

学校給食における衛生的で安全な食事内容の充実と献立の多様化、調理員の技術の研さんと意欲の高揚を図るために実施しており、今年度は8月3日に開催しました。39回目を迎えた本年度のテーマは、『地場産物を活用したおいしい!「日本型学校給食」』と題し、県内各地から269点の献立が集まりました。その中から、書類審査により選考を通過した10チームが本コンクールに出場し、「自由献立(応募献立)」と「課題献立」により調理を競いました。



【活動の成果、今後の課題】

この取組は、愛知県教育委員会と共催で行い、栄養教諭・学校栄養職員と調理員を対象に実施しました。自由献立(応募献立)には、地域の特産物を使い、子どもたちに食べ続けてほしいという思いのこもった献立が集まりました。課題献立には、地場産物を活用し、さらに「ま(豆類)ご(ごま)わ(海草)や(野菜)さ(魚)し(きのこ類)い(芋類)」を積極的に取り入れた献立が集まりました。

また、調理コンクールの献立をまとめた献立集を作成し、食育の推進および啓発に大きな成果をあげました。今後も、この成果を基に食育の更なる推進と学校給食の充実と発展を図ります。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

地域の人々と触れ合いながら収穫

取組主体: 名古屋市立桶狭間幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 5 月 22 日 (火) 他 2 回 **実施場所:** 名古屋市立桶狭間幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児親子、PTA 役員など 80 名

【取組の内容】 キーワード : 幼稚園児、保護者、PTA、農作業体験、サツマイモ

名古屋市立桶狭間幼稚園では、地域の「ふれあい農園」をお借りしてサツマイモを育てています。5 月に 5 歳児親子と PTA 役員で苗を植え、夏休みには親子で草取りや水やりを行い大切にしてきました。11 月の親子での収穫までの間、PTA 役員が中心になり世話をしてきました。そんな姿を見て、畑を訪れる子どもたちや PTA のみなさんに、地域の方々は、畑のことや肥料のことを親切に教えてくださったり、他の野菜を見せてくださったりしました。また、「ふれあい農園」で種から育てている花の苗を幼稚園に届けてくださり、幼稚園ではきれいな花々が子どもたちを優しく見守ってくれています。

今年はとてもたくさんのサツマイモが収穫でき、年長児が「おいもパーティ」を開いて、年中、年少児を招待しました。他にも幼稚園でふかし芋にして食べたり、全園児が持ち帰ったサツマイモを家庭で料理して親子の触れ合いにつなげたりすることができました。



【活動の成果、今後の課題】

「ふれあい農園」での活動を通して幼稚園と地域が近くなり、子どもたちにとってサツマイモの収穫はいろいろな人々に助けていただいていることを実感できるよい経験となりました。そして、農園での様々な野菜が実っている様子を知る機会にもなり、食べ物への関心や感謝の気持ちにもつながったと思います。また、年長児と年中、年少児との交流や、家庭への話題提供にもつながりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

みんなで餅つき

取組主体: 名古屋市立春田幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 12 月 18 日 (火)

実施場所: 名古屋市立春田幼稚園

対象及び参加人数: 園児・保護者・地域の方

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、地域住民、餅つき、雑煮

名古屋市立春田幼稚園では、毎年 12 月に餅つきをしています。今年は、保護者だけでなく近隣の中学校や地域の方も応援してくださり、一緒につきたての餅でつくった雑煮をいただきました。

この餅つきでは、5 歳児が近くの米屋さんまでもち米を買いに行き、前日に、もち米を一粒もこぼさないように緊張しながら丁寧に研ぎました。

餅つき当日は、せいろにもち米を入れ、園庭に設置したかまどで蒸しあがるのを待ちました。白い湯気がたくさん出て、もち米のいい香りがしてきたとき、一口ずつ食べました。「これがきのうのお米だよね」「ちょっと硬いけどおいしいね」と友達と顔を見合わせたり、はじめて餅つきをする 3 歳児は、「これが餅になるの」と、不思議そうにしたりしていました。はじめは、地域の方がもち米をうすに入れてつくのを「よいしょ、よいしょ」と掛け声をかけて見ました。自分たちの出番になると、きねをもち上げ大人に負けないように力いっぱいつきました。



[活動の成果、今後の課題]

5 歳児は、今迄にも餅つきの経験はありましたが、“地域にもち米の買い物に出かけたこと”“自分たちでお米を研いだこと”は初めての経験で、おもちの元はもち米であったことを実感して学ぶことができました。

また、中学生や地域の方の力強い餅つきを実際に見て、あこがれの気持ちをもつことができ、よい経験になりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子うどん教室開催「ふれあいの中での食育」

取組主体: 知多市立東部幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: うどん作り「出前講座」
チーム麺・メン

実施時期: 平成24年12月13日(木)

実施場所: 知多市立東部幼稚園

対象及び参加人数: 知多市立東部幼稚園 年長児親子 37組

[取組の内容] キーワード：幼稚園児、保護者、うどん、調理実習、出前講座

知多市立東部幼稚園では、親子のふれあい活動の中で、親子で調理したものを味わい、食に関する意識を高めていく機会を作りました。うどん作り「出前講座」チーム麺・メンの方々にご協力いただき、年長親子を対象にした、親子うどんづくり教室を開催いたしました。日ごろ、家庭でもよく食べて親しみのあるうどんですが、作ることから経験したことのある親子は、ほとんどいませんでした。「自分で作れるなんて楽しそう」「どんな風に作るのかやってみよう」と、参加前からうどん作りへの期待が、親子の間で高まっていました。チーム麺・メンの方々のご指導のもと、小麦粉、塩、水を使い、うどん打ちの体験をしました。親子で一緒に体全体を使って、手でしっかりこねたり、伸ばしたり、足で踏んだりしているうちに、自然に親子の会話や協力する動きが出ていました。手間隙かけて作ったうどんは、PTA役員の方が、大鍋直ぐに茹でてくださり、茹でたてをみんなでいただくことができました。「すごい。こんなにおいしいなんて」「家でもすぐにやってみよう」「自分でもやれるかも」と親子や保護者同士の会話で聞かれました。食材作りから体験し、自分で作ったものの作りたてのおいしさを味わい、楽しくて幸せな親子のひとつときとなりました。



[活動の成果、今後の課題]

親子で一緒に作りながら、「もうちょっとこねたほうがいいかな」「うんそうだね」と言ったり、うどん踏みを親子で交替したりしてやりながら、「よいしょ。よいしょ。」とお互いに手を握って、体を支え、掛け声をかけるなど、おいしいうどんを親子共にイメージし、自然なやり取りや共感的な会話やかかわりが多く見られました。うどんという食材は、親しみやすく、どの親子にも作ったり、食べたりすることが受け入れやすかったです。また、自分で作ったものをいただくことが、こんなにおいしく感じるものであることを親子で経験できました。

年長児親子が取り組んでいるのを見て、保護者が是非、来年度経験してみたいと要望がありました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「おいもパーティーをしました。ほらせてくれてありがとう」

取組主体: 名古屋市立二城幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 地域住民

実施時期: 平成 24 年 9 月～11 月

実施場所: 名古屋市立二城幼稚園

対象及び参加人数: 年長児 51 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、地域住民、サツマイモ、収穫体験、感謝

名古屋市立二城幼稚園では、地域のMさんの畑で年長児がさつま芋掘りをさせていただいています。9月頃に畑に行き、芋の様子を見たりMさんからお話をお聞きしたりし、芋掘りを楽しみに待ちます。

今年度も、10月末に芋掘りをしました。1学期に、園で育てた玉ねぎやじゃがいもを使ってカレー作りを経験した年長児は、今度は掘ってきたさつま芋を使って「おいもパーティー」を開きたいと、自分たちでしたいこと、できることを考えました。会場の入り口の看板や飾りを作ったり、お店の人のように、芋を焼く、運ぶ、案内するなどの役割を分担したり、お客さんが喜ぶように余興も考えたりして、小さい組を招待しました。小さい組に「おいしかった」「レストランの人みたい」「楽しかった」など言ってもらい、年長児はとても満足気で、自分たちのしたことで周りの人に喜んでもらえたうれしさを味わいました。さっそく、年長児は、『おいもパーティー』のことを、Mさんに知らせたいと「Mさんのおいもでおいもパーティーをしました」「たのしかったです」「おいもをほらせてくれてありがとう」などと思いきいにお礼の気持ちを、畑まで行って伝え喜んでいました。



【活動の成果、今後の課題】

自分たちで栽培したものを調理して食べる体験とはまた違い、この活動では、地域の方と出会いながら収穫に携わる体験と、人を招待して人に喜んでもらう体験ができました。そして、周りの人のことを考えながら、今までの経験を活かし考えたことをやってみたら「食べる」ことがさらに楽しくおいしくなることを実感し、喜びにつながりました。

今後も様々な人と出会いながら栽培や「食べる」ことを楽しみ、人とのつながりや感謝の気持ちを感じていって欲しいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	❤️食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

みんなでおやつ作り 『お芋で茶きん絞り』

取組主体: 名古屋市立報徳幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 10 月

実施場所: 名古屋市立報徳幼稚園

対象及び参加人数: 4 歳児 22 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、農作業体験、サツマイモ、茶きん絞り

名古屋市立報徳幼稚園では、毎年いろいろな野菜の栽培をしています。自分たちで土づくりから行い、苗を植えて世話をし、収穫したものを調理して食べる体験ができるように計画しています。

4 歳児は、園内の畑でサツマイモを育てました。長い芋のツルを引っ張って芋掘りを楽しんだ後、収穫した芋で茶きん絞りに挑戦。蒸したサツマイモの色や香り、温かさを手のひらで感じながら、一人一人がラップに包まれた材料の形を整えて、茶きん絞りのおやつを作り、おいしく食べました。



[活動の成果、今後の課題]

成長を楽しみにして世話をしてきたものを収穫する喜びや、食べる喜びを十分に味わうことができました。

子どもたちが、野菜にもっと関心をもてるような工夫をして、様々な野菜に出会わせたり、調理に参加させたりしていきたいと考えます。

また、皆で一緒に食べる経験を通して、会食の楽しさを味わい、食べることへの意欲を高めていきたいとも考えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	❤️食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

もしもにそなえて、お父さんと非常食を作ってみよう！ (名古屋市南区役所男女平等参画社会推進事業)

取組主体: 公益社団法人愛知県栄養士会・食育推進委員会

連携団体: 名古屋市南区まちづくり推進室

実施時期: 平成24年8月25日(土)

実施場所: 名古屋市南区生涯学習センター

対象及び参加人数: 名古屋市南区内在住の小学生とその父親を含むグループ9組24名

[取組の内容] キーワード： 備蓄食材、災害レシピ、親子、調理実習

東日本大震災の経験をもとに、愛知県栄養士会では、備蓄食材の活用の仕方を記した、災害レシピ集「いざという時に役立つ災害時の食の備え」を発行しました。

レシピ集では、ライフラインがすべて途絶えたとき、冷蔵庫・冷凍庫にある食品や缶詰・乾物などの備蓄品を使った簡単でおいしい栄養バランスを考えた災害食メニューを提案しています。

この日は、この災害レシピ集を使って、普段料理をする機会が少ない父親とその子供たちにもできる、簡単な非常食の調理実習を行いました。作ったメニューは、さんまの蒲焼ねぎ丼、簡単やきそば飯、乾パンのトマト煮、超カン(缶)タン和え物、ポテトサラダの5品。

慣れない調理でしたが、皆で楽しく、美味しい非常食を作り、災害への備えを再認識できる良い機会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

普段あまり料理をしない父親と子どもたちが、調理実習を通して、親子のコミュニケーションをとる良い機会となりました。

また、非常時には自助の精神が大切で、自分や家族を守るためにも、日頃から災害時の様々な状況を想定しシミュレーションを行い、防災意識を高める必要性を感じていただけました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	❤️食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

知っ得！なっ得！Summer festa in こざかい児童館

取組主体： 生活協同組合 コープあいち

連携団体： 豊川市こざかい児童館 共催

実施時期： 平成 24 年 8 月 29 日（水）

実施場所： 豊川市こざかい児童館

対象及び参加人数： 近隣の親子、子ども 322 人

【取組の内容】 キーワード： コープアドバイザー、児童館、学習、手作り体験、食育啓発

コープあいちの組合員である「コープアドバイザー」が主催する『知っ得！なっ得！Summer Festa in こざかい児童館』を 8 月 29 日（水）に開催しました。

『知っ得！なっ得！Summer festa』は毎年、豊川市周辺の施設で行われており、準備、運営すべてをコープあいちのコープアドバイザーが行います。

平成 24 年は、地域の児童館と共同開催となり、当日は 300 人を超える人が集まりました。生協からは、「正しい箸の遣い方」「着色料」「飲料等に含まれる糖分」「食まるファイブ」「環境輪投げ」などを用いて、食や環境に関わる学習、児童館からは手作り体験などを実施し、地域の子どもたちが楽しく体験をしました。



【活動の成果、今後の課題】

飲料にはどのくらいの糖分（砂糖）が含まれているかや、食まるファイブを用いたバランスの良い食生活などについて、学ぶ機会を提供できました。普段家庭ではなかなか説明できないことなどが学習でき、児童館からは手作り体験などが用意され、有意義な活動になりました。

こうした活動を多くの地域で行い、食育の啓発活動に取り組んでいきたいと考えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

消費者と生産者の交流が貴重な食育の場となっています

取組主体： 生活協同組合コープあいち

連携団体： 各 JA

実施時期： 平成 24 年 5 月、7 月、9 月、10 月

実施場所： 各 JA 営農センター及び圃場

対象及び参加人数： 生協組合員・消費者 2,500 名

【取組の内容】 キーワード：親子、お米作り体験、交流、農協、生き物観察会

「あいちを食べよう 日本の食をたいせつに！」をテーマに、食育の取組を進めました。お米づくり体験交流は、愛知県の JA あいち海部、JA あいち豊田、JA あいち中央、JA あいち三河の圃場で 2,500 名を超える参加で田植え、生きもの観察会・かかしづくり、稲刈りまでを行いました。それぞれに生産者の皆さんから、圃場で田植えの仕方、稲刈りの仕方など丁寧に指導頂き実際に参加者が体験しました。終了後は当該産地で穫れたお米のご飯を頂きながら、お米についての様々なことを学習する場を持ち生産者、農協の皆さんと交流しました。

なお、JA あいち豊田「親子で学ぼう生きもの観察会」は「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進交付金事業」として取り組みました。



JA あいち中央田植え



JA あいち豊田生きもの観察



JA あいち海部稲刈り

【活動の成果、今後の課題】

お米づくり体験交流の取組は、JA あいち海部、JA あいち豊田、JA あいち中央 JA あいち三河の各農協との共催で実施しました。JA あいち豊田の生きもの観察会では、「子どもが大変生き物が好きなので、大よろこびでした。親も一緒に楽しめて貴重な時間を過ごせました。」「雨がたくさんふっていて寒かったけど、色々な生き物がとれて楽しかったです。」「無農薬でたくましく育つ稲がすごいなと思います。食べるものを育てる大変さ、大切さは普段分かっているつもりでも、実際に田んぼや畑に来ると、より実感できます。」との感想が寄せられました。

お米づくり体験交流は、親子で楽しみながら食の大切さ、生産者の苦勞を知る貴重な食育体験となっています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	❤️食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子食育連続企画「くいしんぼひろば」

取組主体: 生活協同組合コープあいち

実施時期: 平成24年6月～平成25年3月

実施場所: コープ小幡
コープ大高インター店

対象及び参加人数: コープあいち組合員 親子15組

【取組の内容】 キーワード：親子、学習会、企画参加

コープあいちで行っている「くいしんぼひろば」は、親子で楽しく「食べること」を学ぶ場です。年長から小学校6年生の子どもとその親を対象に、お買い物や料理、食べものや食べ方のことを知ってもらう学習会などを開催し、「食べること」が大好きになるよう応援しています。

春に一度登録すると、全7回の企画に参加することができます。企画内容は「お店探検と手作りおにぎり」「夏野菜カレーとラッシー作り～買い物からしてみよう」「親子実験教室～ジュースを作ってみよう」「だしの学習会と伊達巻作り」「パエリア作り～三河湾でとれる魚の話」「バスで出かけよう！産地見学」で、買い物から始める親子クッキングやお店探検など、開催会場が生協の店舗である点も活かした企画になっています。



【活動の成果、今後の課題】

どの企画も「楽しかった」と毎回好評の声を頂いています。クッキングや産地見学などと同じように食事バランスの学習企画も入れることで、抵抗なく学習会にも参加していただき、日頃の食事について見直して頂く機会を提供することができました。続けて参加することで参加者同士が仲良くなることもあり、親子だけでなく他の家族も含めて「食べること」を楽しんで頂ける企画となりました。休まず参加するには回数が多いようなので、次年度は回数を少なくし、連続して全企画に参加できるようにします。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知県産加工用トマトの収穫体験、ケチャップづくり

取組主体: 生活協同組合コープあいち

連携団体: 各 J A、コーミ株式会社

実施時期: 平成 24 年 7 月～8 月

実施場所: 豊橋、豊田、知多の圃場及び調理施設

対象及び参加人数: 生協組合員・消費者 359 名

[取組の内容] キーワード : 加工用トマト、収穫体験、ケチャップづくり

愛知県の加工用トマトは古くから生産されてきましたが、輸入トマトなどに押され、減産傾向が続いています。そうした中、地元の加工食品メーカーと一緒に、加工用トマトの収穫体験、そしてそのトマトを使ってのケチャップづくりを消費者が参加して取り組んできました。


平成 24 年度は、12 回開催し 359 名の参加がありました。



[活動の成果、今後の課題]

加工用トマトが露地栽培で栽培されることや、真夏の暑い時期に完熟で収穫され、すぐにケチャップに加工されていることを知りました。生産者と交流することでその苦勞を知り、愛知県産加工用トマトのおいしさ、価値も知ることができました。

生産者が意欲を持って継続して愛知県産加工用トマトを生産して頂けるよう、愛知県産トマトの価値をもっと広く知らせていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

PTAが「お米守り隊」結成

取組主体: 瀬戸市

連携団体: 瀬戸市立西陵小学校PTA

実施時期: 平成24年6月8日(金)他4回

実施場所: 瀬戸市

対象及び参加人数: 市内の保護者36名

[取組の内容] キーワード：PTA、小学生、米作り体験

瀬戸市役所産業課の支援で、田をお借りすることができたのを機に、PTAが「お米守り隊」を結成しました。食育の一環として稲作に取り組む5年生と一緒に、地域の方に教えていただきながら、田植えや稲刈り体験を行いました。

稲作体験をするのは初めての人が多く、体験後は筋肉痛などで大変でしたが、みんなで収穫祭までがんばりました。

刈り取った稲は、一部を家に持ち帰り、手作業で脱穀、粃すり、精米を行い、家族みんなで分け合っていました。一粒のお米の大切さを実感するとともに、農家の方のご苦労に気づき、地産地消への意識も高まった体験でした。

<http://ameblo.jp/utahime-m5/theme20-10059303480.html>



[活動の成果、今後の課題]

体験後の感想では、今後も続けてほしいという意見が多く、稲作への理解とともに、食への感謝の気持ちが深まった様子がわかりました。

子どもの食育の授業を保護者が体験することで、家族で食について話し合ったりする機会が増え、食べ物に対する感謝の気持ちや食べようとする意欲が高まりそうです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子で学ぶ農業塾

取組主体: 瀬戸市

連携団体: JA あいち尾東農業協同組合

実施時期: 平成 24 年 5 月 12 日 (土) 他 9 回

実施場所: 瀬戸市

対象及び参加人数: 市内の親子 8 組 25 名

[取組の内容] キーワード : 親子、農作業体験、調理実習

次世代を担う子供たちとその保護者を中心に野菜の植え付けや収穫、田植えや稲刈りなど一連の農業体験を通じて「食」の重要性、意義、農業の果たしている役割などを肌で感じていただくことを目的に実施しています。

春には、なす、きゅうり、トマト、ピーマン、トウモロコシなどの苗を植え付け、水田では田植えを、夏には植え付けた野菜の収穫や水田の田の草取りも体験しました。

秋には、はくさい、大根、ブロッコリなどに挑戦しました。

その間、農家から提供して頂いた地元で採れた野菜を使ったカレーライスの試食会やもちつきも体験しました。

また、調理実習を行い、収穫した大根を余すところなく使った「大根の葉の炒め物」や「切干大根漬け」、はくさいを使った「はくさいとハムのミルクスープ」などを作っておいしくいただきました。



[活動の成果、今後の課題]

田植えでは、初めての体験のため田んぼに脚を取られる子供たちが多くいましたが、田んぼには小動物も多く棲息し子供たちの歓声が響いていました。野菜作りでも手や服を汚しながらも親子の笑顔を見ることができました。

現在の子供たちは「体験」する場が少なく、体験から学ぶ大切さを提供できる環境づくりを今後も提供していくことが大きな課題であると改めて痛感しています。

また、調理実習では、慣れない手つきで包丁を握る子供たちに、親が優しく包丁の使い方を教える場面もあり、家庭で子供たちが調理の手伝いをするきっかけとなることや食材の大切さを少しでも学んでくれることを期待しています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育体験教室

取組主体: 春日井市

実施時期: 平成 25 年 1 月 27 日 (日)

実施場所: 春日井市

対象及び参加人数: 市内在住の小学生とその保護者 9 組(22 人)

[取組の内容] キーワード : 食育体験教室、小学生、保護者、食べ物、口


「食育体験教室」は身近な食材等を使い、食に対する関心を高め、望ましい食習慣や生活習慣につなげることを目的として、平成 22 年度から実施しています。

今年度は、『食べものと食べるお口』をテーマに、〇×クイズや体験学習を行いました。体験学習では、ビンに入った玄米を棒でついて行う精米やごはんを食べて「1 口 30 回噛む」ことを体験しました。



[活動の成果、今後の課題]

精米体験では、糠が取れる様子を見ようと親子で順番に一生懸命ついていました。参加者からは、「玄米から白米になるまでの仕組みが分かった。」や「噛むことの大切さが分かったので、30 回噛むことを目標にしたい。」などの声がありました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために 2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域	

親子料理教室「魚を食べよう」

取組主体: 江南市

実施時期: 平成 24 年 7 月 28 日 (土)

実施場所: 江南市立古知野西公民館

対象及び参加人数: 市内の親子 16 組 35 名

[取組の内容] キーワード : 夏休み、親子、魚料理、調理実習

江南市では、「食」を通して人との関わりや「食」への興味関心を高めることを目的として、毎年夏休みに親子料理教室を開催しています。今年で 4 年目を迎えました。1 年目は「いわしの蒲焼き」2 年目は「さばの銀紙焼き」、3 年目は「あじのアクアパッツァ」そして、今年度は「メルルーサの香草焼き」を調理し、家族で食べる機会が少なくなった魚に、親しめるようにしました。

今年度は 16 組 35 名が参加し、魚料理以外にも鍋で炊飯をして作った「クリームピラフ」や、そうめんを揚げてサラダのトッピングにした「ぱりぱりサラダ」、ミキサーで簡単にできる「ジェラード」等を作りました。初めての体験に試行錯誤しながらも、料理をすることの楽しさを味わうことができたようです。




【活動の成果、今後の課題】

活動後のアンケートでは「班の人と協力して作れてとても楽しかった」「家ではあまり作らないので、思いっきり料理ができて、満腹になり幸せな気持ちになった」という感想がありました。

本事業は、申し込み開始 3 時間で定員になるほど毎回大変好評です。

今後は、郷土料理や、地元の食材を使用した料理を作り、地元への理解を深められるような機会にもしていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

小学校家庭科調理実習サポート事業

取組主体: 小牧市

連携団体: 小牧市食生活改善推進員

実施時期: 平成 24 年 5 月 22 日 (火) 他 5 回

実施場所: 小牧市 村中小学校・小牧小学校

対象及び参加人数: 小学 5・6 年生

【取組の内容】 キーワード：食生活改善推進員、小学校、調理実習

小牧市で食育推進ボランティアをしている小牧市食生活改善推進員（ヘルスメイト）は、平成 23 年度から依頼のあった小学校に対し、家庭科の授業の調理実習において調理の補助をしています。

ヘルスメイトが調理実習を補助することで、「子どもたちが食の大切さを知り、料理をはじめのきっかけとなり、自分の健康を自分で守れる大人になって欲しい」という思いを伝えるべく、毎回小学校に伺っています。また、補助を行うときは、子どもたちが料理を楽しみと思えるように、次のことに配慮しながら事業を行っています。

- ①自主性を尊重しながら、楽しく調理ができるようにする、②調理内容や作業を確認しながら補助をする、③公平に調理（切る作業など）できるよう配慮する、④家でできるちょっとした工夫や、なぜその作業が必要かなどを伝える、⑤家庭科の教科書を事前に読み、手順等の確認する




【活動の成果、今後の課題】

2 時間の授業で、子どもたちは、包丁が使えるようになったり、おいしい料理が作れるようになったり、毎回楽しそうな声が教室中に響きわたります。先生からは「一人でクラス全員の補助は難しいので、ヘルスメイトさんに来ていただくことによって、安全においしく調理実習を行うことができ、大変ありがたく思っています」との声をいただいております。また、ヘルスメイト自身も子どもたちの成長を見ることができると、この事業にとってもやりがいを感じています。今後の課題としては、現在、依頼をいただいているのが 2 校だけなので、依頼が増えるようにしていきたいと思っております。

《子どもの感想》

私は家では料理をぜんぜんしたことがないので、上手にできるか心配だったけれど、どういうふうにするかを教えてくれたので上手に料理を作ることができました。そのときはとってもうれしかったです。本当にありがとうございました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

今年はとれたよ！大きなお芋！

取組主体： 岩倉市北部保育園

実施時期： 平成 24 年 10 月 30 日（火）、
12 月 4 日（火）

実施場所： 岩倉市北部保育園

対象及び参加人数： 園児 56 名

[取組の内容] キーワード： 保育園、サツマイモ、苗、収穫体験、焼き芋大会、お芋屋さん

北部保育園では畑で作物を育てています。5 月、1～5 歳児までそろって畑へ出かけて行き、みんなでさつま芋の苗を植えました。その後、10 月末までみんなで水やり、草取りをしてその成長を見守りました。

10 月末には大きなさつま芋がたくさんでき、掘るのに一苦労でした。去年は収穫できなかったのも、一生懸命掘って出てきた芋を手にして「ヤッター！先生見てえ」の声。収穫の喜びを味わうことができました。

その芋は焼き芋大会を開いて“焼き芋”にし、12 月にはお店屋さんごっこでお芋屋さんの店を開き、“お芋のバター焼き”で味わいました。子どもたちは「おいしい、おいしい」と大感激でした。



[活動の成果、今後の課題]

自分たちで育てたさつま芋の成長を見守り、収穫できたことは、本当によかったと思います。去年は不作で収穫して食べるには至らず、感動する場面がなかったので、豊作の今年はいろいろな場面で感動する子どもの姿がありました。さつま芋だけでなく、一緒に栽培していた夏野菜も豊作で子ども一人ひとりが自分の手で収穫できました。収穫したものは家にも持ち帰り、親子の会話も弾んだようで、家庭での食育につなげることができました。

今回は、お店やさんごっこの芋を調理室で職員が用意したので、子どもたちが調理に関わることはありませんでした。次回はぜひ収穫したもので子どもたちとクッキングに取り組みたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

給食センター施設見学と給食試食会

取組主体： 長久手市

実施時期： 平成 24 年 11 月 15 日（木）他 1 回

実施場所： 長久手市

対象及び参加人数： 市内在住、在勤者で食育などに関心を持っている個人または団体 30 名

【取組の内容】 キーワード： 給食センター、施設見学、給食試食、地域

長久手市では、給食センターの施設見学及び給食の試食をとおして、給食センターの運営や給食の状況について広く市民のみなさんに知っていただき、「食」について考えるきっかけ作りの一端になるよう給食センター施設見学と給食試食会を実施しました。

平成 24 年度は市内在住、在勤者で食育などに関心を持っている個人または団体の方を対象に 11 月 15 日、1 月 29 日の 2 回実施しました。




【活動の成果、今後の課題】

給食を作っている様子の見学、給食ができるまでの説明を聞いていただき、給食の試食を行い、給食について理解していただく良い機会となりました。

参加者の方々から「安心安全を重視され、とても衛生的な調理環境と調理作業を実現されていることに驚きました。」「家庭的な味付けでおいしかったです。大量調理ですが食材の切り方もきれいで食べやすかったです。」（アンケートから抜粋）等々の感想をいただきました。

今後も定期的に関催していきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

児童体験農業

取組主体: 半田市

連携団体: 農業生産組合、農業委員会 他

実施時期: 通年

実施場所: 各圃場

対象及び参加人数: 小学校（2校）及び保育園（3園） 約390人

【取組の内容】 キーワード：小学生、幼稚園児、農作業体験、米、サツマイモ

児童体験農業として、小学5年生を対象に稲作体験を実施しています。昔ながらの手作業の稲作（田植えから脱穀）を体験してもらい、主食である米がどのように生産されるのかという学習を通じ、農業に対する理解を深めてもらいます。

また、保育園児を対象としては、さつまいも作り（苗植えから収穫）を体験してもらい、自然と直接ふれあう農業の素晴らしさや命の大切さを実感してもらい、農業への関心を高めてもらいます。



【活動の成果、今後の課題】

稲作体験を行った児童からは「たくさんのお米ができてうれしい」、「お米作りの大変さがわかった」、自分たちで育てたお米でおにぎりを作って「苦労したけど美味しい」などの感想がありました。

また、お米について自分たちで調べ、発表するなど学習意欲の向上にもつながりました。

さつまいも作り体験を行った園児からは、「たくさん収穫できてうれしい」、「大きなお芋ができてうれしい」などの感想がありました。

土に触れ、畑に住む虫たちに触れ、たくさんのお芋が収穫でき、最高の笑顔で農業のすばらしさを体験していただきました。

今後、近くに圃場がない小学校・保育園について、どのように対応していくのが課題です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

こども料理コンクール ビストロおぶちゃん

取組主体: 大府市

連携団体: 大府市健康づくり食生活改善協議会

実施時期: 平成 24 年 11 月 18 日 (日)

実施場所: げんきの郷あすなる舎

対象及び参加人数: 応募：182 組、グランプリ戦出場：5 組

[取組の内容]

キーワード： 小学生、保護者、地産地消、調理コンクール、学校給食・レストラン提供

小学生ペア及び小学生とその保護者を対象に、「大府のおいしい野菜を好きになろう！魚をもっと食べよう！」をテーマに、大府産の野菜を1品以上と魚（魚、エビ、イカ等）を1品以上使って、オリジナルレシピを募集しました

182 作品の応募があり、書類審査で5組を選考しました。

11 月 18 日、げんきの郷あすなる舎にて5組によるグランプリ戦を開催しました。実技及び試食審査を行い、優秀作品の表彰をしました。

また優秀メニューのPRとして、優秀作品のうち1作品が2月の学校給食メニューに採用されました。そして、一般向けに市役所レストランで優秀作品のうち2作品をバイキングメニューの中に入れて、12月に3日間提供をしました。約300人が利用し、普段の3倍の利用がありました。



[活動の成果、今後の課題]

学校の夏休みの宿題の中のひとつになっていますが、自由課題であるため、今後も応募数が増えていくかが課題です。今後も給食メニューの採用やレストラン提供など、こどもの励みになるような仕掛けを考えていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

『最強のしょくまるカレー』コンテストを開催

取組主体: 刈谷市

連携団体: 食まるファイブ応援団刈谷

実施時期: 平成 24 年 10 月 28 日 (日) 他

実施場所: 刈谷市

対象及び参加人数: 市内小学校 5・6 年生 672 件

[取組の内容] キーワード : しょくまるファイブ、地産地消、カレー、レシピ募集、給食提供

刈谷（愛知教育大学）で生まれた食育キャラクター「しょくまるファイブ」。キャラクターの名前は、りきまる、ベジまる、にくまる、フルーツまる、ほねまる。それぞれ、食事バランスガイドの主食、副菜、主菜、果物、牛乳・乳製品の各部分に由来しています。合言葉は「5色がそろうと体にいいね！」。

刈谷市では、子どもも大人も大好きな、さらには一皿でいろいろな食材（栄養）をとることが出来る料理「カレー」に着目し、夏休みの期間を活用し、親子で話し合い、5色みんなが含まれた、さらには、地元の刈谷や愛知県の食材を使った、栄養満点で地産地消もバッチリの『最強のしょくまるカレー』のレシピを小学校 5・6 年生から募集し、実に 672 件もの応募を頂きました。

そして、その中から書類審査を経て選出の 5 つのレシピを考案した親子 5 組に参加をいただき、しょくまるファイブの生みの親である愛知教育大学の西村敬子名誉教授を審査員長として、10 月 28 日に親子での調理や食味審査などによるコンテスト本選を開催しました。

その結果、刈谷の特産物である「切干大根」を活用した『切干大根アンドパイナップルカレー』（集合写真は左から 2 番目）が見事、グランプリに輝きました。



[活動の成果、今後の課題]

グランプリレシピの『切干大根アンドパイナップルカレー』は給食の献立となり、3 月 8 日、市内 15 の小学校、6 つの中学校および 16 の幼稚園で子どもたちに提供されました。

考案してくれた児童は「頑張って親と一緒に考えたカレーがみんなに食べてもらえてうれしい。」と喜びながら、カレーを口に運んでいました。

また、同級生からは「パイナップルの甘みが良く効いていておいしい。」と好評でした。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

だいずプロジェクト

取組主体: 特定非営利活動法人だいずきつず

連携団体: JA あいち中央、
一般企業授産所、NPO

実施時期: 平成 24 年 7 月～平成 25 年 2 月

実施場所: 高浜市内

対象及び参加人数: 西三河地区の親子約 50 組 170 名

[取組の内容] キーワード : 大豆、種まき、収穫体験、豆腐作り、家族

豆に関する一連の活動、種まきから生育、収穫、収穫した大豆を用いての豆腐作りという、「自ら作って食べる」という一連の内容が 1 年を通じて体験できることをプログラムにした「だいずプロジェクト」という活動を実施しました。

私たちは、「食育」「共育」「Pay it forward」の 3 つのテーマを基に、子どもたちが生きる力を育んでいけるよう日々活動をしています。食べ物という生命に直結したところから、そのありようを問いかけ続け取り組むことで、食事をするのはもちろん、農作物体験を通じて生育過程を知ったり、ものごとのなりたちや変化などを、自分の身体を使って意識していくことが、感応力・対応力を育んでいく。これが食育の根幹であり、生きる力へと繋がっていく、と考えています。

参加形態は、各家族単位で、家族専用の畑を持っていただくことを基本とし、その畑で大豆を育て収穫をします。種まき後収穫までの間、畑の草取りや大豆の生育観察なども随時行います。観察していた内容を描いていただくコンテストも実施しました。また、屋外での活動時には、昼食を兼ねた食育ランチを実施し、子どもたち自らが調理し青空の下で食事をする機会を設けています。最終回では、収穫した大豆を用いての豆腐作りをしました。Web ページ : <http://daizukids.com>



[活動の成果、今後の課題]

大豆に関する知識を得たり、生育状況を知ったり、調理することを覚えるを通じて、「おいしい」「たのしい」「うれしい」を体感してくれている様子を伺うことができました。参加された保護者の方からは、「自分で進んで取り組んでいく子どもの姿に大きな成長を感じました」「普段はあまり野菜を食べないのに、大豆と野菜たっぷりのカレーを笑顔で食べていました」など、子どもの成長を実感する声を多くいただくこともできました。今後も、より多くの子どもたちが継続的に「おいしい」「たのしい」「うれしい」を体感できる活動に気軽にできるような環境を創っていかねばならないと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍴 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

さつまいもの苗さし会、収穫体験

取組主体: みよし市 **連携団体:** みよし市農業振興クラブ
(市内若手農家)

実施時期: 平成 24 年 5 月 25 日 (金) 他 4 回 **実施場所:** みよし市

対象及び参加人数: 市内の保育園児、幼稚園児の計 843 人

[取組の内容] キーワード : 保育園児、幼稚園児、サツマイモ、若手農家、連携

みよし市では、市内 5 保育園と 3 幼稚園の園児に食べ物の大切さや生産する喜びを知ってもらうため、毎年、「さつまいもの苗さし会、収穫体験」を実施しています。

市内の若手農家による団体「みよし市農業振興クラブ」の指導のもと、園児自ら畑で苗さしと収穫を体験し、農作物を育てることで、命の大切さや農産物がどのように生産されていくのか、また多くの労力や愛情がそそがれている食べ物に対して感謝する気持ちを、学ぶことができました。



[活動の成果、今後の課題]

収穫体験では、小さな苗から、大きなさつまいもができるという感動や、食べ物を育てることの楽しさや大変さなど、命の大切さを教えることができました。

今後も、このような機会を数多くもうけ、子どもたちの地元農業に対する興味をより一層深めたいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍎 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

少年水産教室

取組主体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 7 月 31 日 (火) 他

実施場所: 南知多町他

対象及び参加人数: 県内の中学生

[取組の内容] キーワード : 水産業、中学校、少年水産教室、愛知県漁業士協議会、漁業体験

県では、海に関する知識や技術の学習の場を提供し、水産業に対する関心を深めてもらうことを目的として、中学生を対象に「少年水産教室」を開催しています。

平成 24 年度は 7 月 31 日に南知多町で、8 月 7 日に蒲郡市で開催し、合計 29 名の中学生が参加しました。愛知県漁業士協議会の皆さんの指導による地曳き網の漁獲体験や、水産試験場職員の指導による地元で獲れた魚の分類などを行い、愛知県の水産業と水産物に対する理解を深めていただきました。



[活動の成果、今後の課題]

地曳き網ではたくさんの魚やカニなどが揚がり、参加した中学生は、「知らない魚がいっぱい」と歓声を上げていました。魚の分類では怖々と触りながら、グループで話し合い、図鑑とにらめっこしながら熱心に分類していました。

海の近くに住んでいる子ども達でも、意外と水産物へのなじみは薄いことを感じました。地元の海での漁獲を体験し、獲れた新鮮な魚を自分の目で見て、触れる体験を通じて、魚や水産業についての関心を高めてもらえたかと思います。

今後もこうした取り組みを通じて、食と水産業についての関心を高めていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

給食で年中行事を楽しもう

取組主体: 刈谷市立小垣江幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 25 年 3 月 1 日 (金) 他 7 回 **実施場所:** 刈谷市立小垣江幼稚園

対象及び参加人数: 幼稚園児 180 人

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、給食、年中行事、行事食

刈谷市立幼稚園の昼食は、市内の給食センターで作られる給食です。子どもたちは、温かくておいしい給食を、友達や先生と一緒に食べられることを毎日楽しみにしています。特に楽しみにしているのは、年中行事のある日の給食です。ひなまつりを間近に控えたこの日の給食には、いがまんじゅうが出ました。給食の配膳を始めると「あっ、いがまんじゅうだ」「食べたことある!」「私の家は、おひな様にお供えたよ」と子どもたちの楽しい会話が始まります。「あんこが入っているんだよねえ」「つぶあんかなあ、こしあんかなあ」「ピンクのご飯が付いているよ」と知っていることや気付いたことを友達や先生と伝え合いながら、おいしそうに食べていました。行事にまつわる食べ物が献立に加わることで、見たり、においをかいだり、触ったり、味わったりして、口にすることの少ない食べ物でも関心をもって、食べることができました。この他にも、十五夜の時期には月見団子、クリスマスにはローストチキンやケーキ、正月には雑煮など、年中行事にかかわる食べ物をクラスのみんなど楽しんでいきます。



[活動の成果、今後の課題]

幼稚園では、年中行事を保育に取り入れ、作品を作ったり、お楽しみ会を行ったりして、行事を楽しみながら由来や意味を知る機会としています。行事にまつわる食べ物が給食で出されることで、“この行事のときには、こういうものを食べるんだ”と行事に対するイメージが広がり、“こういう食べ物があるんだ”と食への関心も広がります。クラスのみんなど同じ物を食べ、五感を通して感じた様々なことを共有することができました。普段の食事とは少し違った、行事にまつわる食べ物を食べることを通して、豊かな心を育てていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

箸の持ち方わかったよ！おうちの人と一緒に給食を食べよう！

取組主体： 阿久比町立ほくぶ幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体： 給食センター

実施時期： 平成 24 年 6 月 14 日 (木)、
15 日 (金)

実施場所： 阿久比町立ほくぶ幼稚園

対象及び参加人数： 年少児親子 44 組

[取組の内容] キーワード： 幼稚園児、保護者、給食試食、食事作法、箸の使い方

阿久比町立ほくぶ幼稚園では、毎年、年少組の親子を対象に給食試食会を行っています。子どもたちが幼稚園に慣れてきた6月ごろ、保護者の方も一緒においしく給食を食べたり、幼稚園での給食の様子を知ってもらったりしています。この機会に、給食センターの栄養士さんが毎年楽しい食育のお話をしてくれます。今年度は、畑の野菜を食べて体が元気になることを大きなパネルで楽しく知らせてもらったり、パペット人形のたべる君から上手な箸の持ち方や、食べる時の姿勢、良く噛んで食べることなどの大切さを教えてもらったりしました。子どもたちは、親子で箸の持ち方を確認したり、上手な持ち方に何度も挑戦したりして、箸への関心が高まりました。また、たべる君に応援してもらって、しっかり茶碗をもって姿勢良く食べ、野菜パネルで登場した野菜を発見し、喜んで食べる姿も見られました。




[活動の成果、今後の課題]

「あ！たべる君が見せてくれた持ち方だね。」「うん、ぼく箸持てるよ！見て！」

子どもたちは先生や友達と給食をおいしく食べる中で、箸の持ち方について興味津々です。「友達みたいにやってみよう」、「褒めてもらってうれしいな」など、食事のマナーが友達と楽しく身につけていきます。また、家庭でも箸や食事のマナーについてよく話題になると、保護者の関心も高まりました。

今後も、給食試食会が、親子で箸の持ち方や食事のマナーについての関心を深め、みんなで食べることのうれしさや楽しさも味わえる良いきっかけとなるようにしていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子給食会

取組主体: 刈谷市立井ヶ谷幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 6 月

実施場所: 刈谷市立井ヶ谷幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児親子 40 組

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、給食試食、説法、食事作法

刈谷市立井ヶ谷幼稚園では、食事作法として、礼儀作法や食べ物を大切にすること、人に感謝の気持ちをもつことが大切であると考え、親子給食会を開催しています。

まず、近くのお寺の住職さんに「いただきます」「ごちそうさま」を言うのは、食べ物を作ってくださる方や料理をしてくださる方がいるから自分たちがおいしいご飯を食べられること、そして、食事をするということは動植物の命をいただいていることの説法をいただきました。その後、親子で一緒に給食を食べました。食事の前に手洗いをし、テーブルをきれいに拭きながら食事の準備をしました。一緒に食べる中で、姿勢、箸の持ち方、おわんを持って食べる、嫌いなものでも食べてみる等、互いに意識しながら食事を楽しみました。



[活動の成果、今後の課題]

説法では、子どもたちが真剣に話を聞いていました。その後の給食では、かなり少食で箸が進まない子ども「今日は野菜も食べてみる。農家の人が作ってくれたんだよね」とはりきって食べたり、忘れがちな『ごちそうさまでした』のあいさつを手を合わせて言ったりと、意識することができ、よいきっかけとなりました。

保護者の方からは「おわんを持つことを忘れがちなので気をつけたい」「ひじをつかないでよい姿勢で食べる等のことを家庭でも知らせたい」、「待っている間に、手を膝にのせて待っている姿に成長を感じた」などの感想をいただき、食事の仕方について考えるよい機会となりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

手作り弁当で 箸の使い方を一人一人丁寧に

取組主体: 名古屋市立おりべ幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 通年

実施場所: 名古屋市立おりべ幼稚園

対象及び参加人数: 3歳児学級

[取組の内容] キーワード： 幼稚園児、手作り弁当、食事作法、箸の使い方

名古屋市立おりべ幼稚園では、保護者手作りの弁当を持参し、保護者の愛情を感じながら先生や友達と弁当を食べ、楽しい雰囲気の中で幼児の“食”への興味・関心が高まるようにしています。そして、食事をする時の姿勢や箸の持ち方など、基本的な食事の作法を幼児が身に付けることができるように関わっています。

うまく箸が扱えない子には、教師が一人一人の手を取って持ち方を知らせたり、箸でつまんだものを幼児が口まで運ぶ感覚が分かるよう手を添えて補助をしたりしています。そして、“できた！”という喜びを味わい、教師の助けがなくても自分でもやってみようとする姿が見られます。教師は、子どもと共に喜び、その頑張りをしっかりと褒めます。

保護者にも、子どもの様子と園でのかかわりを伝え、子どもの成長ぶりを共に喜んだり、ときには、弁当の中味を箸でつまみやすい形や大きさにしてもらおうよう協力を依頼したりして、幼稚園と家庭が一緒になって子どもの育ちを支えています。



[活動の成果、今後の課題]

箸がうまく扱えるようになることで、自信となり、食べることにより意欲的になりました。

また、周りの子ども友達の様子に刺激を受け、箸が上手に使えるようになりたいと自分なりに挑戦したり、うまく使えたことを教師に見て欲しがったりするなどの姿が見られ、箸の使い方への意識が学級全体として高まりました。

箸の扱い方を子どもにどのように伝えたらよいかを戸惑っていた保護者も、具体的なかかわり方を知り、我が子のやる気に助けられ、家庭での対応が変わってくると思われまます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

地域の自然の中で

取組主体: 新城市立八名幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 11 月

実施場所: 新城市立八名幼稚園

対象及び参加人数: 全園児 77 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、よもぎ摘み、団子、自然環境、食文化

新城市立八名幼稚園の周りは自然があふれています。本園では、豊かな自然を生かした食育を実践しています。春はよもぎを摘んでよもぎ団子を作ります。保護者もよもぎが生えている場所を教えてください。たくさんのよもぎを摘むことができました。白玉粉によもぎを混ぜて団子を作り、鍋でぐつぐつ煮ます。大きさや形も不ぞろいですが、おいしそうな“よもぎ団子”ができました。

秋はむかごごはんを作ります。炊飯器の中に、洗ったお米と散歩の途中で採ってきたむかごを入れてスイッチ・オン。保育室の中においしそうな香りが漂います。できた“むかごごはん”は自分たちでラップにくるみ、おにぎりを作って他のクラスの子どもたちにもおすそ分けをしました。

他にも野イチゴを摘んで食べたり、ノビルを摘んで家に持ち帰りおばあちゃんたちが酢味噌和えを作ってくれたという報告もあります。四季折々、自然の中で豊かな食文化に触れる体験をしています。



[活動の成果、今後の課題]

食を通して自分たちの地域や自然に興味や愛着をもつことができたと思います。

また、保護者も園での活動に関心を持ち、温かく見守ったり、協力をしたりしてください。

食育活動をきっかけとして、「自然からの恵みの食」を世代間交流へとつなげていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知の郷土料理や地場産の野菜を使った給食 おいしいね！

取組主体: 津島市立津島幼稚園 (愛知県国公立幼稚園長会) **連携団体:** 津島市学校給食共同調理場

実施時期: 平成 25 年 1 月 24 日 (木) ~ 30 日 (金) **実施場所:** 津島市立津島幼稚園

対象及び参加人数: 幼稚園児 87 名・職員 10 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、給食、郷土料理、地産地消、献立カレンダー

津島市立津島幼稚園の給食は、津島市学校給食共同調理場で作られています。

毎年 1 月 24 日から 30 日までの一週間は、学校給食週間ということで愛知県の郷土料理や海部津島地区で作られている農作物を使った献立を学校栄養士が考え、幼稚園給食献立委員会で幼稚園栄養士と職員で園児にあった味付けや園児が食べやすくなるような工夫などを検討しています。

また、毎月 1 回行う幼稚園栄養士による食育指導でも郷土食や地場産の野菜を園児が実際に見たり触れたりして、親しみをもって学んでいます。

保護者には“こんだてカレンダー”を毎月配布し、地場産の野菜を使ったレシピも紹介しています。

《25 年 1 月 24 日～30 日 学校給食週間献立表》

24日	25日	28日	29日	30日
きしめん ぎゅうにゅう れんこんサンドフライ きしめんじる みつばのおひたし いろいろ	ごはん ぎゅうにゅう たらいなまんふうつつみゆき こしづねぎのひきずり にんじんのレモンあえ くつわ	ごはん ぎゅうにゅう ぎんなんいりかきまし たこいりハンバーグの みずなあんかけ かきたまじる	ごはん ぎゅうにゅう もろこのつくだに みそに こまつなのしょうがあえ がまごおりみかんゼリー	なめし ぎゅうにゅう てばさき れんこんだんごじる にまめ いちご
れんこん・にんじん きしめん・いろいろ	こしづねぎ・にんじん くつわ	ぎんなん・みずな にんじん	もろこ・こまつな がまごおりみかん	れんこん・いちご てばさき

[活動の成果、今後の課題]

郷土食は園児たちには馴染みのないものも多くありますが、友だちと一緒に食べることや「先生の小さいときよく食べたよ」と話をしたり、食育指導で実際の野菜を見たり触って親しんだりすることから、どの子もおいしそうに食べています。

また、保護者の中には、こんだてカレンダーのレシピを参考にして家庭で作るなど好評です。

今後も、子どもたちが郷土食に関心がもてるような工夫や何気なく食べている野菜が近くで作られていることなどを知らせ、近隣の畑の様子を話題にしたり、園菜園などにも取り入れたりしていけたらと思います。

【ライフステージ】	【取組の場面】	【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校
壮年・中年期	高齢期	職場	地域
		食を通じて豊かな心を育むために	
3 食文化や食事作法等の理解と継承			

栄養教諭・学校栄養職員を対象とした食農教育研修会

取組主体: J A 愛知中央会

連携団体: J A 愛知西

実施時期: 平成 24 年 10 月 27 日 (土)

実施場所: J A 愛知西管内

対象及び参加人数: 愛知県下の栄養教諭・学校栄養職員約 30 名

【取組の内容】

キーワード: 学校給食、栄養教諭、学校栄養職員、収穫体験、加工見学

学校給食は、子供たちに地域の農産物を食べてもらう絶好の機会であり、食の背景にある生産の現状、農業の価値、流通等について学んでもらうきっかけにもなります。

このため、J A 愛知中央会では県下の栄養教諭・学校栄養職員を対象として、生産現場の視察、体験等を通じた相互の交流を目的として研修会を開催しています。

平成 24 年度は J A 愛知西管内（稲沢市）において越津ねぎの圃場を見学し、実際にねぎの収穫を体験していただきました。また、同じく J A 愛知西管内の稲沢市祖父江町においてギンナンの圃場と商品になるまでの加工工程を見学していただきました。

昼食では、給食献立の参考にさせていただけるよう、それらの農産物を使った料理を味わっていただきました。



【活動の成果、今後の課題】

事後アンケートでは「農家の皆さんから直接話を聞ける機会がなかなか無いのでたいへん参考になった」、「地元で勤務していても地域の野菜について知らないこともあり、とても参考になった」、「この研修会で学んだことを子供たちに伝えたい」といった意見をいただき、栄養教諭・学校栄養職員のみなさんにとって有意義な研修会になったと思います。愛知県の特産物についてより多くの事を知っていただき、学校給食へ導入していただけるよう、今後もこのような研修会を開催していく予定です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

ふれあい給食「愛知を食べる学校給食の日」

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内生産者、市内小中学校

実施時期: 平成 24 年 6 月 19 日 (火)、
平成 25 年 1 月 24 日 (木)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 旭丘小学校の 5 年生、旭小学校 3 年生

【取組の内容】 キーワード：愛知を食べる学校給食の日、小学生、地元農産物、イチジク

「愛知を食べる学校給食の日」にちなみ、ふれあい給食を 2 校で実施しました。

今年度は、6 月 19 日に旭丘小学校 5 年生が野菜の生産者とともにふれあい給食を楽しみました。

また、1 月 24 日には旭小学校 3 年生の児童がイチジクの生産者とともに、尾張旭市産のイチジクをジャムにして使用した「イチジクタルト」を給食メニューとしていただきました。

各校では、地産池消を啓発するため市内産タマネギや県内産の食材を P R するポスターを張り、校内放送で伝えたりしました。



【活動の成果、今後の課題】

地域の農産物や食文化に理解を深めてもらうことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

学校給食への地場産野菜の供給

取組主体: 長久手市
長久手給食食材生産会

連携団体: (株)長久手温泉

実施時期: 通年

実施場所: 長久手市

対象及び参加人数: 市内小中学校生

[取組の内容] キーワード：小中学生、地元農産物、伝統野菜、学校給食

長久手市、長久手給食食材生産会（平成 23 年 3 月設立）及び（株）長久手温泉（アグリ事業部）が連携し、地場産野菜を学校給食へ安定的に供給しています。

市内農家の任意団体である長久手給食食材生産会は、学校給食に安心安全な野菜を供給するため、長久手独自の生産管理工程（N-GAP）による野菜栽培を行っています。

また、長久手市の伝統野菜である「真菜（まな）」を自家採取、栽培し、給食の食材として供給しています。



長久手の伝統野菜の真菜



学校給食用の野菜の生産者

[活動の成果、今後の課題]

平成 24 年度は、4,293kg（2 月末日まで）の長久手産野菜を納入しました。

今後は、納入量をさらに増やしていくとともに、子どもやその保護者に対し、安心安全な長久手産の野菜の PR に努めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知を食べる学校給食の日

取組主体: 長久手市（愛知県内の全市町村）

実施時期: 平成 24 年 6 月 19 日（火）他 2 回 **実施場所:** 長久手市

対象及び参加人数: 市内の小中学校の児童、生徒及び教職員約 5,380 名

[取組の内容] キーワード：愛知を食べる学校給食の日、小中学生、地元農産物、伝統野菜

長久手市では、学校給食において「愛知を食べる学校給食の日」を食育月間の 6 月 19 日、旬の食材が豊富な秋の 11 月 15 日、「全国学校給食週間」が行われる 1 月 29 日の 3 回実施しました。

地場産物を多く取り入れた献立を実施し、給食だよりに地元で採れる野菜や生産者、郷土料理等を紹介し、児童生徒への啓発や保護者への協力の呼びかけを行いました。



[活動の成果、今後の課題]

学校給食における地場産物を使用する割合が増加しました。（平成 24 年度愛知県産 38.2% 前年度より増加しました）

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

学校給食への地場産物の活用

取組主体: 長久手市 **連携団体:** 長久手給食食材生産会
長久手市役所田園バレー事業課

実施時期: 平成 25 年 1 月 25 日 (金) 他 2 回 **実施場所:** 長久手市

対象及び参加人数: 長久手給食食材生産者会の生産者、
市役所田園バレー事業課職員、給食センター職員 14 名

【取組の内容】 キーワード： 学校給食、給食食材生産会、給食だより、生産者交流

長久手市では、給食センターで使用する食材の使用分の確保や規格を統一するために平成 23 年度に長久手市給食食材生産会が設立され、食材の品目ごとに規格の点検項目を作成し、品質管理を行う体制が整えられました。

毎月の献立表で地元産の食材及び生産者の方々の紹介を行い、学期ごとに発行する給食だよりでは農作物の栽培の様子や生産者の方々の写真を載せ、地元産の食材や生産者の方々が身近に感じられるようにしています。

生産者の代表、市役所田園バレー事業課、給食センターの 3 者で現状や問題点を話し合う場を学期に 1 回設け、お互いの理解を深める機会を設けています。今年度第 3 回目の会議の前には長久手で作られた「真菜（まな）」を使った給食の試食を行い、意見交換を行いました。



【活動の成果、今後の課題】

給食を作っている様子の見学、給食ができるまでの説明を聞いていただき、給食の試食を行い、給食について理解していただく機会となりました。

生産者会議は今後も定期的に行いたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	3 食文化や食事作法等の理解と継承
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「この野菜はなあに？」クイズで野菜が大好きに！

取組主体： 安城市立さくの幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体： 給食センター

実施時期： 平成 24 年 11 月 26 日 (月)

実施場所： 安城市立さくの幼稚園

対象及び参加人数： 年長組

[取組の内容] キーワード： 幼稚園児、給食、地産地消、野菜、クイズ

安城市立さくの幼稚園では、給食センターの職員(栄養士)に来ていただき、安城市地産の野菜を、「この野菜はなあに？」クイズを実施しながら、野菜に関心をもたせるようにしています。

クイズ終了後、クイズに出てきた野菜が今日の給食の中に隠れていることを知らせ、楽しい雰囲気の中で給食に興味をもって残さず食べられるようにしています。



[活動の成果、今後の課題]

子どもたちは、クイズを楽しみながら地元産の野菜に関心をもち、給食も残さず食べることができました。また、栄養士さんから、地産の野菜を作っている人のことや、野菜の栄養などの話を聞き、食べているときも野菜についての会話が聞かれました。

今後も栄養士さんや生産者の方たちから、野菜についての話を聞く機会を設けていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍴 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「残さずたべよう もったいない！」

取組主体: 岡崎市立矢作幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 岡崎市環境部

実施時期: 平成 24 年 11 月 2 日 (金)

実施場所: 岡崎市立矢作幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児 52 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、市役所環境部、食べ残し、おかざきエコプロジェクト、環境問題

岡崎市立矢作幼稚園では、市役所環境部の協力を得て、食育の一環とし「食べ残し」と環境との関係について学びました。この内容は、地域の自然を大切にす気持ちや環境を守るために行動する力を育むことを目的とした「おかざきエコプロジェクト」のプログラムの一つです。「もったいない・・・食べ残しはどこに行くの?」といった子どもたちの疑問について、野菜運びゲームを通して、捨てられてしまった野菜がごみ収集車でごみ焼却所に運ばれ、燃やすと煙が出て地球の温暖化につながることを分かりやすく、環境部のスタッフから教わりました。わかりやすい図を使っての話や環境戦隊「エコマンダー」の登場で、子どもたちは「わあ、エコマンダーだ!」と歓声をあげ、環境問題について知識を得たり、考えたりする良い機会となりました。




[活動の成果、今後の課題]

その日の給食の時間では、「残したら、もったいない」「そうだよね」「私、牛乳が苦手、でも頑張って半分飲んでみる」など、と子どもたちから声が出ました。また、食べ残しが出ないようにするためには、どうしたらよいかを子どもたちが考える場を設けたところ、「食べきれぬ量にする」「よくばらない」「きれいに食べる」との声が出ました。

「食べ残しすると、シロクマさんが病気になってしまう」「地球が苦しくなる」「空気が汚くなる」などと、子どもたちから話をしてくれましたなど、保護者からの声も聞かれました。

体調、アレルギー体質、食の細い子、偏食など配慮が必要な子どももいるので、職員が配慮すべき点はきめ細やかにを行うように、再度職員で確認し合う機会にもなりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

レストランでお食事

取組主体: 常滑市立常滑幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 25 年 1 月 22 日 (火)

実施場所: 常滑市立常滑幼稚園

対象及び参加人数: 常滑幼稚園 5 歳児

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、レストラン体験、食べ残し、給食、クイズ

常滑市立幼稚園では、常滑市学校給食共同調理場を利用した給食を実施しています。園内の調理場での調理ではないため、どんな食材が使われているかを知ることで、食べ物への関心をもち少しでも食べ残しがないように働きかけています。

本園では、隔年で『レストランでお食事』と『おなかのすく日』という行事を設け、食べ物を大切にする機会としています。今年度は、遊戯室をレストランの雰囲気にし、メニューを作り献立の内容を知らせ、ウェイトレスになった教師が丁寧に説明をしました。いつもとは違う気分で給食を食べ、給食の素材にも興味をもちながら、食べ残しをせずおいしくいただく経験をしました。

普段の給食では、給食献立表を通して、赤・黄・緑の食品の役割や食材を知らせています。


また、栄養士の幼稚園訪問では、当日の給食に使われている実際の食材を子どもたちに見せながらのクイズがあり、楽しみながら給食の献立への興味が深まる良い機会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

少しきどった表情で、「たまねぎおいしいね」「これブロッコリーだよ」「キャベツが甘いよ」などと言葉を交わしながら、どの子も残さずきれいに食べていました。

今後も、学校給食共同調理場と連携して、食材を身近に感じ味わって大切にする機会を設けていきたいと思っています。次年度は『おなかのすく日』で、食の大切さを伝えていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

県産品に込めた生産者の思いを消費者に伝える取組を支援しました

取組主体: 愛知県

連携団体: 大学教授、消費生活アドバイザー、事業コーディネーター等

実施時期: 平成 24 年 11 月他

実施場所: 愛西市 他

対象及び参加人数: 農業者や漁業者の法人等 8 主体

【取組の内容】 キーワード：農林水産物、PR、あいちブランド創出委員会、コンサルティング活動、支援

県では、品質や活動に特徴のある本県の農林水産物や農林漁業者の取組を掘り起こし、その魅力を有識者により磨きあげ、併せて消費者に PR することにより、本県の農林水産業や農林水産物等の全体的なイメージアップを図っています。

平成 24 年度は、大学教授、消費生活アドバイザー、民間の事業コーディネーターからなる「あいちブランド創出委員会」を現地において 7 回開催し、愛西市の「ミニトマトを使った加工品」や西尾市の「牧場主自らが生産する乳製品」の販売など 8 つの取組に対して、それぞれの課題に応じたコンサルティング活動を実施しました。


このうち 5 つの取組については、県産農林水産物やその加工食品の展示会である「あいちの農林水産フェア」において、消費者ニーズの把握や商品の PR を行うブースを出店した他、生産者や流通関係者など幅広い事業者が集い、情報交換や商談を行う「農商工連携ビジネスフェア」への参加を支援しました。



【活動の成果、今後の課題】

これらの支援を契機として、例えばミニトマトをフルーツ感覚でラッピングした新商品のコンビニ販売に向けた検討やチーズ作り体験キットの商品化に向けて地域の学校との連携が始まるなど、新たな取組が進んでいます。

県では、引き続き地域の特徴ある取組に対して、「あいちブランド創出委員会」の開催やイベントへの出展の誘導などをしていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知産ジビエの消費拡大に向けて

取組主体: 愛知県

連携団体: 特定非営利活動法人
ボランティアネイバーズ

実施時期: 平成 24 年 12 月 8 日 (土)、
平成 24 年 12 月 9 日 (日) 他 12 回

実施場所: 豊田市
(道の駅「どんぐりの里いなぶ」)

対象及び参加人数: 一般 3,900 人

[取組の内容] キーワード : 愛知産ジビエ、PR、イベント

農家の皆さんが一生懸命作った野菜などをイノシシやシカが食べてしまうということが増えてきました。対策として柵で田や畑を囲っていますが、被害を防ぎきれていないのが現状です。

そのため、やむを得ずイノシシやシカを捕獲していますが、捕獲したイノシシやシカの肉は地域資源“愛知産ジビエ”として流通させるため、消費拡大の取組を進めています。

<http://www.pref.aichi.jp/0000049802.html>

愛知産ジビエの定義

県内で捕獲され、県内の食品営業許可（食肉処理業）を受けた処理場で処理されたイノシシとニホンジカの肉のこと。

ジビエ(フランス語:gibier)

狩猟によって、食材として捕獲された野生の鳥獣、もしくはその肉。




[活動の成果、今後の課題]

9月8日～9日に開催されました「ふるさと全国県人会まつり 2012」会場内で、愛知産ジビエを使ったソーセージを1,000名の来場者に無料試食していただきました。

12月8日～9日に開催しました愛知産ジビエと本県農林水産物などを材料とするオリジナルのジビエ料理を販売する「ジビエ・グルメ・グランプリ」には3,900名の来場者があり、アンケート結果では、90%の人から「おいしかった」との評価を得ました。また、継続して開催して欲しいとの声も寄せられています。

各種イベントでのアンケートでは「食べる機会がない」との回答が多く寄せられていますので、愛知産ジビエを使った料理を食べることができる飲食店を増やすとともに、消費拡大イベントの開催により消費者の皆さんに愛知産ジビエを知っていただく機会を増やす取組を進めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知県茶会の開催

取組主体: 愛知県

連携団体: 愛知県茶業連合会

実施時期: 平成 24 年 10 月 8 日(月)

実施場所: 愛知県公館 (名古屋市中区)

対象及び参加人数: 市町村長関係者、愛知県議会議員関係者、関係団体、西尾市立中学校の茶道部生徒等の合計 246 名

[取組の内容] キーワード : お茶、お茶の文化、茶会、PR

平成 23 年 4 月に施行された「お茶の振興に関する法律」に基づき、お茶の消費の拡大、お茶を活用した食育の推進及びお茶の文化の振興を図るため、県が主催する「愛知県茶会」を初めて開催し、県内の茶産地紹介等、茶に関するPRを行いました。

茶会は愛知県公館の庭園において、午前中に 3 席、午後から 3 席の計 6 席 (1 席 40 分間) を野点により行い、大村知事が席主となり、表千家同門会愛知県支部野口裕記副支部長の協力をいただいて開催しました。


また、茶に関するPRについては、愛知県公館の 1 階ラウンジにおいて、県内の茶産地の紹介や生産されているせん茶、かぶせ茶、てん茶 (抹茶の原料)、紅茶等の茶葉、商品やパンフレットを展示し、「あいちの茶」をPRしました。また、県内小中学校における茶に関する取組、茶を活用した食育ボランティアの取組、茶の新たな利用方法について、パネル、写真、参考資料の展示や料理レシピの配布等で紹介しました。



[活動の成果、今後の課題]

参加者には、緑深い公館の庭園でお茶の伝統と文化に深く親しんでいただき、お茶の文化の浸透、振興の気運の醸成を図り、「あいちの茶」を知っていただく良い機会となりました。茶会の状況は、多くの新聞やテレビで報道され、県産茶の知名度向上、本県茶産業の振興につながりました。

また、「あいちの紅茶」コーナーの展示がテレビ局取材陣の目に留まり、「あいちの紅茶」の生産状況についての放映がなされるなど、良いPRになりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

漬物創作料理の試食を行いました！

取組主体： 愛知県

連携団体： (公社) 愛知県漬物協会

実施時期： 平成 24 年 11 月 15 日 (木)

実施場所： 丸栄 (名古屋市中区)

対象及び参加人数： 一般来場者：試食 300 名、アンケート 550 名

【取組の内容】 キーワード：あいちの農林水産フェア、漬物振興、漬物創作料理、レシピ

あいちの農林水産フェアにおいて、(公社) 愛知県漬物協会と共催で、漬物振興のため、漬物創作料理の試食やパネル展示、アンケート等を実施しました。今年で 2 回目ですが、初日ということもあり、6 種類、50 食ずつ用意した試食品がすぐになくなるなど、去年に引き続き大盛況でした。

ところで、漬物というと塩分がとかく敬遠されがちですが、既に低塩分化が進んでおり、消費者が考えているよりずっと塩分が少なくなっています。また、味が野菜などに染み込んでいることから、調味料いらずの食材として活用できるため、塩分を気にせず、調理時間の短縮につながり、さらに野菜が摂取できるという一石三鳥の料理レシピが多く、用意したレシピのパンフレットもなくなってしまいました。


なお、漬物創作料理のレシピは (公社) 愛知県漬物協会の HP で公開しています。



写真：左から守口漬ちくわピザ、豆乳キムチープ、守口漬入チョコブラウニー

【活動の成果、今後の課題】

多くの来場者に「おいしかった」と大変好評で、漬物を使った料理のおいしさや楽しみ方、さらに料理への活用方法などを広く知っていただくことができました。しかし、来場者が多かったため、対応に追われ、あまり消費者との交流を図ることができませんでした。今後は、提供する側と消費者との交流が図れるよう配慮していきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

守口大根（レプリカ）と記念撮影を行いました！

取組主体：（公社）愛知県漬物協会

連携団体：愛知県

実施時期：平成24年11月3日（土）

実施場所：愛知県庁（名古屋市中区）

対象及び参加人数：一般来場者

【取組の内容】

キーワード：県庁公開イベント、漬物振興、守口ダイコン、記念撮影、チャリティー販売

愛知県の県庁舎公開イベントにおいて、漬物振興のため、漬物のチャリティー販売会やパネル展示、アンケート等を実施しました。本年度が初めての参加でしたが、守口大根（レプリカ）と記念撮影できるコーナーは、親子連れに好評でした。親子連れの中には、愛知県の伝統野菜である守口大根や守口漬を知らない大人もいて、長さ1mと本物より少々小ぶりのレプリカにさえ驚いていました。また、来場者との漬物談義にも花が咲き、とても良い交流の場となりました。


なお、チャリティー販売の売上は、全額、日本赤十字社愛知県支部に東日本大震災の義援金として寄付されました。

※愛知県の伝統野菜である守口大根は、世界一細長いとされる大根で、長いものは1.8mを超えることもあり、愛知県の扶桑町と岐阜市の一部、大阪府の守口市でわずかに生産されている珍しい大根です。ほぼ100%が高級奈良漬の守口漬になります。



【活動の成果、今後の課題】

多くの来場者に「おいしかった」と大変好評で、漬物を使った料理のおいしさや楽しみ方、さらに料理への活用方法などを広く知っていただくことができました。しかし、来場者が多かったため、対応に追われ、あまり消費者との交流を図ることができませんでした。今後は、提供する側と消費者との交流が図れるよう配慮していきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

生産者によるあいち産いちじくの消費宣伝活動

取組主体: 愛知県果樹振興会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県

連携団体: (社) 愛知県農林会館ほか

実施時期: 平成 24 年 9 月 7 日 (金)

実施場所: 名古屋市中区及び熱田区

対象及び参加人数: 消費者約 1,000 人

[取組の内容] キーワード : あいちのいちじくフェア、生産者、PR、試食、即売会

県内の農家が生産した自慢の「いちじく」のできばえを競う、第 34 回愛知県果実品質改善共進会に出品されたいちじくを用いて、生産者が自ら消費宣伝活動などを行う「あいちのいちじくフェア」を開催しました。

開催場所は、名古屋市中区にある J A あいちビルと同熱田区のイオンモール熱田店の 2 か所で、生産者が、いちじくの試食会を通じて、栽培のこだわりや県産いちじくの良さなどを直接、消費者に伝えました。

イオンモール熱田店では、試食会と併せて、いちじくの即売会を行うとともに、(株) プチフレーズ (洋菓子店) の協力を得て、家庭で作ることができるいちじくのお菓子を展示し、その作り方を伝えました。

また、フェアの一環として、J A あいち経済連がイオンモール熱田店に会場した消費者を対象にアンケートを実施し、いちじくを食べる頻度やその目的、果実に求める品質条件などの把握に努めました。



写真1 試食用のいちじく



写真2 試食の様子
(JAあいちビル)



写真3 試食の様子
(イオンモール熱田店)

[活動の成果、今後の課題]

今回のフェアでは、高品質ないちじくを約 1,000 人の消費者に試食してもらうことができ、広く消費者にいちじくの美味しさを伝えることができました。

アンケートからは、「いちじくを普段から食べない」人が全体の約 55% で、そのうち約半数は「いちじくを食べたことがない」ということや、若年層を中心に「いちじくを食べない・食べたことがない」人が多いことがわかりました。引き続き、試食を通じていちじくの美味しさを伝え、消費拡大につなげていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

生産者によるあいち産かんきつの消費宣伝活動

取組主体: 愛知県、愛知県果樹振興会

連携団体: (社)愛知県園芸振興基金協会

実施時期: 平成24年12月1日(土)

実施場所: 金山駅(名古屋市中区)

対象及び参加人数: 消費者

[取組の内容] キーワード：あいちのかんきつフェア、生産者、PR、あたらしいみかんのむき方

本県産のみかんの消費拡大を図るため、「あいちのかんきつフェア」を開催しました。

今回のフェアでは、金山駅連絡橋イベント広場で本県産のみかんをお値打ち価格で販売するとともに、生産者と消費者の思いを伝える取組として、フェアでみかんを購入していただいた方々から、本県産のみかんに対する意見・感想を募集し、みかん生産者の心に響く意見・感想をいただいた方に、本県産のみかんをプレゼントしたり、おいしいみかん探しゲームなどの取組を実施しました。

また、消費者に一層みかんに親しんでもらえるよう金山駅そばの名古屋都市センターで、みかんの皮を動物の形にむく「あたらしいみかんのむき方ワークショップ」を併せて実施しました。



写真1 みかん販売の様子



写真2 おいしいみかんを探す参加者



写真3 ワークショップ作品「ウサギ」

[活動の成果、今後の課題]

みかんの即売は、昼過ぎには売り切れ状態になるなど非常に好評でした。おいしいみかん探しゲームには消費者約200名が参加し、ゲームを通じて、おいしいみかんの見分け方を学ぶとともに、みかんに親しんでもらうことができました。

また、あいちのみかんに対する意見・感想を募集した結果、15名の消費者から意見・感想が寄せられました。その中には「購入したみかんの一部に味が良くないのがあった」など厳しい意見もありましたが、生産者もそれを真摯に受け止め、今後の生産・出荷改善につなげようとする雰囲気が醸成されました。

引き続き、今回のような体験型のイベントを通じて、本県産みかんに親しむ機会を提供するとともに、意見・感想の募集など生産者と消費者の思いを伝える取組を通じて、より多くの消費者のみかんに対する関心を高めていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域	

あいちの魚ジャンボカルタ大会

取組主体: 愛知県

連携団体: 名古屋市中心卸売市場

実施時期: 平成 24 年 10 月 28 日 (日) 他

実施場所: 名古屋市他

対象及び参加人数: 小学生等

[取組の内容] キーワード : あいちの四季の魚、ジャンボカルタ、お魚カード

「あいちの四季の魚」の PR の一環として、小学生以下の子ども達を対象とした「あいちの魚ジャンボカルタ大会」を開催しました。

このイベントは、「あいちの四季の魚」を始めとする愛知県の水産物について、子ども達に興味をもってもらうことを目的に企画したもので、県内で水揚げされる代表的な水産物 53 種類について、A3 サイズのカードを作成し、ラミネートコーティングしてカルタに仕上げました。

きれいな絵が描いてあるカルタは子ども達の人気を集め、職員が魚の名前や特徴などを読み上げると、子ども達は真剣な表情で一心に探し回っていました。そして見事探し当てた子どもには、同じ絵柄の「お魚カード」を贈呈しました。


実施イベント	場所	実施日	参加人数
水産試験場公開デー	愛知県水産試験場 (蒲州市)	24 年 8 月 4 日	60 人
ふれあい市場まつり 2012	名古屋市中心卸売市場 (名古屋市)	24 年 10 月 28 日	90 人



[活動の成果、今後の課題]

ウナギやタコなどおなじみの水産物を除けば、ほとんど名前がわからないという子どもが大半でした。

「魚離れ」が言われて久しいですが、水産物をもっと食べてもらうためには、まずは水産物を知ってもらうことが大切です。今後とも、愛知の水産物に親しみ、知ってもらうための取組みを続けていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

水産試験場公開デー

取組主体: 愛知県

連携団体: 愛知県漁業士協議会、愛知県漁連
三谷水産高校

実施時期: 平成 24 年 8 月 4 日 (土)

実施場所: 蒲郡市

対象及び参加人数: 一般県民 413 名

[取組の内容] キーワード : 水産業、水産試験場、一般公開デー

水産試験場では、県民の皆様に試験研究成果の紹介や水産業への関心を高めていただくことを目的に、毎年夏休みに蒲郡市の本場で一般公開デーを開催しています。平成 24 年度は 8 月 4 日 (土) に開催しました。

展示内容は、試験研究成果のパネル紹介、水生生物の展示、国内でも有数の規模を誇る干潟再現水槽の見学などの学習コーナーだけでなく、金魚すくい、タッチプール、チリメンモンスター探しなどの体験コーナー、干潟で多く獲れる貝の試食や、漁業士の皆さん提供の海の幸の試食などグルメコーナーなど、様々な楽しめる企画を用意しました。

来場者数は 413 人を数え、小学生の親子連れの方が多くおられました。夏休みの宿題に活用しようと、職員に熱心に質問していた子ども達の姿もありました。




[活動の成果、今後の課題]

水産試験場の強みを活かし、ウナギつかみやマテガイとり体験など、実際に生きた水産物に触れる企画に力を入れました。来場された方のアンケート結果でも、「体験型の企画がたくさんあって良かった」との声が多く聞かれました。

干潟モンスターを探すコーナーでは、海草の中から小さい生き物を熱心に探す子ども達の姿がありました。見るだけでなく、触って、そして味わう体験を通じて、愛知県の海の豊かな生産力を実感していただけたかと思えます。

今後も地元の水産物を使った企画を通して、一般県民の方々が水産業に対する関心を高めていただくきっかけを作っていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「あいちの四季の魚」啓発普及活動

取組主体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 10 月から

実施場所: 県内全域

対象及び参加人数: 一般県民

[取組の内容] キーワード : あいちの四季の魚、PR、普及啓発資料

県では、伊勢湾・三河湾の豊かな栄養に育まれた、愛知のおいしい水産物を県民の皆様にご存知いただき、地産地消を進めるため、代表的な水産物 8 種類を「あいちの四季の魚」として選定し、平成 24 年 2 月 27 日に公表しました。

平成 24 年度は、この「あいちの四季の魚」を PR するために、パンフレット等の啓発普及資料を作成し、県内各地で PR 活動を行いました。

○あいちの四季の魚

- 春の魚 (3～5 月) アサリ、コウナゴ
- 夏の魚 (6～8 月) ウナギ、シラス
- 秋の魚 (9～11 月) ガザミ、スズキ
- 冬の魚 (12～2 月) トラフグ、ノリ




【活動の成果、今後の課題】

- ・パンフレット 10,000 部を作成し、県内各機関に送付

主な配布先：県内全小学校、流通機関（いいともあいち推進店）、全市町村、水産関係団体 等

- ・県民生活プラザや名古屋港水族館等に、配布用パンフレットを設置
- ・パンフレット、クリアファイル、チラシ等を各種 PR イベントで配布

まだまだ知名度が低い水産物も多いため、今後は web 等のメディアも活用して、更なる認知度向上を図っていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

漁業者による魚食普及活動

取組主体: 愛知県漁業士連絡協議会 他

連携団体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 9 月 15 日 (土) 他

実施場所: 名古屋市 他

対象及び参加人数: 一般県民 160 名

[取組の内容] キーワード : 漁業士、大学、県民、調理実習、魚食普及

「漁業士」は、模範的な漁業経営を行い地域の指導的な役割を果たす漁業者として、県から認定された方々です。この漁業士関係の団体が、料理教室を中心とした魚食普及活動を長年行っています。

平成 24 年度は、県内 4 箇所で開催しました。


実施日	主催	場所	参加人数
7 月 7 日	愛知県漁業士連絡協議会	日本福祉大学 (美浜町)	47 名
8 月 28 日	愛知県漁業士連絡協議会	名古屋女子大学 (名古屋市)	37 名
9 月 15 日	愛知県漁業士連絡協議会	中日文化センター (名古屋市)	60 名
10 月 5 日	知多地区漁業士協議会	大和幼稚園 (常滑市)	16 名



[活動の成果、今後の課題]

栄養に関する科目を履修している学生や幼稚園児の保護者など、幅広い世代の県民を対象に、魚のさばき方などを講習しました。漁業者自らによる講習に参加者の皆さんも熱心に聞き入り、獲れたての魚のおいしさに驚いておられました。

近年、魚離れが進んでいると言われますが、その理由として「調理の仕方を知らない」「面倒」などが多く挙げられます。少しでも多くの方に本当の魚のおいしさを知っていただくため、今後とも地道な取り組みの継続が必要です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「あいちの農林水産フェア」で地産地消・食育をPR

取組主体: あいちの農林水産フェア
実行委員会

実施時期: 平成24年11月15日(木)～
20日(火)

実施場所: 丸栄 8階 大催事場

対象及び参加人数: 一般県民 入場者数：47,758人

【取組の内容】 キーワード： あいちの農林水産フェア、地産地消、PR

多くの県民が農林水産業に親しみ、県産農林水産物を進んで消費・利用していただくことを目的に、新鮮で、安全・安心な農林水産物や、県産食材を活用した加工食品を広く紹介する「あいちの農林水産フェア」を開催しました。

フェアには55の企業・団体が出展し、味にこだわった高糖度トマトや旬のれんこんなどの農産物を始め、24年度のふるさと食品コンテストで最優秀に選ばれた加工食品など、県産農林水産物及とその加工品が数多く出品されました。イートインコーナーでは、名古屋で揃うのは初めての佐久島の大アサリ井・日間賀島のタコ飯・篠島のしらす井といった「離島の3井」や、地域おこしで頑張っている「瀬戸焼そば」などのご当地グルメも販売され、連日行列ができるほどの賑わいでした。

県の施策を紹介するための主催者企画では、クイズラリーに1,200名の参加があり、効果的に県民の方々へ、農林水産行政を伝えることができました。また、バケツ稲と粃すり、のりの等級あて、バター作り、松ぼっくりの工作などの体験企画や、野菜きしめん、愛とん、エコ畜産物の試食など、日替わりのイベントメニューを充実させたことから、いずれの企画も大変好評でした。



会場内の様子



粃すり体験の実施

【活動の成果、今後の課題】

この取組は、地産地消や食育を広く紹介する良い機会となっています。来場者を対象としたアンケート結果でも、「お気に入りの一品を発見できた。」「新鮮な愛知の農林水産物を購入できた。」「生産者と直接対話できた。」などの回答が寄せられ、来場者の多くが継続して開催することを望んでいることから、県民ニーズの高いイベントとして定着しています。今後もイベント等を通じて、地産地消、食育の普及に努めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知県知事の名刺を使った農林水産物のPR 牛乳編

取組主体: 愛知県酪農農業協同組合酪農教育ファーム推進委員会

連携団体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 10 月 31 日 (水)

実施場所: 知事公館 (名古屋市)

対象及び参加人数: 愛知県知事、関係者等

[取組の内容] キーワード : 牛乳、乳製品、愛知県知事、PR

愛知県知事公館において、愛知県知事の名刺を使った農林水産物のPRという企画がありました。酪農教育ファーム活動の理解及び支援をお願いするとともに、知事及び関係者に牛乳鍋を試食していただき、大村知事写真入りレシピを作成しました。最後に愛知県産牛乳と委員長の伊藤立氏のお店（スイーツ&ジェラテリア「Baroque (バロック)」<http://sg-baroque.com/>) のジェラードを贈呈しました。

詳しくはネット 平成 24 年度楽酪隊 で検索。

http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/edu_farm/H24/rakurakutai-h24rakurakutaitushin.html



[活動の成果、今後の課題]

牛乳の地産地消を推進するにあたり、季節に合わせた新メニューの提案を県とともにPRする事ができました。コラボする事でより多くの人々に知っていただけたかと思えます。

次はこのレシピを元に、どれくらいの方が実際作って食べてみたか？そしてその感想や提案をしていただけるようにして行きたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域	

親子で作る米粉ピザ教室

取組主体: 尾張旭市

連携団体: 尾張旭市アグリ生活研究

実施時期: 平成 24 年 8 月 27 日 (月)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内の小学生及び保護者 16 組

[取組の内容] キーワード : 給食センター、農政講座、親子、米粉ピザ

8 月 27 日 (月) 学校給食センターで農政講座「親子で作る米粉ピザ～夏野菜をたっぷり～」を行いました。


小学生と保護者の親子 16 組が参加し、尾張旭市産の米粉と野菜を使ったピザと豆腐入りヨーグルトムースを作りました。

子ども達からは「生地をこねるのがおもしろい」といった声が聞かれ、できあがったピザは「もちもちしていておいしい」と好評でした。



[活動の成果、今後の課題]

子供たちに調理の楽しさ、大切さを知ってもらうことができました。また市内産の食材を使うことで地産地消の大切さを伝えることもできました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

豊明をおいしく食べよう

取組主体: 豊明市保健センター

連携団体: 豊明食生活改善推進員グループ

実施時期: 平成 24 年 12 月 19 日 (水)

実施場所: 豊明市保健センター

対象及び参加人数: 市内の親子 37 組 (77 人)

[取組の内容] キーワード : 食育紙芝居、地元食材、おにぎり、試食

本事業は市制 40 周年記念事業で、食育推進を目的に実施しました。教室の内容は、食育の紙芝居と豊明でとれる食材の紹介、豊明の食材を使ったおにぎり 2 種と芋きんとんの試食を行いました。

紙芝居は、「いただきます、ごちそうさま」の言葉には、生産者や食材に対する感謝がこめられているという内容のもので、保護者向けにお話をしました。



[活動の成果、今後の課題]

教室後には、参加者から「家ではごはんを食べない子だけれど今日のおにぎりは食べた」、「市でとれた食材を使って家で作ってみたい」などの意見が聞かれました。

今回は食に関心の高い参加者が多かったのですが、今後はあまり食に関心のない人にも幅広く参加してもらえるよう工夫していく必要があると思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

小学生料理教室

取組主体: 長久手市

実施時期: 平成 24 年 毎月第 3 土曜日

実施場所: 長久手市

対象及び参加人数: 市内在住の小学生、各回 20 人

[取組の内容] キーワード：小学生、米粉、調理実習、試食

平成 24 年度は、地元のお米で作った米粉を使った料理を多く盛り込み、市内在住の小学生を対象に簡単な調理実習と試食を行いました。

・実 績


4 月	米粉バナナマフィン	16 人
6 月	ジャガイモと米粉のニョッキ	7 人
7 月	フレンチトースト	16 人
9 月	ホットドック	18 人
10 月	どんどん焼き	12 人
11 月	鬼まんじゅう	20 人
1 月	チョコパイとマシュマロチョコ	12 人
2 月	ピザ	13 人
合 計		114 人



[活動の成果、今後の課題]

4 月当初は包丁の使い方や、材料の混ぜ方も慣れない手つきでしたが、何度も参加するうちに調理道具の使い方にも少しずつ慣れてきた子も見受けられました。

この経験を生かし、家庭でも料理のお手伝いをするきっかけとなればと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

生産者が教える地元農産物を使った料理教室

取組主体: 知多市

連携団体: 農村生活アドバイザー協会知多地域

実施時期: 平成 25 年 2 月 8 日 (金)

実施場所: 知多市

対象及び参加人数: 市内在住者 10 名

【取組の内容】 キーワード： 農村生活アドバイザー、調理実習、地産地消、伝統料理

知多市では毎年、市内の農村生活アドバイザーの協力で、地元農産物を利用した料理教室を開催しています。

今年は伝統的な「おはぎ」を家庭でも手軽に作ってもらおうと、炊飯器を利用した方法を紹介しました。また、炊飯時間を利用して、知多市の特産物であるフキを使った料理も実習しました。


実習の後は、アドバイザーが育てた大豆で作ったみそと野菜を使った豚汁や、自家製の漬物も振舞われ、地元農産物の豊かさに触れながら、意見交換を行いました。



【活動の成果、今後の課題】

調理実習中は下処理や保存方法、意外な調理法など、生産農家ならではの知識も伝えられました。参加者からは今まで一度に食べるには量が多く無駄にすることもあり、あまり購入しなかったが、料理に取り入れやすくなったとの感想がありました。

意見交換も活発に行われ、生産者側と消費者側の良い交流の機会になりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

地元農畜産物を利用した加工品講座

取組主体: 南知多町

連携団体: 南知多農村生活アドバイザー

実施時期: 平成 24 年 6 月 6 日 (水)、
平成 24 年 12 月 5 日 (水)

実施場所: 南知多町

対象及び参加人数: 町内の方 23 名

【取組の内容】 キーワード : 地産地消、食品加工体験、農村生活アドバイザー


農村生活アドバイザーでは、地産地消の普及推進を図るため、地元でとれた安全・安心な農畜産物を利用して、食品加工を体験していただいています。

第 1 回の加工品講座では、カップ寿司、ひじきたっぷり卵の花、あみがさまんじゅう、紅茶のゼリーを、第 2 回の加工品講座では、おせち料理、みかんの寿司めしを作りました。



【活動の成果、今後の課題】

参加された方からは、地元の食材を使った様々な料理の作り方などを体験できると好評でした。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

イチジク料理講習会

取組主体: 碧南市地産地消推進協議会

連携団体: ひまわりクラブ

実施時期: 平成 24 年 10 月 10 日 (水)

実施場所: J A あいち中央碧南中支店

対象及び参加人数: 一般 15 人

[取組の内容] キーワード : 地元農産物、イチジク、農家、交流、講習会

地元の農産物をPRするため、調理方法の情報提供や実習を行い、地産地消を推進しています。

今回は、地元のイチジク農家さんの指導で、家庭で簡単にできるイチジクを使ったおやつ（イチジクのワイン煮、マドレーヌ）を作りました。農家さんには、完熟のイチジクも提供していただき、甘くておいしい生のイチジクも食べました。このほかにも、イチジクをデザインした紙バックも作りました。

参加者のみなさんは、イチジクのおいしい時期や購入方法など、農家さんに熱心に質問し、生産者と消費者の交流も図れました。

参加者は女性ばかりということもあって、和気あいあいとした講習会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

食材がイチジクであることに興味をもった参加者が多かったため、口コミによるPR効果が期待されます。また、地元テレビの取材もあり、イチジクが碧南市の特産であることのPRになったと思います。

参加者からは、「今度はイチジクジャムを作りたい。」「私でも家で簡単にできそうでよかった。」という声が聞かれました。

多くの人に碧南市のおいしいイチジクを食べてもらいたいです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

あさりを使ったアイデア料理コンテストを開催

取組主体: 西尾市

連携団体: 市内中学校、高等学校

実施時期: 平成 25 年 3 月 2 日 (土)

実施場所: 西尾市吉良町公民館

対象及び参加人数: 市内の中高生 (応募数 547) のうち本審査会 7 名

【取組の内容】 キーワード : 中高生、地産地消、アサリ、トマト、料理コンテスト

西尾市の特産物である「あさり」を使った「アイデア料理コンテスト」が開催されました。これは、農畜水産物に恵まれた西尾市の地元食材を使用した料理コンテストを開催することによって、地元産物の消費拡大を図るとともに、地産地消や食育を推進する目的で行われたものです。


3月2日に吉良町公民館でコンテストの本審査会が開催され、市内の中高生からの応募 547 点から書類審査で選ばれた 7 名が調理を競い合いました。

最優秀賞には、素材としてのあさりを見事に活かした「あさりはんペン」、優秀賞には、地元産のトマトとコラボレーションした「Tomato の宝石箱や〜！」が選ばれました。



【活動の成果、今後の課題】

市内の特産物を使った料理を考えることで、地元の食材や地産地消について親しむ良い機会となりました。入賞した作品は、企業等と連携による新商品開発を模索するなど、地域活性化へつなげていけるよう検討していきます。今後もテーマとなる食材を変えながらコンテストを実施していく予定です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育推進紙芝居の読み聞かせ

取組主体: 新城市食育推進実行委員会	連携団体: 食育推進実行委員会、農協、コープあいち
実施時期: 平成 24 年 11 月 10 日 (土)	実施場所: 新城市桜淵公園
対象及び参加人数: 対象制限なし、読み聞かせ来場者 約 200 人	

【取組の内容】 キーワード：食育推進紙芝居、食育推進キャラクター、地産地消、連携

桜淵公園と青年の家で、愛知東農業協同組合とコープあいちが主催の「山と水と緑の協同組合まつり」が開催され、そのなかで、食育推進紙芝居の読み聞かせを実施しました。

この紙芝居は、食育推進キャラクターが登場し、市内の農畜産物を知っていただくことや残さずに食べること、食事のマナーなどをわかりやすく伝えるもので、子供向けに作成したものです。

また、読み聞かせを行いながら食育推進キャラクターのぬりえをぬってもらい、地産地消と食育を伝えました。ぬりえは掲示させてもらうこととし、代わりにキャラクターシールを配布することで、家に帰ってからも家族で話をしてもらえる工夫をしました。



【活動の成果、今後の課題】

掲示したぬりえは 200 枚を超え、参加した子供たちを通して、多くの親にも食育、地産地消を伝えることができるいい機会となりました。紙芝居を活用し、休憩がてら聞いていただけの人もいましたので、子どもから大人までの幅広い年齢層での啓発につながりました。

また、農協とコープあいちとの連携を図ることができましたので、今後、つながりを持ちながら、連携した食育推進になることが期待できます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

自給飼料活用畜産物の普及拡大に向けて

取組主体: 愛知県

連携団体: (社)愛知県園芸振興基金協会

平成 24 年 9 月 5 日 (水) ~

実施時期: 12 月 28 日 (金)

実施場所: 名古屋市 他

対象及び参加人数: 一般消費者

[取組の内容] キーワード : 自給飼料活用畜産物、エコ畜産物、PR

食糧自給率や飼料自給率を向上させるためには、自給飼料の利用を推進する必要がありますが、愛知県では、この課題を解決するため、飼料用稲の作付けを推し進めています。また、飼料用稲を作付ける水田へは家畜の排せつ物を還元し、地域の資源循環にもつなげています。

しかしながら、このような取組により生産された畜産物は価格が割高となってしまうため、消費者の理解醸成が不可欠です。

このため、「自給飼料活用畜産物普及拡大事業」により、県産の飼料用稲を利用した畜産物を『エコ畜産物』として位置付け、消費者に対してPRし、その普及を図りました。

「畜産フェスタ」、「地産地消フェア in 太田川」、「農業総合試験場公開デー」、「あいちの農林水産フェア」等の県内の様々なイベントで、エコ畜産物の試食やたい肥の無料配布を実施しました。

また、エコ畜産物の取組等をまとめたパンフレットの配布やビデオの上映も行いました。

この他、Webには特設サイトを設置し、継続的に情報発信を行っています。


URL:<http://aichi-ecochiku.jp>



[活動の成果、今後の課題]

作成したPRパンフレット15,000部を一般消費者及び県内関係各所へ広く配布しました。各イベントで実施した自給飼料活用畜産物に対する一般消費者の意識調査では、取組に対する励まし、賛同の声を多くいただきました。また、本取組への理解度が高い層ほど価格が増しても購入する割合が高く、家畜糞尿のたい肥利用に賛成意見が多いことが分かりました。

今後もPRパンフレット、PRビデオを活用し、エコ畜産物の積極的なPRと消費拡大を目指していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育推進ボランティア研修会の開催

取組主体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 6 月 26 日 (火)

実施場所: 愛知県東大手庁舎

対象及び参加人数: 食育推進ボランティア、市町村担当者 他 199 名

[取組の内容] キーワード : 食育推進ボランティア、研修会、養鰻業、食育教材

愛知県は、地域に根ざした食育の取組を推進していくため、愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の支援を行っています。その一つとして、平成 24 年 6 月 26 日に食育推進ボランティアの資質向上を目的に研修会を開催しました。

今回の研修会では、食の生産現場から食卓まで一連の流れを理解できるように、「さかな」をキーワードにした研修内容にしました。

第 1 部では、本県の養鰻業をもっと知っていただくため、一色うなぎ漁業協同組合の山本浩二参事より、「ウナギの生産現場から食卓まで」と題して、シラスウナギを獲るところから、餌やり、養殖池の管理、ウナギの加工について、写真を用いて分かりやすく説明していただきました。


第 2 部では、NPO 法人食生態学実践フォーラムの足立己幸理事長より、「魚と人間と環境の循環～『さかな丸ごと探検ノート』の活用に向けて」と題して、「さかな」を例にした教材『おさかな丸ごと探検ノート』を活用した食育推進活動の方法についてお話いただきました。



[活動の成果、今後の課題]

実際に、養殖現場で働いている山本さんのお話で食育推進ボランティアさんたちは興味津々で、「ウナギがどのように育てられ、食卓にのぼるのかの過程が具体的に分かりました」「生産者の大変さがよく分かりました」などの意見が聞かれました。また、探検ノートに対しては、「食の全体を考えることが大切だということを知った。探検ノートを見て、楽しみたい」との感想が聞かれました。

より良い食生活のためには、食の背景や全体像を知ることが大切です。県では食育推進ボランティアさんの育成、活動支援のため、今後もこのような取り組みを続けていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

あいち食育いきいき検定2012を実施しました

取組主体: 愛知県

実施時期: 平成24年6月19日(火)～
平成25年3月9日(土)

実施場所: ウェブサイト

対象及び参加人数:

[取組の内容] キーワード：食育検定、インターネット

県民の皆さんに食に関する知識や関心を深めていただくため、今年度で4回目となる、インターネットを利用した食育検定「あいち食育いきいき検定2012」を実施しました。

昨年度に引き続き、サマー、オータム、ウインターの3期に分けて実施したほか、今年度は、新たに食卓の話題になる、楽しくなるような問題を追加しました。また、近年利用が広がっているスマートフォンでも受検できるようにし、より多くの方が楽しんで知識を身につけられるよう工夫しました。

さらに、「中央卸売市場本場 2012 ふれあい市場まつり」、「あいちの農林水産フェア」などでおためし受検（デモンストレーション）を行い、多くの方に参加して頂きました。

なお、3期の受検者数は15,823人、合格者数は7,712人、合格率は48.7%でした。

《実施状況》

- ◇サマーチャレンジ：6月19日から9月9日（重点出題テーマ：体）
- ◇オータムチャレンジ：9月19日から12月9日（重点出題テーマ：心）
- ◇ウインターチャレンジ：12月19日（重点出題テーマ：環境）



[活動の成果、今後の課題]

今年度は、小学校、中学校、高校、大学などの授業でも実施され、多くの方に受検して頂きました。

受検者からは、「もっとえいようをとったほうがいいと思った（小学生 男性）」、「食の文化や歴史についてはなかなか知る機会も少なく、今回の検定を通して少し知れたのでよかったなあと思います。（大学生 女性）」などの感想が聞かれました。

今後も、多くの方に受検していただき、食に関する知識を深めてもらいたいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

海部地域食育推進ボランティア交流会を開催

取組主体: 愛知県

連携団体: 食育推進ボランティア等

実施時期: 平成 25 年 2 月 5 日 (火)

実施場所: 津島市 (海部総合庁舎)

対象及び参加人数: 海部地域食育推進ボランティア、海部地域食育推進支援会議構成員 32 名

【取組の内容】 キーワード : 食育推進ボランティア、交流

愛知県海部農林水産事務所では、海部地域の食育ボランティア同士の情報交換を行い、食育推進ボランティア同士や他団体との連携による効果的な食育活動を推進するため、愛知県海部総合庁舎で「海部地域食育推進ボランティア交流会」を開催しました。

交流会では、食育推進ボランティアが所属している 5 つのグループから日頃の活動状況を報告してもらいました。津島市健康づくり食生活改善推進協議会は、幼稚園で実施した「食まるファイブ」を用いた食育活動で使用する衣装や小道具をみせながら報告するなどの工夫もあり、とても参考になりました。

意見交換では、料理教室の際の材料について、地元のをできるだけ集まるための工夫方法や食育活動を広げるための方法など、活発な意見交換ができ、今後の食育活動の取り組みに参考になる交流会となりました。



【活動の成果、今後の課題】

今回の交流会を開催した結果、平成 25 年度には JA あいち海部と食育推進ボランティアで連携事業に取り組むことや、来年も同時期に交流会を開催し、意見交換等を行うことなどが決まりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育教材「あいちの食育マップ」制作

取組主体: 公益財団法人愛知県学校給食会

実施時期: 平成 24 年度

対象及び参加人数: 愛知県内小中学校栄養教諭・学校栄養職員

[取組の内容] キーワード : 食育教材、地産地消、栄養教諭・学校栄養職員

学校における食育支援活動を側面から支える取組として、栄養教諭・学校栄養職員を委員とする食育支援検討委員会を設置し、食育支援のための教材「あいちの食育マップ」を制作しました。

この教材は、栄養教諭・学校栄養職員が愛知県内の地場産物の食育指導の際に使用していただくために作成したもので、子どもたちが楽しんで理解できるよう工夫が凝らしてあります。

内容は、A0 サイズの愛知県地図と全国生産量の高い地場農水産物の食品カード 54 品目、指導例等が収められています。また、食品カードの裏面には主な生産地（市町村）、全国順位(シェア)、旬、特徴等が明記してあり、指導しやすい教材です。



[活動の成果、今後の課題]

愛知県内の小中学校の栄養教諭・学校栄養職員全員に配布することにより、より充実した食育指導ができるようになります。今後は、「あいちの食育マップ」をさらに活用できるよう愛知の伝統野菜のカードや地場農水産物を使用した献立カードなど、さらなる充実を図ります。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

みんなで作って食べるとおいしいね「お母さんいつもありがとう」

取組主体: 半田市立半田幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 15 月～平成 25 年 1 月
平成 24 年 12 月 13 日 (木) 親子昼食会

実施場所: 半田市立半田幼稚園

対象及び参加人数: 全園児 111 名 親子昼食会 年長組親子 41 組

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児・保護者、農作業体験、調理、試食、講話

半田市立半田幼稚園では、食育年間計画を学年別に立て「栽培・収穫・料理・試食」を一つの流れとして行っています。また学期ごとに子どもの反応や教師のかかわり方について話し合いをしています。

夏野菜や冬野菜を栽培する中で、植え付けから収穫するまでの間に世話(水やり・草取りなど)をする大変さや大切さを経験させ、野菜にも「命」があることを知らせ、食事を通して野菜の命をいただいていることが理解できるようにしてきました。また、収穫した野菜を「ちぎる、切る、ゆでる、焼く、煮る」などの料理をして食べました。この中で素材の味を知らせるため、生のまま食べたり、料理する時は薄味にしたりするようにしました。自分たちで育てた野菜は、食べる時も大切に食べようとする姿が見られ、嫌いな物も友達に励まされ、食べられる子が多くなりました。年長児は、毎日食事を作ってくれるお母さんへ感謝の気持ちが強くなり、「自分たちが作った野菜料理を食べてもらおう」と話がまとまり、お母さんたちを招待し、自分たちが栽培したトウガンやハクサイ、ダイコンなどを使って「野菜汁」を作りごちそうしました。親子ともに笑顔いっぱいの昼食会になりました。



[活動の成果、今後の課題]

父親も食育に参加していただきたいと考え、父親参観日に、「楽しく食べて心と体を育てる食育」の演目で名古屋短期大学小川雄二教授の講演会を行い、100名を超える父親の参加がありました。食育に対する父親の大切な役割は「何でもおいしく食べている姿を見せること」であるとの話を聞くことができました。また、野菜の働き、食べ方なども栄養教諭や栄養士から親子で話を聞きました。この中で自分の体が食べた物でできていると言われびっくりしている子もいました。今年度、幼児が料理に例年以上にかかわる中で、食事を用意してくれるお母さんに感謝の気持ちが起き「ごちそうしたい」という気持ちが高まり親子昼食会を実現することができました。これからも教師として子どものつぶやきに耳を傾け、食に関心をもてるように子どもたちにかける言葉を考え、援助していきたいと思えます。また、体作りだけでなく、心の育ちを育む食育の活動を家庭と共に続けていこうと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

農業経営士が食による心と体のケアを学ぶ

取組主体: 愛知県農業経営士協会

実施時期: 平成 25 年 2 月 20 日 (水)

実施場所: 名古屋市 (ウインクあいち)

対象及び参加人数: 愛知県農業経営士協会役員 17 名
愛知県農村生活アドバイザー協会役員 2 名

[取組の内容] キーワード : 農業経営者、異業種交流会、食生活、勉強会

愛知県農業経営士協会(知事認定の優れた農業者の団体)は、農業経営者としての視野を広げるため、毎年、様々な分野から講師を招いて異業種交流会を実施しています。

本年度は、食事カウンセラーで栄養士の笠井奈津子先生に講師をお願いしました。笠井先生は食を通じた心と体のケアの専門家として、食生活改善アドバイザーとして企業研修を行ったり、15万部を超えた「甘い物は脳に悪い」(幻冬舎)などを執筆されています。

今回は、「作り手と食べ手を結ぶ食」をテーマとして、昨日1日の食事を振り返りながら都市スタイルの食生活とその問題、食事によるストレス改善について学びました。さらに、参加者が栽培する農産物別に機能性成分の説明と消費者へのPR方法について提案いただきました。



[活動の成果、今後の課題]

自分の栽培する農産物にどんな機能性成分が含まれるのかは知っていても、その成分が体にどう良いのか説明できる農業者は多くはありません。

今回、自分の農産物の機能性成分が、現代の食生活においてどのように有効なのか、またその伝え方について学んだことで、農業経営上も食育の指導者としても有意義でした。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🌱 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

輝きネット・あいちの技人認定式を開催

取組主体: 農村輝きネット・あいち

実施時期: 平成 24 年 8 月 22 日 (水)

実施場所: 愛知県立農業大学校

対象及び参加人数: 輝きネット・あいちの技人認定者及び農村輝きネット・あいち会員 137 名

【取組の内容】 キーワード：輝きネット・あいちの技人、認定

平成 15 年度から、これまでのグループ活動で培い、優れた農業及び暮らしの技術を持ち伝承できるネット会員を「輝きネット・あいちの技人」として認定しています。

平成 24 年度は、8 月 22 日(水)に 10 回目となる認定式を愛知県立農業大学校で開催し、新たに 12 名を認定しました。認定式後、技人の先輩から活動事例を学ぶことや、食育内容をよりよく伝えるための研修会が行われました。

○技人の技術の種類

- (1) 地域の伝統食・郷土食・行事食等農家の食事に関する技術
- (2) 農畜産物の加工に関する技術
- (3) 手工芸に関する技術（わら細工、竹細工、炭焼き等）
- (4) 農業生産及び作業に関する技術
- (5) その他農業・農村の暮らしを向上させる技術



【活動の成果、今後の課題】

輝きネット・あいちの技人の認定者数は 215 名になり、味噌づくりやしめ縄づくりなどを地域住民に伝えたり、小学校等で子どもたちに農産物の栽培方法や伝承料理を教えるなど幅広い活動をしています。

今後も技人の活躍を期待し、認定していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

農とくらしの研究発表大会2013の開催

取組主体: 農村輝きネット・あいち

実施時期: 平成 25 年 1 月 25 日 (金)

実施場所: 愛知県立農業大学校

対象及び参加人数: 農村輝きネット・あいち会員 220 名

【取組の内容】 キーワード : 農村輝きネット・あいち、伝統文化、郷土料理、活動発表大会

「農村輝きネット・あいち」は会員 600 名の農村女性の団体で、農村に伝わる伝統文化や郷土料理を子どもたちや地域の人々に伝承するなどの活動を行っています。

平成 25 年 1 月 25 日 (金)、岡崎市の愛知県立農業大学校で、県内の会員が一堂に会する「農とくらしの研究発表大会 2013」を開催し、事前審査した結果、上位優秀活動 4 グループの事例発表と表彰を行いました。

〈グループ活動成果発表の結果〉

表彰名	グループ名	テーマ
愛知県知事賞	幸田さくらんぼ	筆柿をたくさん消費しよう～地域特産物の付加価値化に取り組んで～
愛知県議会議長賞	一宮市女性農業者会議	地産地消から食農教育活動による地域農業活性化
愛知県農業会議会長賞	野草グループ	食を介した交流の輪の拡大をめざして～「食楽工房やそう」の設立～
農村輝きネット・あいち会長賞	味探検	地域農産物の消費拡大と活動の活性化を目指して



【活動の成果、今後の課題】

この大会を通じて、グループ員の相互研鑽がなされたことにより自分たちの活動を見直し、今後の活動を充実させるよい機会となりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍲 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

わかりやすい健康情報に関する学習会

取組主体: 愛知消費者協会

実施時期: 平成 25 年 2 月 6 日 (水)

実施場所: ウイルあいち

対象及び参加人数: 愛知消費者協会会員 68 名

【取組の内容】 キーワード : 学習会、栄養素の働き、食事バランス

愛知消費者協会では、ヤクルト東海の前崎芳明氏による学習会を開催しました。

学習会では、栄養素の働きは身体をつくる、エネルギーをつくる、働きの調整をするといった内容などを勉強しました。

私たちが摂取した食物等は、人それぞれが持っている消化酵素を使って分解され、吸収されること、それにより、免疫力が付き、健康な体質がつけられること、それには、バランス良く酵素が働くように、バランスの良い食事をとることが、大切であると同時に、腹八分目の食生活を心がけることも大切であると学びました。

溢れる情報にまどわされることなく、上手に利用して正しい知識を身につけることも大切だと思いました。



【活動の成果、今後の課題】

愛知消費者協会は、消費者の利益を保護するため、消費者に対し情報の提供及び啓発活動、並びに意向を行政及び業界に反映し、地域住民の消費者問題の解決と消費生活の向上を図ることを目的としています。

今後も、学習会を積極的に開催し、食と環境について勉強していきたいと思っております。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

竹下和男氏講演会 “弁当の日” が家族を救う！

取組主体: 生活協同組合 コープあいち

実施時期: 平成 24 年 10 月 4 日 (木)

実施場所: 刈谷市総合文化センター
アイリス

対象及び参加人数: 生協組合員及び一般 183 名

[取組の内容] キーワード: 竹下和男氏、弁当の日、講演会

コープあいちでは、平成 24 年度愛知県地域食育推進事業助成対象企画として、『竹下和男氏講演会 “弁当の日” が家族を救う！』を企画しました。

“弁当の日” は子どもたちが自分たちでお弁当を作る取組で、竹下和男氏が香川県滝宮小学校の校長を務められていた 2001 年度からスタートしました。その後、国分寺中学校、綾上中学校でも“弁当の日” の取組を始められ、今や日本全国 47 都道府県の 1064 校が一度は“弁当の日” の取組を行っています。“弁当の日” は最近失われつつある『家族団らん』を取り戻すきっかけになるといわれ、成長力を育むとされています。

講演会は、愛知県、愛知県教育委員会、刈谷市、刈谷市教育委員会、安城市、安城市教育委員会、大府市、大府市教育委員会からの後援をいただき、180 名を超える参加がありました。

URL : <http://www.coop-aichi.jp/member/info2/121022-162002.html>



【活動の成果、今後の課題】

スクリーンに映し出される子どもたちの表情、作られたお弁当など、参加者すべてが竹下氏の講演に引き込まれていました。参加された方々が会場を後にする姿、誰かに頼る食育ではなく、自分自身が取り組めることを実践しようという気持ちが溢れているように見受けられました。

学校が舞台の“弁当の日” ですが、学校でなくても“弁当の日” は出来ることなども学びました。

コープあいちとして、子どもの調理技術の向上につながる活動や、親子の食育活動を積極的にを行い、食育の実践につなげていきたいと考えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

市場まつり等のイベントを活用した食育の普及啓発

取組主体: 名古屋市

連携団体: なごや食育応援隊 他

実施時期: 平成 24 年 10 月 28 日 (日)

実施場所: 名古屋市

対象及び参加人数: イベント来場者 27,000 人

【取組の内容】 キーワード : イベント、市場まつり、なごや食育応援隊、普及啓発

名古屋市では、市場まつり等のイベントを活用して食育の普及啓発を行っております。

今年度も、地域で食育の活動をされている企業、団体等を隊員とするなごや食育応援隊などに働きかけ、ブースを出展するなど食育の普及啓発を実施しました。

<例：10月28日 中央卸売市場本場の市場まつり>

- ・名古屋市 健康増進課等

シールブックを活用したり、顕微鏡を使って食品の色を観察したりするなど、お子さんに食育を学んでいただきました。

- ・なごや食育応援隊等

座学に加えて旬の食材をその場で食べていただく体験型の食育講演会を開催したり、ハーブソルトの作成や、調味料などの匂いあて、農業体験事業の紹介、おなか元気教室などのブースを出展していただきました。



【活動の成果、今後の課題】

市場まつり等のイベントでは、日頃は「食育」に関心のない方も多数来場されるため、「食育」の普及啓発の効果は高いと考えています。そのようなイベントで、行政だけではなく地域で食育の活動をされている企業、団体などとともに、食育ブースを出展できたことは、地域全体での食育推進につながったのではないのでしょうか。

今後もこのような機会を捉えて、また、ネットワークを活用して、積極的に食育を推進してきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	1 食育にかかる人材の育成と活動の充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育番組制作「レッツ食育」

取組主体: 愛知県

連携団体: 豊田市立古瀬間小学校

平成 24 年 10 月 25 日 (木)、
実施時期: 平成 25 年 2 月 4 日 (月)

実施場所: 豊田市

対象及び参加人数: 豊田市立古瀬間小学校児童

[取組の内容] キーワード： 連携企画、小学校、学校保健委員会、食育推進ボランティア、食育放送番組

豊田市立古瀬間小学校では、1年から6年の各学年2~3名ずつから成る「レッツ班」が構成されており、毎月「レッツ活動」が展開されています。10月25日のレッツ活動では、6年生が9月20日の食育講座で食育推進ボランティアから習った内容に、クイズやゲームを交えて下級生に教えるというものでした。

豊田加茂農林水産事務所では、この活動を分かりやすく親しみやすい放送番組とするために、食育推進ボランティアの協力を得て、小学生2人がレッツ活動の内容を家族に話すというドラマ仕立ての脚本を作成しました。

小学校の放送委員会では、この脚本により、2月4日(月)に約6分間の食育放送番組を録音しました。



[活動の成果、今後の課題]

レッツ活動については、小学6年生から、「下級生には、バランスの良い食事を取って欲しい。」というような感想もあり、教えられた下級生にとっても、6年生にとっても、食育の大切さを再認識する良い機会となりました。

今回制作した番組を様々な機会に放送することで、食育推進の一助になればと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食育推進ボランティアが展示物作成・イベントで展示し食育啓発

取組主体: 愛知県 **連携団体:** 市町村食育担当、新城設楽農林水産事務所農政課

実施時期: 平成 24 年 7 月 19 日(木) 7 回 **実施場所:** 新城市 他

対象及び参加人数: 新城設楽地域食育推進ボランティア連携企画参加メンバー10 人

[取組の内容] キーワード : 連携企画、朝食、食育展示、啓発

新城設楽農林水産事務所は、新城設楽地域愛知県食育推進ボランティア連携企画の実施内容を決める検討会を開催し、「がんばるお父さんの朝ご飯見せて」という題名で、6月の「食育月間」、「毎月19日は、おうちでごはんの日」にちなみ、6月19日前後に、管内の市町村長及びJA組合長や新城設楽農林水産事務所長のコメント付き朝食写真を展示し、食育啓発パンフレットも配付しながら食育推進を図りました。

この他にも、7月19日には、食育推進ボランティアと市町村及び新城設楽農林水産事務所農政課の担当者による協同で展示物を作成する作業を行い、8月4,5日に設楽町で開催された「食彩フェスタ」(参加者1万人)や、10月28日に新城市で開催された「新城市健康まつり」(参加者300人)、11月3日に東栄町で開催された「東栄フェスティバル」(参加者1万2千人)、11月10日に新城市内で開催された「山と水と緑の協同組合まつり」(参加者800人)において、作成した展示物の展示や食育推進のパンフレットを配布しました。



食育推進ボランティアによる展示物作成作業



イベント会場での食育展示コーナーの様子

【活動の成果、今後の課題】

新城設楽地域の愛知県食育推進ボランティアは、横の繋がりがほとんどありませんでしたが、ボランティア連携企画の検討会を通しての展示物作成、イベントへの参加で、横の繋がりができてきました。

新城設楽地域で登録されている愛知県食育推進ボランティアは15名います。近年、高齢化が進み管内での登録ボランティア人数の減少が著しく活動ができにくくなってきています。そのため比較的若くてボランティア活動ができる新規登録者を増やすことが課題です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🏠 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子バター作り教室

取組主体: 愛知県酪農農業協同組合

連携団体: 岡崎市保健所生活衛生課

実施時期: 平成 24 年 8 月 24 日 (金)

実施場所: 岡崎元気館

対象及び参加人数: 親子 17 組

[取組の内容] キーワード : 親子、バター作り、酪農家、保健所、連携

岡崎支所酪農青年女性部と岡崎保健所生活衛生課の協働事業として企画され、岡崎の酪農家の長坂さん・栗田さん・青山さんが講師となり、親子参加者 17 組を招いて開催されました。

バターの他にも、「ゴーヤ・バナナ・ミルク」や「カルピスラッシー」を作り、外では搾乳模擬体験ができる模型の「ミセスHカップさん」による搾乳体験も行いました。



[活動の成果、今後の課題]

岡崎市保健所とのコラボする事で、会場の手配や市報での募集と受付等が大変スムーズでした。

地元の酪農家が講師となり、地元の人々に楽しい牛乳の飲み方を提案する。参加者も大変喜んでくれました。

子どもが参加という事で、調理や次の準備などに思った以上に時間がかかり、慌ただしい進行となってしまいました。次回は時間を十分取って、きざむとか混ぜるとかの体験をさせてあげたいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	☀ 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子農業塾で食育活動を実施

取組主体: あいち尾東農業協同組合

連携団体: とにとクラブ

実施時期: 平成 25 年 2 月 2 日 (土)

実施場所: 豊明市

対象及び参加人数: 市内の親子 6 組 14 名

[取組の内容] キーワード : 農協、食育推進ボランティア、連携、親子、農業塾

あいち尾東農業協同組合が主催する「親子農業塾」において、食育推進ボランティアである「とにとクラブ」が連携して、食育活動を実施しました。

取り組み内容は、食育（特に米）クイズ、食事バランスガイドの説明、手ばかりの話、食事のマナー、おはしを使ったゲームなど、盛りだくさんの内容でした。農協から米をもっと食べて欲しいので、米に関する内容でお願いしたいとの依頼を受け、食育推進ボランティアと農協が協力して、クイズを作成しました。子供達が楽しんで食育を学べる内容になるように工夫されていました。

その後、親子農業塾の閉校式を開催し、修了証の授与、参加者の感想の発表などがありました。



[活動の成果、今後の課題]

参加した親子は、クイズ形式で楽しく、自分達の住んでいる豊明市の米や農産物について学ぶことができました。また、食事バランスガイドや手ばかりの話、食事のマナーについても、とても興味深そうに聞いていました。「野菜や田植えができてとても楽しかった。」「色々な体験が出来て良かった。」などの感想を述べていました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

事業者・団体との食育推進協働事業

取組主体: 岡崎市 **連携団体:** 愛知県酪農農業協同組合・岡崎支所酪農青年女性部 始め 5 団体

実施時期: 平成 24 年 8 月 24 日 (金) 他 5 回 **実施場所:** 岡崎市

対象及び参加人数: 市内の親子 17 組 39 名 始め 147 名

[取組の内容] キーワード： 事業者、団体、食育推進協働、親子、調理実習

岡崎市では、様々な食への興味関心をより持ってもらうために事業者及び団体と食育推進協働事業の実施を平成 24 年度から始めました。

平成 24 年度は、愛知県酪農農業協同組合・岡崎支所酪農青年女性部による親子バター作り、三栄鶏卵(株)による卵を使った実験、コープあいち・太田油脂(株)による工場見学と調理実習、岡崎市給食協会による給食の調理実習、愛知学泉大学による血糖に関する講義と調理実習を行いました。

この事業では、それぞれの事業者及び団体が各分野での取組みや知識を生かしていただくことで、お話や体験、見学、クイズ、調理実習などのたくさんの内容で、参加者が食について学習しました。



[活動の成果、今後の課題]

この事業では、実施内容によって親子対象や大人対象にすることで、幅広い年齢層における食育推進につながっていくことが期待されます。

参加者からは普段経験できないような体験や見学ができたり、知らなかった話が聞けたりしてよかったとの声をいただきました。

親子の調理実習では子供に包丁の使い方を教える親の姿や、親の調理姿に興味津々に見ている子供の姿を見ることができ、調理に関心を持つきっかけになることが期待されました。

大人の食育では地元の工場見学の実施や調理実習によって、食の歴史や製品の作り方、新たなメニューを知ることができたとの声が聞かれ、今後の食生活の中に生かされることが期待されます。

今後は、さらなる分野の事業者及び団体と食育推進協働事業を実施していきたいです。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

農家さんとコープあいちが食育企画で連携

取組主体: 知立市 **連携団体:** 食育推進ボランティアグループ・米太郎、コープあいち

実施時期: 平成 24 年 10 月 21 日 (日) **実施場所:** 知立市福祉の里八ツ田

対象及び参加人数: 幼児、児童、保護者、高齢者 延べ 177 名

[取組の内容] キーワード：連携、栄養バランス、野菜、食育紙芝居

平成 24 年 10 月 21 日 (日) に知立市福祉の里八ツ田で開催された「知立市福祉健康まつり」において、女性農業委員によるグループ「米太郎」と「コープあいち」の連携による「食育コーナー」の取組が実施されました。

「食育コーナー」では、バランスの良い食事や野菜の摂取量増加を目指し、①食べ物大切さを伝える「食育紙芝居」(担当:米太郎)、②当日の朝食の栄養バランスをチェックする「食まるコーナー(食まると一緒にバランスチェック!!)」(担当:コープあいち)、③一日に必要な野菜(350g)を選ぶ「野菜の重さ当てクイズ」(担当:市保健センター、県西三河農林水産事務所)が行われました。

特に、〇×クイズを交えておこなわれた食育紙芝居は、「感謝の気持ち」「朝食をしっかり食べる」などの内容を子どもたちに楽しく伝えることができ、大変盛況でした。



[活動の成果、今後の課題]

朝食のバランスチェックでは、チェック後に「今日の夕ご飯は何? 野菜使って。」と母親にお願いする子どももおり、家庭の食事バランスの改善に向けた良い啓発ができたと思われまます。

また、農業者(米太郎)と消費者団体(コープあいち)が得意分野を活かして連携することでき、良い交流の機会となりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍌 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

美術館・図書館・レストランが食育で連携

取組主体: 高浜市

連携団体: 美術館・図書館・レストラン

実施時期: 平成 24 年 7 月～9 月

実施場所: 高浜市

対象及び参加人数: 各所来場者

[取組の内容] キーワード：美術館、図書館、レストラン、連携、食育推進

高浜市では、こども食育推進協議会を設置し、こどもの食育に力を入れて取り組んでいます。

7 月から 9 月にかけて高浜市やきものの里かわら美術館で行われた「やなせたかしの世界展」では、子どもたちに大人気のアンパンマンとその仲間たちが描かれた絵本原画などが展示されました。

食に関する作品が多いことに着目した市立図書館では、この展示に合わせて絵本に登場する料理やおやつが実際に作れるように、こども向けの料理本を集めた「食育コーナー」を設置しました。

同時に、美術館内のフランス料理レストラン O m i では、来館した子どもたちが親子で楽しめるように子ども用メニューをリニューアルしていただきました。

芸術を入口に、読書、調理・お手伝い、共食と食育をテーマに 3 者が連携したことにより、幅広い子育て支援を行うことができました。

美術館とレストランの連携は、その後も継続し、各展覧会の内容に合わせた料理が提供されています。



[活動の成果、今後の課題]

芸術、文化、料理と通常は個々で活動している美術館・図書館・レストランの 3 者が「食育」をテーマにしたことでつながりました。美術館で絵本を見た親子は、図書館に本を借りに行き、「食育コーナー」の本は常時、半分以上が貸出し中となるほど好評でした。多くの親子が家で料理をしてくれたことと思います。レストランでは、この活動を皮きりに各展覧会に合わせた特別メニューの提供が始まりました。

直接「食」に関わらないところも、このような食育の取り組みができることを広く知っていただき、市内の食育活動があらゆる分野で行われるようにしていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍳 食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食農体験講座「*おとわ de 米体験*」

取組主体: 豊川市

連携団体: 音羽米を育てる研究会、
JAひまわり

実施時期: 平成24年8月30日(木)他

実施場所: 豊川市

対象及び参加人数: 市内小学校3~6年生とその保護者 計15名

[取組の内容] キーワード： 地元農家グループ、農協、協働、音羽米、農作業体験

豊川市では、食と農への感謝の気持ちを育むことを目的に、地元農家のグループ「音羽米を育てる研究会」とJAひまわりとの協働事業として、地元ブランド米である「音羽米」をテーマにした食農体験講座を実施しました。

1日目は、研究会の講師の指導のもと、稲刈り・天日干しの農業体験を行い、音羽米の講話を聞いた後、食体験として音羽米の米粉と地元野菜を使った米粉パンケーキの調理実習を行いました。その後、地元農産物直売所（JAひまわりグリーンセンター音羽）のバックヤードと店舗を見学し、収穫した農産物がどのように販売されているか店長から話を聞き、流通についても学習しました。

2日目は、自分で刈った稲の脱穀・粳摺り・精米体験を講師の指導のもとで行い、音羽米のおにぎり作りと地元農畜産物「豊川エコポーク」の啓発・試食（バーベキュー）を行いました。その後、米の流通保管施設（JAひまわりカントリーエレベーター）を見学し、お米ができるまでの流れを学習しました。



[活動の成果、今後の課題]

参加者と生産者の間では、「お茶碗一杯のお米には何株の稲が必要か」、「お米を蒔くと稲になるのか」等の質疑応答が積極的に行われ、関心の高さがうかがわれました。稲刈り体験では、「農家の方はいつも暑い中作業されており大変」、「お米にありがたみを感じた」といった感想も聞かれました。参加した子どもたちは、自分で収穫・精米したお米を大事に抱え、嬉しそうに持ち帰っていきました。

参加者たちは、普段経験することのないお米ができるまでの一連の過程を体験することで、お米本来のおいしさを実感し、安心・安全にこだわってお米を栽培している農家への理解を深めており、食と農への感謝の気持ちを育む貴重な体験となりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	2 関係者の役割分担とネットワークの充実
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

いいともあいち運動の認知度の向上に向けた取組

取組主体: 愛知県

実施時期: 通年

実施場所: 県内

対象及び参加人数: 一般県民、いいともあいちネットワーク会員

[取組の内容] キーワード： いいともあいち運動、農林水産業、シンボルマーク、表示

「いいともあいち運動」とは、私たちの身近にある農林水産業を盛んにし、新鮮な生産物の供給や緑豊かな環境づくりを通じて、より良い暮らしをめざしたい、そんな思いから暮らしと農林水産業の関係をもっと身近なものにしようとする取り組みです。

この「いいともあいち運動」を多くの消費者の方に知っていただくため、米、野菜などの農産物や菓子、漬物、飲料などの加工食品の商品パッケージ等に運動のシンボルマークを表示する取組を進めました。商品にはシンボルマークに加え、「いいともあいち運動（地産地消）を推進しています」などの応援メッセージも添えられており、「いいともあいち運動」の認知度向上に貢献しています。



シンボルマーク

また、11月のいいともあいちキャンペーン月間には、いいともあいちネットワーク会員（生産者団体、食品製造事業者、流通事業者）等が所有する配送トラックや社用車に、県産農林水産物の消費促進をアピールする啓発資材（マグネットシート）を貼付して、県内を走行することで、地産地消の推進や「いいともあいち運動」のPRを行いました。



シンボルマーク表示商品例



トラックに貼付したマグネットシート

【活動の成果、今後の課題】

県産農林水産物を使った商品へのシンボルマーク表示は、87企業・団体が取り組み、339の商品（25年3月末現在）で表示され、また、車両用啓発資材によるPRでは、52企業・団体の社用車等100台にマグネットシートが貼付されました。今後も、いいともあいちネットワーク会員と連携し、いいともあいち運動の消費者への認知度向上に努め、県産農林水産物の利用拡大を進めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食育を支える取組	3 いいともあいち運動の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

平成24年度「農商工連携ビジネスフェア」の開催

取組主体： 愛知県

実施時期： 平成25年2月13日（水）

実施場所： アイリス愛知

対象及び参加人数： 生産者、食品会社、流通関係者等 729名

【取組の内容】 キーワード：農商工連携、商談会

生産者や食品製造業者などが、愛知県産の農林水産物やその加工食品を持ち寄って情報交換や商談を行い、新商品の開発や新たな販路の開拓に取り組む「農商工連携ビジネスフェア」を開催しました（出展者数：80企業・団体）。

展示会では、県産農林水産物（米、キャベツ、ブロッコリー、セルリー、トマト、いちご、みかん、グレープフルーツ、食用小菊、食用サボテン、牛乳、メヒカリ刺身等）や、県産農林水産物の加工食品（畜産加工品（名古屋コーチン製品、猪・鹿ソーセージ、ヨーグルト）、豆腐、佃煮、漬物、味噌、みりん、清酒、菓子、麺類等）の展示・商談を行うとともに、プレゼンテーションとして、5企業・団体が自社の取り組みや商品の紹介を行いました。

また、農林水産物等輸出促進セミナーも開催され、「愛知フェア in 上海」の取組紹介や「あなたも輸出に取り組んでみませんか！」と題した講演等を行いました。



展示会の様子



プレゼンテーションの様子

【活動の成果、今後の課題】

24年度は、情報交換や商談が一層活発に行われるよう、出展者から商談希望先の業種の意向調査を行うとともに、参加者からも申込時に商談等を希望する出展者を聞き、それらの情報を事前に出展者、参加者双方へ提供しており、各ブースにおいて、熱心に情報交換や商談を行っている様子が見られました。

今後も、いいともあいちネットワークを活用した農商工連携の推進などに取り組み、新商品開発や販路の開拓など、愛知県産農林水産物の利用拡大を進めていきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	📌 食育を支える取組	3 いいともあいち運動の推進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

IV まとめ

今回のレポートでは、特集事例を含め、「あいち食育いきいきプラン 2015」に掲げた取組体系 (p.2) に基づき、129 の取組事例を紹介しました。それぞれの取組体系の特徴と課題について、以下にまとめます。

《 食を通じて健康な体をつくるために 31 事例 》



給食を通して園児、小中学生、保護者に栄養バランスを考えて食べることの大切さを知っていただく取組や、男子高校生、高齢者を対象とした調理実習、大学生に栄養バランスの優れた学食を提供するメニュー作りなど、幅広い世代を対象とした取組が多く実施されました。

一方で、食品表示の理解や食中毒の予防法を知るなどの取組が少ないため、今後は、食の安全に関する正しい知識を持ち、安全な食を選択する力を身につける取組を進めていくことが期待されます。

《 食を通じて豊かな心を育むために 50 事例 》



県民による農作業体験や生産者との交流など、食の生産や加工への理解を深め、感謝の気持ちをはぐくむ取組が多く実施されました。このなかには、園児、小学生、地域住民による農作業体験、高齢者向けの料理コンテストなどの継続した取組の他、実物の魚などを使った小学校での出前授業、東日本大震災の経験を生かした非常食作りなど、新たな取組も実施されました。さらに取組を充実させるため、従来の取組の継続に加え、食品製造現場の見学など新しい視点からの取組が期待されます。

《 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために 25 事例 》



県民に地域の特産物を知っていただく取組や、実際に特産物を使用した調理実習など、生産者や団体が主体となった取組が多く実施されました。

一方で、少年・青年期以降において食べ残しや食品の廃棄を減らす取組が少ないため、今後は、少年・青年期以降を対象に「もったいない」意識を持ち、環境に配慮した食生活を実践する取組を進めて行くことが期待されます。

《 食育を支える取組 23 事例 》



食育推進ボランティアの登録や研修、農村輝きネット・あいちの技人の認定、新たな食育教材を活用した栄養教諭・学校栄養職員の育成などの食育の推進活動を担う人材育成の取組が多く実施されました。また、通常は個別に活動している美術館や図書館、レストランの3者が連携した新しい取組も実施されました。

今後も、人材育成や連携事業によるさらなる取組の実施が期待されます。

愛知県食育推進会議

事務局 愛知県農林水産部食育推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 電話 052-954-6396(ダイヤルイン)

「食育ネットあいち」 <http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>

表紙デザイン・監修／愛知県立芸術大学 佐藤直木研究室



Aichi Food Education Report
2013

